



大学ICT推進協議会 2019年度年次大会 ガイドブック

12月12日(木)~14日(土)
福岡国際会議場



2019
AXIES
FUKUOKA

Sponsors

プラチナ協賛



RICOH



ゴールド協賛



協力

GMO べぱぽ

大学ICT推進協議会 2019年度年次大会

会期：2019年12月12日(木)～14日(土)

会場：福岡国際会議場

主催：一般社団法人 大学ICT推進協議会

共催：九州大学情報統括本部
九州大学情報基盤研究開発センター
九州大学サイバーセキュリティセンター

後援：文部科学省
福岡県
福岡市
福岡県教育委員会
福岡市教育委員会
一般社団法人情報処理学会

協賛：シスコシステムズ合同会社（プレミアム）
リコージャパン株式会社（プレミアム）
日本マイクロソフト株式会社（プラチナ）
アドビシステムズ株式会社（ゴールド）
アマゾンウェブサービスジャパン株式会社（ゴールド）

協力：GMOペパボ株式会社



Open & Free Platform

日本初オープン&フリーな クラウド衛星データプラットフォームを体験しよう！

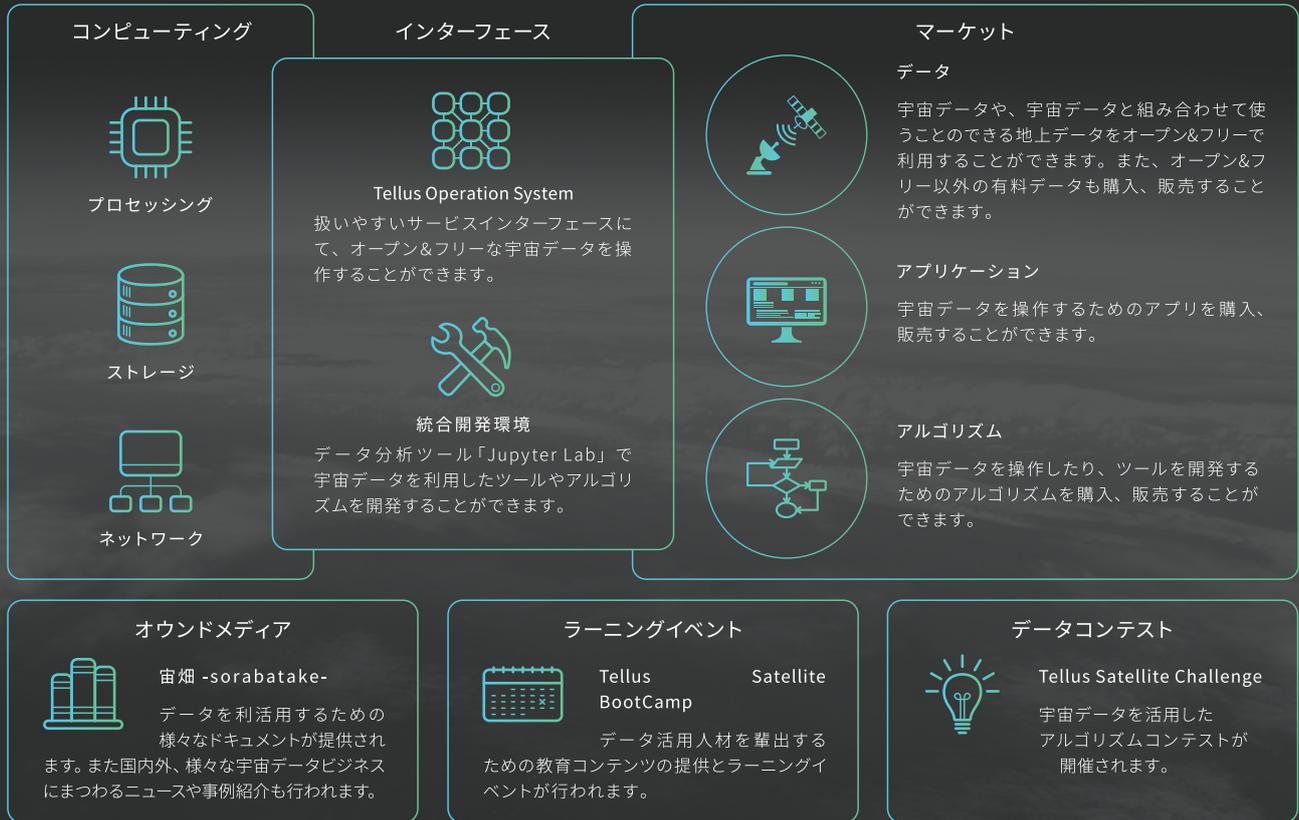
2019.

12.13

会場 **403ルーム**
時間 **10:50-11:50**

本Tellusの講演を行います。またTellusでは衛星データの長期保管のため新世代光ディスクソリューションSonyのODAを採用しております。こちらのご紹介も併せて行います。

Tellus PLATFORM



「Tellus (テルース)」は、産業利用を目的とした日本初の衛星データプラットフォームです。今まで扱いの難しかった衛星データを、民間企業をはじめ研究機関から、大学、個人まで、誰もが手軽に、自由な利用が可能となります。

日本政府は、「宇宙産業ビジョン2030」を掲げており、従来の宇宙機器産業に加え、今後は宇宙利用産業の拡大のための取組

を強化することで、2030年代早期に宇宙産業全体の市場規模の倍増を目指しています。

こうした中、ビッグデータ化する宇宙データの利用拡大の観点から、衛星データプラットフォーム「Tellus」が誕生しました。

オープン化された“データ”をもとに、様々な業種業態から、宇宙由来のデータを活用したビジネスの創出を支援します。

年次大会開催にあたって.....	4
大会委員長、実行委員長あいさつ	5
2019年度年次大会 実行体制	6
会場案内図	8
協賛・協力の御礼	12
セッション一覧.....	13
全体会・イベント	17
一般セッション.....	21
口頭発表	22
ポスター発表	28
企画セッション.....	31
ランチョンセミナー・出展者セミナー	39
展示	45

年次大会開催にあたって

一般社団法人 大学ICT推進協議会 会長

深澤 良彰



大学ICT推進協議会（AXIES）2019年度年次大会の開催に当たり、ご挨拶をさせていただきます。

現代の教育機関を考えてみますと、その情報交換の基礎をなす情報基盤に対して、教育支援システム、研究支援システム、事務支援システム、図書館システムなど多くのシステムが結合され、これらのシステムなしには、教育機関は成立しないと言っても言い過ぎではありません。また、これらからの情報をもとにした経営支援システム、卒業生システムなど、新たに接続されてくるシステムも数多くあります。しかも、その進歩は大きく、次から次へとシステムの更新に迫られているのが現状となっています。

このような現状に対して、2011年2月、一般社団法人大学ICT推進協議会（AXIES：Academic eXchange for Information Environment and Strategy）が設立されました。AXIESは、高等教育機関および学術研究機関におけるICTを利用した教育・研究・経営等の高度化を図り、我が国の教育、学術研究、文化および産業の発展に寄与することを目的としています。本年10月1日現在で、国公私立大学や共同研究機関など120の大学等が正会員として、また、産業界からは69団体が賛助会員としてご参加いただいています。2018年10月の時点では、正会員110機関、賛助会員62団体であったことからしても、このAXIESが、我が国で高く評価されてきていることが見てとれます。これまで、初代会長安浦寛人先生（九州大学）、二代目会長北野正雄先生（京都大学）と学界の重鎮の先生方が会長を務められてきましたが、2019年5月から、私が会長を引き継がさせていただきました。微力ですが、全力を尽くして本協議会の発展のために努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いたします。

第9回年次大会は、2019年12月12日（木）からの3日間、福岡国際会議場（福岡市博多区）で開催されます。この会場は、第1回年次大会が開催された場所で、開催が一巡した記念の大会となります。年次大会では、全体会、企画セッション、一般セッション、企業セミナー、展示会、情報交換会など盛りだくさんな内容となっています。会員が一堂に集まって、高等教育・学術研究機関におけるICT利活用の現状や将来の動向について議論をするとともに、活発な意見交換の場としていきたいと考えております。また、大学の教育改革には、関連する企業との連携が不可欠であり、関連する産業界との交流の場としても、本大会が役立てばと考えています。

ICTを用いて、高等教育・学術研究機関の教育・研究・経営などの高度化やこれらの改革に携わっておられるCIOなどの法人役員、教員、職員など幅広い皆様にご参加いただき、教育・研究の支援技術についてはもちろんのこと、教育や研究の方法論、大学経営のありかた、ICT技術の安全・安心の確保、政府の関連施策の動向、高等教育機関の社会的役割など、幅広い議論が行われる場となることを祈念しております。

最後に、本年次大会の開催にご尽力いただいている九州大学を中心とする皆様、および、日頃から本協議会の運営にご支援いただいている関係者の皆様各位に感謝の意を表したいと思います。

大会委員長、実行委員長あいさつ

大会委員長
安浦 寛人



実行委員長
谷口 倫一郎



ようこそ二度目の福岡へ

2019年度の年次大会は、九州福岡での開催になりました。第1回の年次大会を2011年に福岡で開催し、その後各地で年次大会を開催してきましたが、いよいよ二廻り目ということになりました。遠隔地にも関わらず、今回も、数多くの口頭・ポスター発表、ブース展示、企画セミナーのお申し込みをいただくことができました。発表のお申し込みをいただきましたみなさま、セミナーなどを企画いただきましたみなさま、スポンサーとしてご協力をいただきました各企業のみなさまに、心より御礼申し上げます。二度目の開催とはいえ、1000名を越える参加が見込まれる年次大会の準備に要する複雑さ、作業量は膨大なものであり、お忙しい中ご尽力をいただきました多くの実行委員、事務局のみなさま、前年開催に関わる知見をご提供いただきました北海道大学関係者ほか、関係されるみなさまに、深く感謝申し上げます。

今年も例年に倣って、3日間の会期といたしました。特に最終日を土曜日とすることにいたしました。大学等高等教育機関でICTに従事する教職員の中には週日は本務が忙しく、なかなか年次大会に参加できないという声が上がっていましたので、少しでも多くの方に参加して頂けるよう初めて土曜日にも開催することにいたしました。週末を利用することにはメリット／デメリットがあるかと存じます。今後の年次大会の実施方法などについても、忌憚のないご意見お寄せいただければ幸いです。

また、今回の年次大会の全体会では、EDUCAUSEのJohn O'Brien会長と東京大学の萩谷昌巳先生に基調講演をお願いすることにしました。O'Brien会長にはデジタル倫理の現状についてお話を頂きます。教育に様々な形でICTが利用されるようになってきた今、デジタル倫理は改めて重要な課題となってきました。萩谷先生には、情報教育の今後のあるべき姿に関して総合的な観点から講演をしていただきます。いずれもAXIES関係者にとっては極めて重要な課題です。単に講演を聴講するだけでなく、積極的に質問することによって議論を深め、よりよいICT環境構築に役立てて頂ければと思います。

この度の大学ICT推進協議会2019年度年次大会への参加が、皆様の業務や教育・研究にお役に立てれば幸甚です。本大会において、教育機関や教育情報関連産業の様々な参加者と交流を深めていただくとともに、初冬の福岡をお楽しみ頂ければと思います。

2019年度年次大会実行体制

幹事会

大会委員長	安浦 寛人 (九州大学理事・副学長)
実行委員長	谷口倫一郎 (九州大学システム情報科学研究院 教授)
プログラム委員長	小出 洋 (九州大学情報基盤研究開発センター 教授)
全体会担当責任者	小野 謙二 (九州大学情報基盤研究開発センター 教授)
ネットワーク担当責任者	岡村 耕二 (九州大学情報基盤研究開発センター 教授)
事務総括	伊藤 元業 (九州大学情報システム部)
事務	久志 昇 (九州大学情報統括本部)
AXIES事務局責任者	川内 享 (AXIES事務局)

実行委員会

実行委員長	谷口倫一郎 (九州大学システム情報科学研究院 教授)
副実行委員長	南里 豪志 (九州大学情報基盤研究開発センター 准教授)
プログラム委員長	小出 洋 (九州大学情報基盤研究開発センター 教授)
全体会担当	岡田 義広 (九州大学附属図書館付設教材開発センター 教授)
	金子 晃介 (九州大学サイバーセキュリティセンター 准教授)
広報・Web担当責任者	嶋吉 隆夫 (九州大学情報基盤研究開発センター 准教授)
広報・Web担当	吉田 和幸 (大分大学学術情報拠点 教授)
	奥村 勝 (福岡大学情報基盤センター 教授)
	谷本 輝夫 (九州大学情報基盤研究開発センター 助教)
	王 静芸 (九州大学情報基盤研究開発センター 助教)
	高木早智子 (九州大学情報システム部情報基盤課)
	林 若菜 (九州大学情報基盤研究開発センター)
展示担当責任者	藤村 直美 (九州大学情報基盤研究開発センター 特任教授)
展示担当	渡部 善隆 (九州大学情報基盤研究開発センター 准教授)
	牛尼 剛聡 (九州大学芸術工学研究院 准教授)
	甲斐 郷子 (九州工業大学情報科学センター 准教授)
ネットワーク担当	笠原 義晃 (九州大学情報基盤研究開発センター 助教)
	浦川 伸治 (九州大学情報システム部情報基盤課)
企画担当責任者	南里 豪志 (九州大学情報基盤研究開発センター 准教授)
企画担当	上田 将嗣 (九州大学情報システム部情報基盤課)
	久志 昇 (九州大学情報統括本部)
総務担当責任者	山口 誠 (九州大学情報システム部情報基盤課)
総務担当	上田 将嗣 (九州大学情報システム部情報基盤課)
	平川 新 (九州大学情報システム部情報基盤課)
財務担当責任者	酒見 史博 (九州大学情報システム部情報企画課)
財務担当	久志 昇 (九州大学情報統括本部)
	高木早智子 (九州大学情報システム部情報基盤課)
AXIES事務局責任者	川内 享 (AXIES事務局)
事務委託、論文受付	林 康恵 (有限会社セクレタリアット)
システム等	金 香淑 (有限会社セクレタリアット)

プログラム委員会

委員長	小出 洋 (九州大学情報基盤研究開発センター 教授)
副委員長	布施 泉 (北海道大学)
委員	岡田 義広 (九州大学) 全体会担当
	山田 恒夫 (放送大学) 学術・教育コンテンツ共有流通部会／国際連携担当
	多川 孝央 (九州大学) 教育関係部会リエゾン担当
	嶋吉 隆夫 (九州大学) 広報担当責任者
	藤村 直美 (九州大学) 展示担当責任者
	片桐 孝洋 (名古屋大学) HPC担当
	森村 吉貴 (京都大学) ITベンチマーキング部会
	和田 智仁 (鹿屋体育大学) 情報教育部会
	大西 淑雅 (九州工業大学) オープンソース技術部会
	丹羽 量久 (長崎大学) ソフトウェアライセンス部会
	細川 達己 (慶應義塾大学) 認証連携部会
	西村 浩二 (広島大学) クラウド部会
	稲葉利江子 (津田塾大学) ICT利活用調査部会
	常盤 祐司 (法政大学) 教育技術開発部会
	村瀬 勉 (名古屋大学) 高品質・セキュリティICT部会
	青木 学聡 (京都大学) 研究データマネジメント部会
	森 雅生 (東京工業大学) ORCID部会

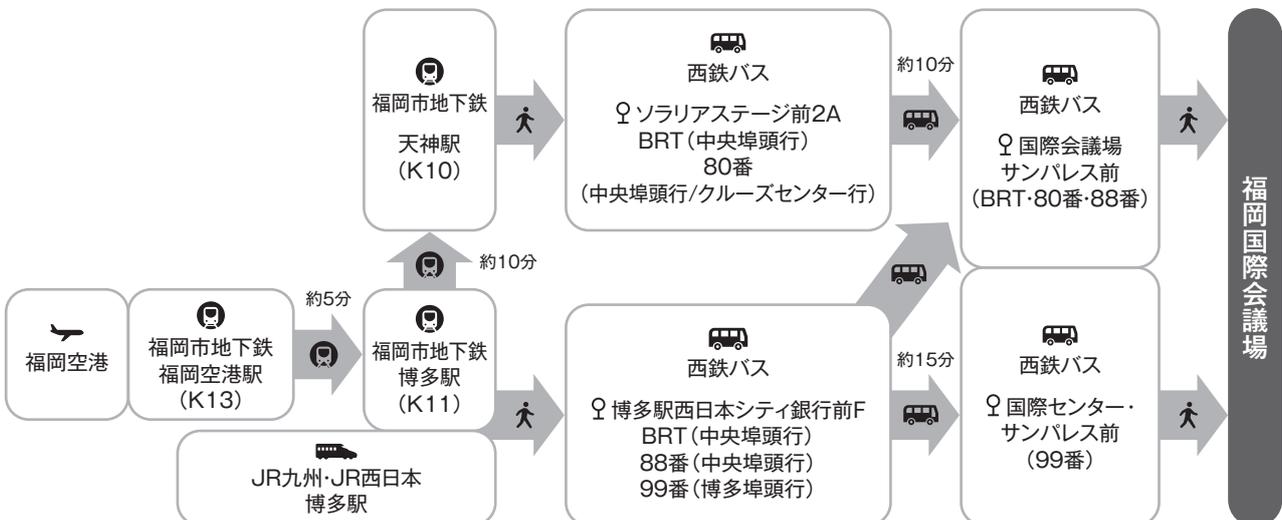
会場案内図

福岡国際会議場

〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町2-1



福岡国際会議場までのアクセス

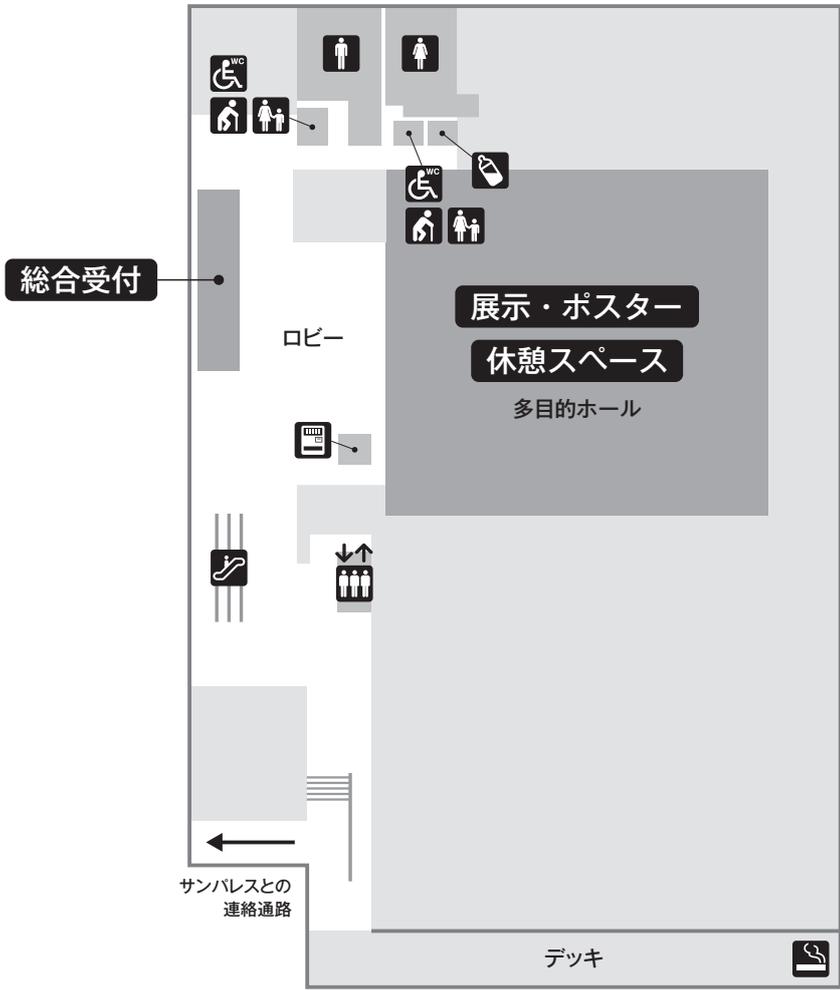


フロアマップ

1F

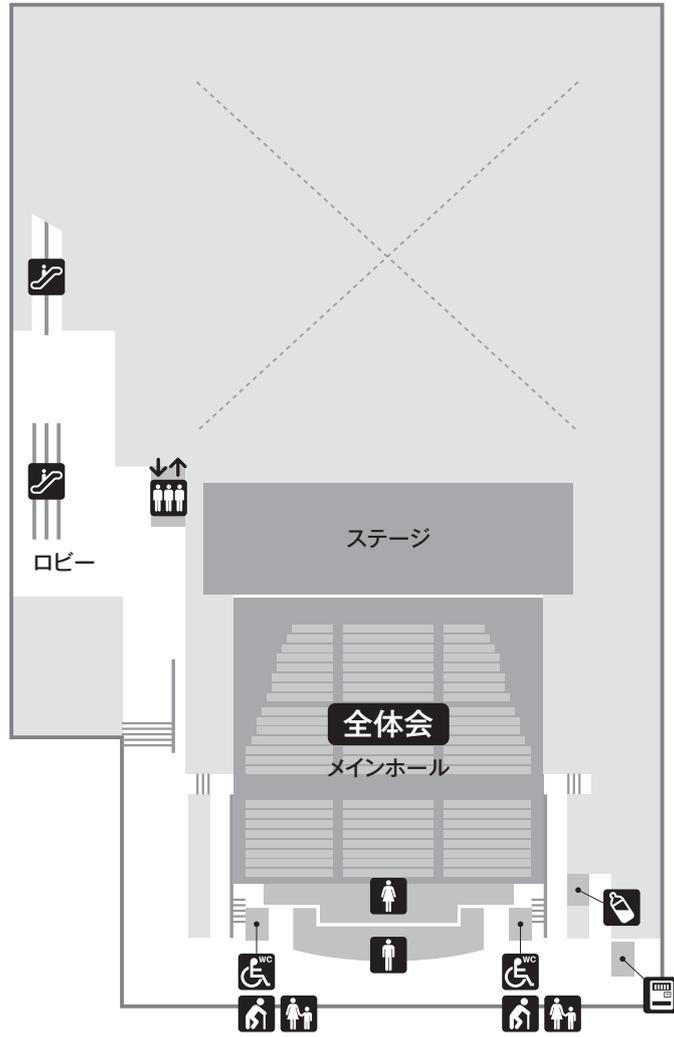


2F

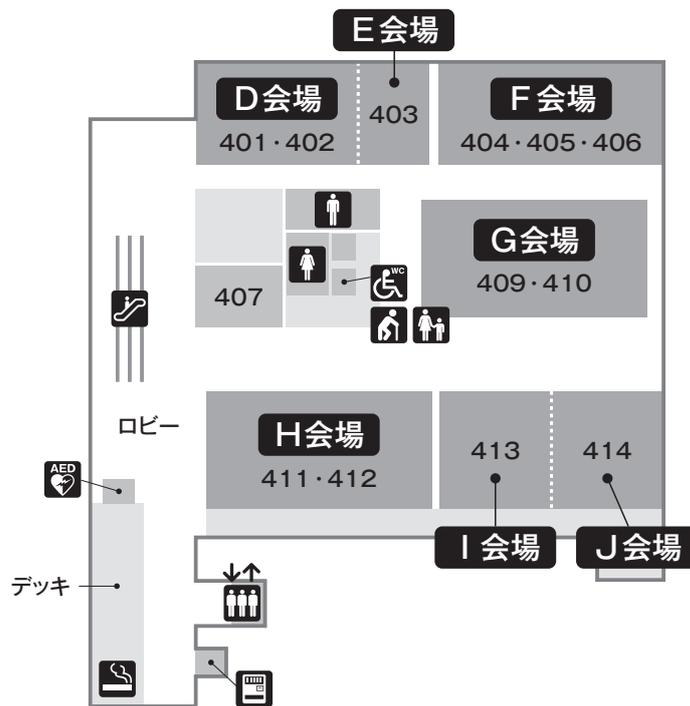


フロアマップ

3F



4F



会場案内図

セッション一覧

全体会・イベント

一般セッション
(口頭発表)

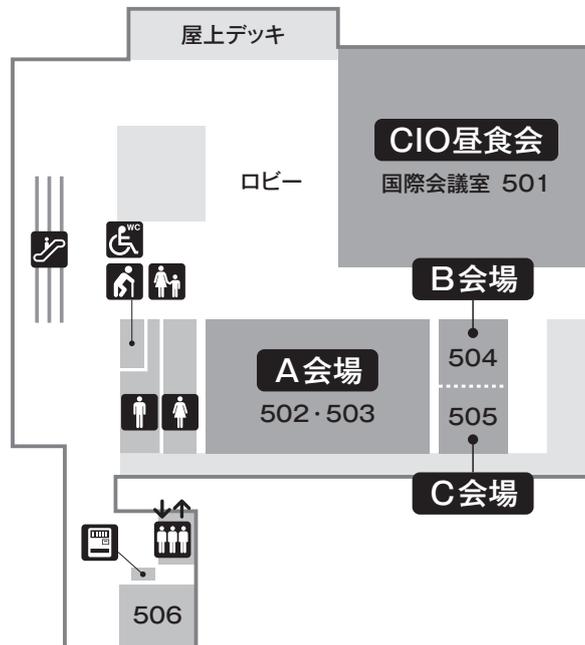
一般セッション
(ポスター発表)

企画セッション

ランチョンセミナー
出展者セミナー

展示

5F



会場のネットワーク（無線LAN）

SSID : FCC_Free_WiFi
パスワード : 不要

国際会議場の無線LANをご利用ください。

参加者アンケートにご協力ください

今回の年次大会の運営に関して、アンケートを実施しています。
皆様のご意見をお聞かせください。

<https://q.s.kyushu-u.ac.jp/rQUw7-5dUc/>

右側のQRコードによりアンケートにアクセスし、ご回答ください。



協賛・協力の御礼

本年次大会開催にあたって、以下の企業の皆様に、協賛、協力いただきました。

シスコシステムズ合同会社には、プレミアム協賛として、全体会のリアルタイム配信における技術者と機器、ならびにIT担当技術者向けのセキュリティハンズオンにおける講師と機器をご提供頂きました。

リコージャパン株式会社には、プレミアム協賛として、各セッション会場で使用するプロジェクタと、その設置のための技術者をご提供いただきました。

日本マイクロソフト株式会社には、プラチナ協賛として協賛金をご提供いただきました。

公益財団法人福岡観光コンベンションビューローには、助成金をご提供いただきました。

アドビシステムズ株式会社には、ゴールド協賛として協賛金をご提供いただきました。

アマゾンウェブサービスジャパン株式会社には、ゴールド協賛として協賛金をご提供いただきました。

GMOペパボ株式会社には、大会Webサイト運営のためのクラウド環境をご提供いただきました。

この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

大会委員長 安浦寛人
実行委員長 谷口倫一郎

セッション一覧

2019年12月12日 (木)

会場案内図

セッション一覧

全体会・イベント

一般セッション
(口頭発表)

一般セッション
(ポスター発表)

企画セッション

ランチョンセミナー
出展者セミナー

展示

		午前1	午前2	昼	午後1	午後2	夜間
		9:10~10:40	11:00~12:30	12:40~13:30	13:45~15:15	15:35~17:05	17:05~19:00
A会場	502-503		出展(TA2) 国立情報学研究所 学認を支える学術基盤の「信頼」とは—フェデレーションからクラウド、研究データ管理まで—		企画(TA4,TA5) NII-SOCSインシデントマネジメント研修		
B会場	504						
C会場	505						
D会場	401-402	一般(TD1) クラウド・業務サービス1	一般(TD2) クラウド・業務サービス2		企画(TD4) 組織のセキュリティポリシーに合致するクラウド環境の作り方		
E会場	403						
F会場	404-406	企画(TF1) 大学ICTのための『ユーザサポート』を考える	一般(TF2) LMS・教育学習支援	ランチョン(TF3) ニュータニックス・ジャパン合同会社 ハイブリッドクラウドを実現するNutanix Enterprise Cloud OS			
G会場	409-410	企画(TG1) 高等教育機関における基盤ソフトウェア等のAXIES正会員向け特別プログラムについて	企画(TG2) わが国における次世代電子学習環境(NGDLE)に向けた取り組み2019:エコシステムと国際標準化	ランチョン(TG3) アマゾンウェブサービスジャパン株式会社 The new normal in Public Sector	企画(TG4) LMSエキスパートの教員は担当する授業でどのようにICTを利用しているのか?		
H会場	411-412	一般(TH1) 情報教育・プログラミング教育	一般(TH2) ICT活用・教育実践1	ランチョン(TH3) アカマイ・テクノロジーズ合同会社 大学の公開ウェブが抱える隠れたサイバーリスクと停止リスク	企画(TH4) EDUCAUSE O'Brien会長と語る大学ICTの将来像		
I会場	413	企画(TI1) 研究データマネジメントの組織的行動への展開	企画(TI2) ITベンチマーキング調査事業中間報告		13:45~14:45 出展(TI4) エクスジェン・ネットワークス株式会社 オープンサイエンス基盤をID管理で実現する有効活用方法と学認SPの活用事例		
J会場	414						
ポスター・展示会場	多目的ホール	ポスター・展示				ポスターセッション コアタイム	オープニング ギャザリング

2019年12月13日 (金)

		午前1	午前2	昼	午後1	午後2	夜間	
		9:00～10:30	10:50～12:20	12:30～13:20	13:40～16:30	16:45～17:45	18:00～20:00	
3階メインホール					全体会			
サンパレス2階							情報交換会	
A会場	502-503							
B会場	504							
C会場	505							
D会場	401-402	一般(FD1) BYOD・情報デバイスの教育への応用	一般(FD2) デジタルコンテンツ・研究データ管理					
E会場	403	9:00～10:00 出展(FE1) 日経BP/日経BPマーケティング これからの大学に必要なAI教育の進め方ー基礎知識のない文科系新入生での実践事例から、全学向けカリキュラムの構築までー	10:50～11:50 出展(FE2) さくらインターネット/プ ラナスソリューションズ Tellus ~政府衛星データのオープン&フリー化及びデータ利用環境整備事業			16:45～17:45 出展(FE5) アカマイ・テクノロジーズ合同会社 フィッシング、標的型攻撃の対策を5分で全校展開 ~DNSに乗せられる脅威インテリジェンス~		
F会場	404-406	企画(FF1) 高等教育機関等におけるICT利活用調査向けWebアンケートシステムの開発	企画(FF2) BYOD活用に向けた無線LAN性能計測	ランチョン(FF3) ユニアデックス株式会社 学校法人青山学院 全学ICT基盤システム最適化とサイバーセキュリティ強化の事例紹介				
G会場	409-410	一般(FG1) HPCテクノロジー1	一般(FG2) HPCテクノロジー2	ランチョン(FG3) 日本マイクロソフト株式会社 全学の学生とあらゆる学習ツールのコラボレーションHubとなる協働学習プラットフォームをMicrosoft 365でセキュアに実現				
H会場	411-412	一般(FH1) ICT活用・教育実践2	企画(FH2) パスワード不要のシンプルで堅牢な認証システム構築に向けて	ランチョン(FH3) レッドハット株式会社 重要性の高まるOSS関連技術と、レッドハットが提供する実践的な教育支援のご紹介				
I会場	413	企画(FI1) Moodleプラグイン開発とAperero Foundationによるオープンスタンダードソリューション	10:50～11:50 出展(FI2) シスコシステムズ合同会社 【シスコユーザ事例/東洋大学様】やり方ひとつで変わるWebexの浸透術/WiFi6と5Gの共存について					
J会場	414	企画(FJ1) 社会人エンジニアのための実践的な情報教育	10:50～11:50 出展(FJ2) アドビシステムズ株式会社 大学における新時代のデジタルクリエイティブ教育について~授業実践報告~			16:45～17:45 出展(FJ5) 富士通株式会社 TOGAF, ArchiMateに基づくシステムインフラストラクチャの図式表現によるITシステム要求要件の明確化、標準化ー京都大学様システムでのモデリング検証ー		
ポスター・展示会場	多目的ホール	展示・ポスター						

会場案内図

セッション一覧

全体会・イベント

一般セッション
(口頭発表)

一般セッション
(ポスター発表)

企画セッション

ランチョンセミナー
出展者セミナー

展示

2019年12月14日 (土)

会場案内図

セッション一覧

全体会・イベント

一般セッション
(口頭発表)

一般セッション
(ポスター発表)

企画セッション

ランチョンセミナー
出展者セミナー

展示

		午前1	午前2	昼	午後1
		9:00～10:30	10:50～12:20	12:30～13:20	13:45～15:15
A会場	502-503	企画(SA1) これからの大学の情報教育	企画(SA2) これからの大学の情報教育		企画(SA4) これからの大学の情報教育
B会場	504				
C会場	505				
D会場	401-402	企画(SD1) 大学の事務用業務システムの現状			
E会場	403	9:00～9:30 出展(SE1) 株式会社クオリティア ローコストで実現可能な最新の標的型攻撃対策～パスワード付きファイルの脅威から情報を守る～	10:50～11:50 出展(SE2) 株式会社内田洋行 大好評!ご利用学校数260校突破!「ウチダのOffice学割」のAXIES正会員向け特別プログラム/大学向けセキュリティ対策ソリューションのご紹介		
F会場	404-406	一般(SF1) 情報教育・サイバーセキュリティ	一般(SF2) サイバーセキュリティ・情報基盤と対策		一般(SF4) 危機管理・CSIRT・ISMS
G会場	409-410	一般(SG1) HPCテクノロジー3		ランチョン(SG3) アラクサラネットワークス株式会社 大学向けネットワークセキュリティソリューション	
H会場	411-412	企画(SH1) 次世代公開教育資源(OER)の展望	企画(SH2) ORCIDの活用と展開	ランチョン(SH3) ソニービジネスソリューション株式会社 研究データ管理実現をサポートする光ディスク「オプティカルディスク・アーカイブ」	
I会場	413	9:00～10:00 出展(SI1) 日本オラクル株式会社 皆に知ってほしい、Javaサポートに関する本当の話/SINET接続でデータ転送なし!!OSS利用にも最適なOracle Cloud	10:50～11:50 出展(SI2) パロアルトネットワークス株式会社 まだEDR? パロアルトネットワークスが推奨するXDRとは		企画(SI4) IT担当技術職向けセキュリティハンズオン
J会場	414	9:00～9:30 出展(SJ1) BlackBoard Japan株式会社、アシストマイクロ株式会社 クラウドベースのMoodleが選ばれている理由	10:50～11:20 出展(SJ2) ジュニパーネットワークス株式会社 BYOD時代にふさわしい先進的な無線LAN～AI/人工知能、データサイエンスと最新クラウドテクノロジーを組み合わせる「つながらない」・「遅い」問題を解決～		
ポスター・展示会場	多目的ホール	展示・ポスター			

全体会・イベント

全体会

日時：12月13日（金）13:40～16:30

場所：福岡国際会議場（3Fメインホール）

1. 会長挨拶

深澤良彰（大学ICT推進協議会会長/早稲田大学教授）

2. 来賓挨拶

3. 大学ICT推進協議会の概要紹介

相原玲二（大学ICT推進協議会副会長/広島大学教授）

4. 基調講演 1

タイトル：2019年のデジタル倫理の現状：興奮、警告、希望（英語講演：日本語通訳あり）

講演者：John O'Brien（EDUCAUSE President & CEO）



講演概要：

技術革新に関する倫理的な懸念は決して新しいものではありません。しかしながら、今日の教育技術革新をめぐる熱狂は、しばしば、微妙で、強力で、時に重大な、倫理上の絡み合いをかくしてしまいます。新興技術がもたらす倫理的副産物についての毎週のように現れるニュースのヘッドライン、プライバシーが"EDUCAUSE 2019 Top 10 IT Issues"の上位に現れていることは、デジタル倫理に関する懸念が強まっている可能性を示すものです。この基調講演で、ジョン・オブライエン氏は、潜在的にはこうした道筋を先導すべき高等教育から、このきわめて挑戦的な状況における興奮、警告、希望について、事例を示し、論じます。

Title："The State of Digital Ethics in 2019：Excitement, Caution, and Hope"

Abstract：

Ethical concerns related to technology innovation are hardly new. Today, however, the hype around educational technology innovation often masks nuanced, powerful, and sometimes grave ethical entanglements. With weekly headlines about ethical ramifications of emerging technologies and the appearance of privacy near the very top of the EDUCAUSE Top 10 IT Issues for 2019, concerns about digital ethics are likely to intensify. In this keynote, John O'Brien will make the case for excitement, caution, and hope in this exceedingly challenging landscape--with higher education potentially leading the way.

5. 2018年度年次大会論文賞等の表彰

6. 基調講演 2

タイトル：いまこそ情報教育革命なのか？（日本語講演：英語通訳あり）

講演者：萩谷 昌巳（東京大学・大学院情報理工学系研究科 教授）



講演概要：

社会からの情報教育への期待は高まるばかりであり、様々な活動が各々の思惑のもとで活発に行われているところであるが、ここ1年か2年が、今後の日本の情報教育の命運を決める極めて重要な時期であることには疑う余地はない。まさに、情報教育革命が起きようとしているのではないか。いや、そうでないとするならば、情報教育革命を起こすべきではないか。社会全体として情報人材をどのようなポートフォリオで育成すべきかを考えて、日本の教育の特質を押さえたうえで、専門教育と一般教育の兼ね合い、大学入試の役割、統計教育との協働、学校教育と私的な教育の関係、生涯教育の位置づけと実現方法、MOOCの活用など、これらの課題を総合的に解決するような情報教育全体の革命を起こさねばならない。

7. 2020年度年次大会のご案内

下條真司（大阪大学サイバーメディアセンター長・教授）

論文賞

【最優秀論文賞】

題目：大学活動におけるストーリーミング配信プラットフォームの活用
著者：玉造 潤史（東京大学）、本城 剛毅（東京大学）、下見 淳一郎（東京大学）

【優秀論文賞】

題目：フレッツ回線を利用したキャンパス間通信のバックアップ手法とその実践
著者：近堂 徹（広島大学）、吉田 朋彦（広島大学）、西村 浩二（広島大学）、相原 玲二（広島大学）

【優秀論文賞】

題目：ネットワークログを用いたセキュリティアップデート支援システムの試作
著者：田島 浩一（広島大学）、岸場 清悟（広島大学）、近堂 徹（広島大学）、渡邊 英伸（広島大学）、岩田 則和（広島大学）、西村 浩二（広島大学）、相原 玲二（広島大学）

【優秀論文賞】

題目：「トラフィック情報提供システム」の機能強化
著者：細川 達己（慶應義塾大学）、金子 康樹（慶應義塾大学）

ポスター賞

【最優秀ポスター賞】

題目：システム利用情報を活用した学生見守りシステムの構築
著者：矢野 孝三（麗澤大学）、大塚 秀治（麗澤大学）、岡田 雅文（株式会社富士通エフサス）、西田直人（株式会社富士通エフサス）、大石 岬（株式会社富士通エフサス）、伊庭野 維生（株式会社富士通エフサス）、高井 正志（株式会社富士通エフサス）、山野 大偉治（株式会社富士通エフサス）

【優秀ポスター賞】

題目：手書きレポートとLMSの連携を実現する名大版紙レポシステムの全学運用
著者：出口 大輔（名古屋大学）、清谷 竣也（名古屋大学）、大平 茂輝（名古屋大学）、戸田 智基（名古屋大学）

■ オープニングギャザリング

日時：2019年12月12日（木）17:05～19:00
場所：福岡国際会議場 2階 展示・ポスターセッション会場（多目的ホール）
申込/会費：不要

■ 情報交換会（懇親会）

日時：2019年12月13日（金）18:00～20:00
場所：福岡サンパレスホテル 2階 パレスルームほか
申込/会費：会場定員に余裕がある場合は当日参加を受け付けます。
（当日受付の参加費はお一人様 5,000円）

■ CIO部会

日時：2019年12月13日（金）10:00～12:00
場所：福岡国際会議場 5階 A会場（502-503）

9:30～10:00 CIO部会受付
10:00～10:30 CIO部会会議
10:30～12:00 CIO向け講演会（パネルディスカッション）
「本音で語る大学における情報環境の現状・課題・将来像」

■ CIOと出展企業との昼食会

日時：2019年12月13日（金）12:20～13:20
場所：福岡国際会議場 5階 501会議室（国際会議室）
内容：CIO部会メンバーと出展企業、賛助会員との昼食会

■ 理事会

日時：2019年12月13日（金）16:40～17:40
場所：福岡国際会議場 5階 504会議室

一般セッション

口頭発表

TD1 クラウド・業務サービス1

日時：2019/12/12 9:10～10:40 場所：D会場（401-402） 座長：長谷川孝博（静岡大学）

TD1-1 マルチクラウドを活用したグループウェア環境の構築 —クラウド連携の要となるサブシステムの要件定義，設計，結合テスト—
○戸田庸介（京都大学情報環境機構）、宮部誠人（京都大学情報環境機構）、高岸岳（京都大学情報環境機構）、朝尾祐仁（京都大学情報環境機構）、澤田浩文（京都大学情報環境機構）、岡田悦子（京都大学情報環境機構）、栗川和巳（京都大学情報環境機構）、古村隆明（京都大学情報環境機構）、永井靖浩（京都大学情報環境機構）

TD1-2 京都大学における業務系システムのクラウドへの全面移行に至る経緯と移行概要 —過去の経緯と課題および全面移行の結果—
○永井靖浩（京都大学情報環境機構）、岡田悦子（京都大学情報環境機構）、宮部誠人（京都大学情報環境機構）、澤田浩文（京都大学情報環境機構）、戸田庸介（京都大学情報環境機構）、朝尾祐仁（京都大学情報環境機構）、栗川和巳（京都大学情報環境機構）

TD1-3 クラウドサーバーサービスAIオプションの活用によるeラーニングシステムへの機能追加アプローチ（2017年大学CIOフォーラム紹介事例アップデート）
○角井博則（北海道大学大学院工学研究院工学系教育研究センター）

TD1-4 BCP/DRのためのクラウド導入検討
○小林久美子（国立情報学研究所）、岸達也（国立情報学研究所）、吉田浩（国立情報学研究所）、合田憲人（国立情報学研究所）

TD1-5 九州大学における電子メールサービスのExchange Online移行
○笠原義晃（九州大学）、嶋吉隆夫（九州大学）、宮口忠幸（九州大学）、藤村直美（九州大学）

TH1 情報教育・プログラミング教育

日時：2019/12/12 9:10～10:40 場所：H会場（411-412） 座長：常盤祐司（法政大学）

TH1-1 2010～2019年度新入学生の情報教育に関する意識調査
○篠政行（駒沢女子大学メディア表現学科）、スワット・チャロンニボンワーニッチ（文化学園大学教育学・体育学研究室）

TH1-2 大阪大学における反転学習的アプローチを用いた一般情報教育科目の開発
○白井詩沙香（大阪大学）、長瀧寛之（大阪電気通信大学）、アリザデ メラサ（大阪大学）、竹村治雄（大阪大学）

TH1-3 授業での初学者用プログラミング学習支援環境における学習者状況の可視化
○布施泉（北海道大学）、中原敬広（合同会社三玄舎）

TH1-4 初年次教育におけるScratchとロボットを活用したプログラミング学習の取り組み
○矢野弘（創価大学大学院工学研究科）、崔龍雲（創価大学大学院工学研究科）、篠宮紀彦（創価大学大学院工学研究科）

TH1-5 共通教育における教養科目としてのプログラミング入門
○石黒克也（高知大学学術情報基盤図書館）、佐々木正人（高知大学学術情報基盤図書館）、佐々浩司（高知大学学術情報基盤図書館）

TH1-6 学習経済におけるコンピテンシーに基づく教育
○堀真寿美（NPO法人CCC-TIES）、小野成志（NPO法人CCC-TIES）、宮下健輔（京都女子大学）、喜多敏博（熊本大学）

TD2 クラウド・業務サービス2

日時：2019/12/12 11:00～12:30 場所：D会場（401-402） 座長：笠原義晃（九州大学）

TD2-1 AXIESによる包括したアプリケーション利用環境構築の構想
○丹羽量久（長崎大学）、鈴木斉（長崎大学）、上繁義史（長崎大学）、中村修（慶應義塾）、藤村直美（九州大学）

TD2-2 京都大学教職員用メールSaaS移行の経緯，移行プロセスの詳細，現状の運用と課題
○宮部誠人（京都大学情報環境機構）、戸田庸介（京都大学情報環境機構）、南部博明（京都大学情報環境機構）、岡田悦子（京都大学情報環境機構）、栗川和巳（京都大学情報環境機構）、針木剛（京都大学情報環境機構）、赤坂浩一（京都大学情報環境機構）、永井靖浩（京都大学情報環境機構）

TD2-3 旅行伺提出フォーム及び共同利用支援システムの開発

○鳥袋友里（京都大学企画・情報部情報基盤課情報支援掛）、平井康博（複合原子力科学研究所技術室）

TD2-4 Amazon AWSを用いたRStudio Server環境構築の必要性に関する予備的な報告

○宇都宮謙（長崎大学経済学部）

TD2-5 eduroamの認証要求の集中による過負荷事象の発生と対策実施について

○山崎國弘（静岡大学情報基盤センター）、磯部千裕（株式会社アバンセシステム）、永田正樹（静岡大学情報基盤センター）

TF2 LMS・教育学習支援

日時：2019/12/12 11:00～12:30 場所：F会場（404-406） 座長：布施泉（北海道大学）

TF2-1 Moodle用Kalturaプラグインの更新と機能拡張

○齊藤智也（山口大学メディア基盤センター）、王躍（山口大学メディア基盤センター）、西村世志人（山口大学メディア基盤センター）、末長宏康（山口大学メディア基盤センター）、金山知余（山口大学メディア基盤センター）、大平康旦（山口大学メディア基盤センター）、爲末隆弘（山口大学メディア基盤センター）、江口毅（山口大学メディア基盤センター）、今岡啓治（山口大学メディア基盤センター）、久長稜（山口大学メディア基盤センター）、多田村克己（山口大学メディア基盤センター）

TF2-2 京都大学におけるLearning Management Systemを利用した、留学生を対象とする日本語プレースメントテストの支援と現状について

○外村孝一郎（京都大学企画・情報部）、パリハワダナ ルチラ（京都大学国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター）、梶田将司（京都大学情報環境機構IT企画室）

TF2-3 一般情報教育におけるLINE-Bot型クイズシステムの試用

○喜多一（京都大学）、日置尋久（京都大学）、中津亨（京都大学）、酒井博之（京都大学）、岡本雅子（京都大学）、池田佳代（NTTコミュニケーションズ株式会社）、加古達也（NTTコミュニケーションズ株式会社）、鈴木聡介（NTTコミュニケーションズ株式会社）、吉川昌吾（NTTコミュニケーションズ株式会社）

TF2-4 MOOC・SPOCを核とした持続的な教育改善・質的向上をどう実現するか

○山田剛史（京都大学高等教育研究開発推進センター）、勝間理沙（京都大学高等教育研究開発推進センター）、長沼祥太郎（九州大学教育改革推進本部）、岡本雅子（京都大学高等教育研究開発推進センター）、酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター）

TF2-5 ビジネスゲームにおけるマルチタスクの発生が学生の意識に与える影響に関する考察

○立野貴之（松蔭大学）、館秀典（東京福祉大学）

TH2 ICT活用・教育実践1

日時：2019/12/12 11:00～12:30 場所：H会場（411-412） 座長：稲葉利江子（津田塾大学）

TH2-1 神戸から配信する遠隔インタラクティブ講義「計算生命科学の基礎」2018年度報告

鈴木洋介（神戸大学計算科学教育センター）、渡邊博文（神戸大学計算科学教育センター）、石野麻由子（神戸大学計算科学教育センター）、土井陽子（理化学研究所生命機能科学研究センター）、倉仁美（神戸大学計算科学教育センター）、江口至洋（神戸大学学術・産業イノベーション創造本部）、田中成典（神戸大学計算科学教育センター）、鶴田宏樹（神戸大学学術・産業イノベーション創造本部）、白井剛（長浜バイオ大学バイオサイエンス学部）、森一郎（神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科）、伊藤眞里（医薬基盤・健康・栄養研究所バイオインフォマティクスプロジェクト）、白井英之（神戸大学計算科学教育センター）、○横川三津夫（神戸大学計算科学教育センター）

TH2-2 キャンパス無線eduroamと次世代ホットスポットの最新動向

○後藤英昭（東北大学）、原田寛之（札幌学院大学）、中村素典（京都大学）

TH2-3 ストリーミング配信プラットフォームを利用したバーチャルオープンキャンパスの試行

○玉造潤史（東京大学）、丸山美紀（東京大学）、本城剛毅（東京大学）、下見淳一郎（東京大学）

TH2-4 京都大学における授業用仮想デスクトップの現状と課題

○岡島賢一郎（京都大学）、石井良和（京都大学）、久保浩史（京都大学）、植木徹（京都大学）、梶田将司（京都大学）

TH2-5 立正大学における教育系ネットブート端末のリプレイスについて

○菅野智文（立正大学情報環境基盤センター）、小林剛史（立正大学情報環境基盤センター）、青木和昭（立正大学地球環境科学部）、中尾圭子（立正大学情報環境基盤センター）、藤村綾（立正大学情報環境基盤センター）、澤村義紀（立正大学情報環境基盤センター）、小林幹（立正大学情報環境基盤センター）

FD1 BYOD・情報デバイスの教育への活用

日時：2019/12/13 9:00～10:30 場所：D会場（401-402） 座長：金子晃介（九州大学）

FD1-1 必携PCでの活用を想定したアプリケーション仮想化システムの実用性検証

○林豊洋（九州工業大学情報科学センター）、戸田哲也（九州工業大学情報科学センター）、富重秀樹（九州工業大学情報科学センター）、畑瀬卓司（九州工業大学情報科学センター）、真田実（パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社）、甲斐郷子（九州工業大学情報科学センター）、久代紀之（九州工業大学大学院情報工学研究院）

FD1-2 Raspberry Pi 3を活用した情報教育の可能性

○土肥紳一（東京電機大学）

FD1-3 鹿屋体育大学におけるタブレット必携化の状況：第2報

○和田智仁（鹿屋体育大学）、中村勇（鹿屋体育大学）、隅野美砂輝（鹿屋体育大学）、幾留沙智（鹿屋体育大学）、高橋仁大（鹿屋体育大学）

FD1-4 M5StackとWeb Bluetooth APIを用いた安価な出席登録システムの試作

○三好康夫（高知大学）、高畑貴志（高知大学）

FD1-5 京都大学におけるShibboleth IdPのICカード対応と災害対策の取り組み

○中井隆史（京都大学情報環境機構）、針木剛（京都大学情報環境機構）、片桐統（京都大学情報環境機構）、石橋由子（京都大学情報環境機構）

FD1-6 BYOD環境利用を促進するための全学共通情報基礎科目ICT基礎aにおける授業支援のありかた

○尾崎拓郎（大阪教育大学）、佐藤隆士（大阪教育大学）、片桐昌直（大阪教育大学）

FG1 HPCテクノロジー1

日時：2019/12/13 9:00～10:30 場所：G会場（409-410） 座長：中島研吾（東京大学）

FG1-1 タイルディスプレイシステムChOWDERの超大規模画像データ表示機能とその応用事例

○川鍋友宏（国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究センター）、小野謙二（九州大学情報基盤研究開発センター）、櫻井大督（九州大学情報基盤研究開発センター附属汎オミクス計測・計算科学センター）

FG1-2 北海道大学情報基盤センター 新スーパーコンピュータシステム利用者からの問い合わせ分析

○吉川潤（北海道大学総務企画部情報企画課）、更科高広（北海道大学総務企画部情報企画課）、吉川浩（北海道大学総務企画部情報企画課）、金子修己（北海道大学総務企画部情報企画課）、岩崎誠（北海道大学総務企画部情報企画課）、折野神恵（北海道大学総務企画部情報企画課）、岩船歩美（北海道大学総務企画部情報企画課）、深谷猛（北海道大学情報基盤センター）、岩下武史（北海道大学情報基盤センター）

FG1-3 三次元可視化システムと可視化事例の紹介

○齋藤敦子（東北大学情報部情報基盤課）、山下毅（東北大学情報部情報基盤課）、小野敏（東北大学情報部情報基盤課）、大泉健治（東北大学情報部情報基盤課）、江川隆輔（東北大学サイバーサイエンスセンター）、滝沢寛之（東北大学サイバーサイエンスセンター）

FG1-4 OCTOPUSのクラウドバースティング拡張

○伊達進（大阪大学）、片岡洋介（日本電気株式会社）、五十木秀一（日本マイクロソフト株式会社）、勝浦裕貴（大阪大学）、寺前勇希（大阪大学）、木越信一郎（大阪大学）

FG1-5 OCTOPUS上における既存サービスと共存したDockerによる資源提供環境の構築

○渡場康弘（大阪大学サイバーメディアセンター）、李天鎬（大阪大学サイバーメディアセンター）、伊達進（大阪大学サイバーメディアセンター）

FH1 ICT活用・教育実践2

日時：2019/12/13 9:00～10:30 場所：H会場（411-412） 座長：山口真之介（九州工業大学）

FH1-1 データサイエンス教育における講義・演習環境の構成例

○横山重俊（群馬大学）、浜元信州（群馬大学）、長久勝（ライフマティックス株式会社）、政谷好伸（国立情報学研究所）、竹房あつ子（国立情報学研究所）、合田憲人（国立情報学研究所）

FH1-2 Webページ上で動作するタッチタイピング練習プログラム

○野村卓志（静岡文化芸術大学文化政策学部）、野村恵美子（静岡理工科大学情報学部）

- FH1-3 全学電子掲示板のHTML5を利用したWebベースサイネージへのマイグレーション**
○山崎國弘（静岡大学情報基盤センター）、磯部千裕（株式会社アバンセシステム）、永田正樹（静岡大学情報基盤センター）
- FH1-4 立正大学におけるAV教室の「小さなデジタル化」から将来展望まで**
○菅野智文（立正大学情報環境基盤センター）、澤村義紀（立正大学情報環境基盤センター）、羽鳥敦士（立正大学学長室広報課）、藤村綾（立正大学情報環境基盤センター）、中尾圭子（立正大学情報環境基盤センター）、小林剛史（立正大学情報環境基盤センター）、小林幹（立正大学情報環境基盤センター）
- FH1-5 院内学級におけるモバイル機器、TV会議システムによる台湾文化理解授業**
○山本裕一（北海道大学）、佐藤修（国際交流基金ベトナム日本文化交流センター）、小柳千佳子（札幌市立北辰中学校ひまわり分校）、濱田和（大阪大学医学部附属病院分教室）、佐藤聖子（関西医科大学総合医療センター分教室）、竹内厚志（関西医科大学総合医療センター分教室）、西牧謙吾（国立障害者リハビリテーションセンター病院）
- FH1-6 演習系科目における授業配信に対する、学習者の意識調査とシステム設計**
○坪倉篤志（日本文理大学）、松永多苗子（日本文理大学）、福島学（日本文理大学）

FD2 デジタルコンテンツ・研究データ管理

日時：2019/12/13 10:50～12:20 場所：D会場（401-402） 座長：多川孝央（九州大学）

- FD2-1 出席確認端末の更新に伴うICカード読み取りアプリの開発**
○齊藤智也（山口大学メディア基盤センター）、爲末隆弘（山口大学メディア基盤センター）、久長穰（山口大学メディア基盤センター）、王躍（山口大学メディア基盤センター）、西村世志人（山口大学メディア基盤センター）、末長安康（山口大学メディア基盤センター）、金山知余（山口大学メディア基盤センター）、大平康旦（山口大学メディア基盤センター）、江口毅（山口大学メディア基盤センター）、今岡啓治（山口大学メディア基盤センター）、多田村克己（山口大学メディア基盤センター）
- FD2-2 RPAの学生支援における活用 —BizRobo!による就職情報サイトのスクレイピング—**
○田中健吾（香蘭女子短期大学）
- FD2-3 研究支援部署間の相互理解を目的とした研究事業の実施記録のメタデータ管理手法の検討**
○清重周太郎（北海道大学附属図書館 研究開発室）、三上絢子（北海道大学附属図書館 研究開発室）、込山悠介（国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター）、長谷川晃（北海道大学附属図書館）
- FD2-4 京都大学オープンコースウェアのコンテンツ制作の現状と教育的利用促進に関する一考察**
藤岡千也（京都大学高等教育研究開発推進センター）、○緒方孝亮（京都大学高等教育研究開発推進センター）
- FD2-5 京都大学教育研究活動データベースの現状と課題**
○梶原弘貴（京都大学情報環境機構）、澤田浩文（京都大学情報環境機構）、赤坂浩一（京都大学情報環境機構）、渥美紀寿（京都大学情報環境機構）、青木学聡（京都大学情報環境機構）
- FD2-6 On-premises Content Collaboration Platformsの更改**
○太田憲治（東北大学電気通信研究所 やわらかい情報システムセンター）

FG2 HPCテクノロジー2

日時：2019/12/13 10:50～12:20 場所：G会場（409-410） 座長：伊達進（大阪大学）

- FG2-1 Oakbridge-CXスーパーコンピュータシステムの運用**
○下條清史（東京大学情報システム部情報基盤課スーパーコンピューティングチーム）、宮崎洋（東京大学情報システム部情報基盤課）、田川善教（東京大学情報システム部情報基盤課スーパーコンピューティングチーム）、山本和男（東京大学情報システム部情報基盤課スーパーコンピューティングチーム）、佐島浩之（東京大学情報システム部情報基盤課スーパーコンピューティングチーム）、佐藤孝明（東京大学情報システム部情報基盤課スーパーコンピューティングチーム）、中張遼太郎（東京大学情報システム部情報基盤課スーパーコンピューティングチーム）、山田新（東京大学情報システム部情報基盤課スーパーコンピューティングチーム）
- FG2-2 ピアレビューによる評価の一致度の統計的分析方法**
○峯尾真一（高度情報科学技術研究機構）

FG2-3 利用者向けサービスの運用状況について

○田島嘉則（名古屋大学情報連携統括本部情報推進部情報基盤課情報基盤グループ）、山田一成（名古屋大学情報連携統括本部情報推進部情報基盤課情報基盤グループ）、毛利晃大（名古屋大学情報連携統括本部情報推進部情報基盤課情報基盤グループ）、高橋一郎（名古屋大学情報連携統括本部情報推進部情報基盤課情報基盤グループ）、片桐孝広（名古屋大学情報基盤センター大規模計算支援環境研究部門）、大島聡史（名古屋大学情報基盤センター大規模計算支援環境研究部門）、永井亨（名古屋大学情報基盤センター大規模計算支援環境研究部門）

FG2-4 Society 5.0実現に向けた（計算+データ+学習）融合

○中島研吾（東京大学情報基盤センター）、埜敏博（東京大学情報基盤センター）、伊田明弘（東京大学情報基盤センター）、下川辺隆史（東京大学情報基盤センター）、三木洋平（東京大学情報基盤センター）、星野哲也（東京大学情報基盤センター）、有間英志（東京大学情報基盤センター）、田浦健次朗（東京大学情報基盤センター）、工藤知宏（東京大学情報基盤センター）、関谷勇司（東京大学情報基盤センター）、中村遼（東京大学情報基盤センター）

FG2-5 Dockerコンテナを利用したHPCI仮想端末エミュレータ提供の検討

○石井宏治（国立情報学研究所）、坂根栄作（国立情報学研究所）、合田憲人（国立情報学研究所）

SF1 情報教育・サイバーセキュリティ

日時：2019/12/14 9:00～10:30 場所：F会場（404-406） 座長：岡村耕二（九州大学）

SF1-1 高知大学における新入生に対する情報セキュリティ教育の改善

○佐々木正人（高知大学）、石黒克也（高知大学）、佐々浩司（高知大学）

SF1-2 標的型攻撃に対するセキュリティ教育を自動化する訓練システムの開発

○塩田智基（香川大学）、北原美里（香川大学）、山下大貴（香川大学）、喜田弘司（香川大学）

SF1-3 岩手大学における留学生向け情報セキュリティ教育と他組織との教材の共有

○中西貴裕（岩手大学情報基盤センター）、川村暁（盛岡大学文学部情報部門）、尾中夏美（岩手大学教育推進機構グローバル教育センター）、松岡洋子（岩手大学教育推進機構グローバル教育センター）

SF1-4 マルウェアと詐欺を防ぐWindows10メッセージ対応マニュアルの開発

○松澤英之（宮崎大学情報基盤センター）

SF1-5 シニア世代の学びにおける情報リテラシー育成の重要性 —TMUプレミアム・カレッジの受講生調査を踏まえた考察—

○伏木田稚子（首都大学東京大学教育センター）、永井正洋（首都大学東京大学教育センター）

SG1 HPCテクノロジー3

日時：2019/12/14 9:00～10:30 場所：G会場（409-410） 座長：滝沢寛之（東北大学）

SG1-1 GPUを搭載した計算機の効率的な運用方法の検討と実装

○當山達也（京都大学企画・情報部）、尾形幸亮（京都大学企画・情報部）、疋田淳一（京都大学企画・情報部）

SG1-2 精度保証付き数値計算ライブラリの運用に向けて

○片桐孝洋（名古屋大学情報基盤センター）、石黒史也（名古屋大学大学院情報学研究所）、萩田武史（東京女子大学現代教養学部）、尾崎克久（芝浦工業大学システム理工学部）、大島聡史（名古屋大学情報基盤センター）、永井亨（名古屋大学情報基盤センター）

SG1-3 東京大学情報基盤センターにおけるスーパーコンピュータの利用状況と利用制度について

○中張遼太郎（東京大学情報システム部情報基盤課）、宮崎洋（東京大学情報システム部情報基盤課）、田川善教（東京大学情報システム部情報基盤課）、山本和男（東京大学情報システム部情報基盤課）、佐島浩之（東京大学情報システム部情報基盤課）、佐藤孝明（東京大学情報システム部情報基盤課）、下條清史（東京大学情報システム部情報基盤課）、山田新（東京大学情報システム部情報基盤課）

SG1-4 RISTによる「京」時代のHPCIの利用支援等の活動と将来へ向けた取り組み

○澤井秀朋（高度情報科学技術研究機構）、野口孝明（高度情報科学技術研究機構）、草間義紀（高度情報科学技術研究機構）、奥田基（高度情報科学技術研究機構）

SG1-5 GPUサーバのベンチマークと外乱によって自己組織化するセルオートマトンの実装

○岩瀬雄祐（名古屋大学情報連携統括本部情報推進部情報基盤課）、山田一成（名古屋大学情報連携統括本部情報推進部情報基盤課）、大島聡史（名古屋大学情報基盤センター大規模計算支援環境研究部門）、片桐孝洋（名古屋大学情報基盤センター大規模計算支援環境研究部門）

SF2 サイバーセキュリティ・情報基盤と対策

日時：2019/12/14 10:50～12:20 場所：F会場（404-406） 座長：砂原秀樹（慶應義塾大学）

SF2-1 Office 365のフィッシング対策強化のためのPowerShellによる設定事例

○葛西真寿（弘前大学大学院理工学研究科）、小倉広実（弘前大学情報連携統括本部情報基盤センター）、須藤勝弘（弘前大学情報連携統括本部情報基盤センター）、竹内淑怜（弘前大学情報連携統括本部情報基盤センター）

SF2-2 名古屋工業大学における2018・2019年度の情報セキュリティ対策

○齋藤彰一（名古屋工業大学）、松尾啓志（名古屋工業大学）

SF2-3 京都大学における情報セキュリティ自己点検の取り組み

○齋藤紀恵（京都大学企画・情報部）、片桐統（京都大学企画・情報部）、戸田庸介（京都大学企画・情報部）、石橋由子（京都大学企画・情報部）

SF2-4 大阪大学のセキュリティに対する取組

○笹尾朋貴（大阪大学情報推進部）

SF2-5 UPKIサーバ証明書管理用ツールの開発

○宇田川暢（新潟大学）

SF2-6 セキュリティ製品の妥当性点検に向けたアンチウイルスソフト検知率評価システムの提案及びその有効性の検討

○北原美里（香川大学）、米谷雄介（香川大学）、後藤田中（香川大学）、小野滋己（香川大学）、青木有香（香川大学）、八重樫理人（香川大学）、藤本憲市（香川大学）、林敏浩（香川大学）、今井慈郎（香川大学）、最所圭三（香川大学）、喜田弘司（香川大学）

SF4 危機管理・CSIRT・ISMS

日時：2019/12/14 13:45～15:15 場所：F会場（404-406） 座長：西村浩二（広島大学）

SF4-1 室蘭工業大学情報教育センターにおける北海道胆振東部地震への対応

○早坂成人（室蘭工業大学情報教育センター）、石坂徹（室蘭工業大学情報教育センター）、小川祐紀雄（室蘭工業大学情報教育センター）、桑田喜隆（室蘭工業大学情報教育センター）

SF4-2 リクナビ事案の概要と教育分野への示唆

○武田俊之（関西学院大学）

SF4-3 リスクアセスメント情報共有システムを用いたリスク絞り込み可視化に関する一考察

○新田和也（香川大学）、後藤田中（香川大学）、米谷雄介（香川大学）、小野滋己（香川大学）、八重樫理人（香川大学）、林敏浩（香川大学）、今井慈郎（香川大学）、喜田弘司（香川大学）、最所圭三（香川大学）

SF4-4 大学CSIRT体制に対する考察と新潟大学への適用Ⅱ 一部局CSIRTⅠ

○青山茂義（新潟大学）、三河賢治（新潟大学）、宮北和之（新潟大学）

SF4-5 大学CSIRTにおけるグループチャットツール活用事例

○松本哲（大阪大学）、大平健司（大阪大学）、田島滋人（大阪大学）、奥田剛（大阪大学）、猪俣敦夫（大阪大学）、森原一郎（大阪大学）

SF4-6 金沢大学総合メディア基盤センターにおけるISMS

上杉喜彦（金沢大学総合メディア基盤センター）、佐藤正英（金沢大学総合メディア基盤センター）、笠原禎也（金沢大学総合メディア基盤センター）、大野浩之（金沢大学総合メディア基盤センター）、高田良宏（金沢大学総合メディア基盤センター）、井町智彦（金沢大学総合メディア基盤センター）、○森祥寛（金沢大学総合メディア基盤センター）、東昭孝（金沢大学総合メディア基盤センター）、Nakasan Chawanat（金沢大学総合メディア基盤センター）、二木恵（金沢大学総合メディア基盤センター）、濱貴幸（金沢大学総合技術部）、西川直樹（金沢大学総合技術部）、松平拓也（金沢大学総合技術部）、松能誠仁（金沢大学総合技術部）、富田洋（金沢大学総合メディア基盤センター）

ポスター発表

- TP-1 九州大学サイバーセキュリティセンターの紹介
○岡村耕二（九州大学サイバーセキュリティセンター）
- TP-2 文部科学省APにより進める岐阜高専のICT活用教育改革（4）
○所哲郎（岐阜工業高等専門学校）、伊藤義人（岐阜工業高等専門学校）
- TP-3 ルーブリック評価用Web型アプリケーションの開発：学習成果に至る過程の可視化を目指して
石川保茂（京都外国語大学）、坪田康（京都工芸繊維大学）、藤原茂雄（（株）内田洋行）、須藤綾子（（株）内田洋行）、
○西山康一（（株）インフィニテック）
- TP-4 学生のPC離れの傾向とタッチタイプ技能獲得の状況（2）
匂坂智子（麗澤大学外国語学部）、○大塚秀治（麗澤大学経済学部）、高辻秀興（麗澤大学経済学部）、神田彰信（麗澤大学
情報教育センター）
- TP-5 京都大学Web戦略室の活動とその役割
○小野英理（京都大学情報環境機構）、森村吉貴（京都大学情報環境機構）、元木環（京都大学情報環境機構）、岩倉正司（京
都大学情報環境機構）、河地裕介（京都大学企画・情報部）、喜多一（京都大学情報環境機構）
- TP-6 京都大学におけるビジュアル・アイデンティティの整備と課題 —情報メディアでの利用を通じて—
○元木環（京都大学情報環境機構）、永田奈緒美（京都大学情報環境機構）、小野英理（京都大学情報環境機構）、岩倉正司
（京都大学情報環境機構）、辰巳明久（京都市立芸術大学美術学部）、喜多一（京都大学情報環境機構）
- TP-7 多様な構成員を持つ大学ICT組織へのSlack導入によるコミュニケーション改善の継続調査
○森村吉貴（京都大学）、渥美紀寿（京都大学）、古村隆明（京都大学）
- TP-8 マンガ表現を用いた環境音の可視化による聴覚障害学生支援
○新井浩（金城大学短期大学部）、井戸健敬（金城大学短期大学部）、下村有子（金城大学）、川邊弘之（金城大学）、瀬戸
就一（金城大学短期大学部）
- TP-9 大学におけるICT利活用教育に関する取組の重要度と支援組織の関連について
○酒井博之（京都大学高等教育研究開発推進センター）、稲葉利江子（津田塾大学学芸学部情報科学科）、辻靖彦（放送大学
教養学部）、平岡斉士（熊本大学教授システム学研究センター）、重田勝介（北海道大学情報基盤センター）
- TP-10 必携ノートPC導入後における窓口対応の変化について
○富重秀樹（九州工業大学飯塚キャンパス技術部）、井上純一（九州工業大学飯塚キャンパス技術部）、林豊洋（九州工業大
学情報科学センター）、甲斐郷子（九州工業大学情報科学センター）
- TP-11 薬物反応シミュレーションソフトを活用したアクティブ・ラーニング型医学演習
○根本隆行（福岡大学医学部薬理学）、田頭秀章（福岡大学医学部薬理学）、喜多知（福岡大学医学部薬理学）、柴田志保（福
岡大学医学部薬理学）、後藤雄輔（福岡大学医学部薬理学）、喜多紗斗美（福岡大学医学部薬理学）、岩本隆宏（福岡大学医
学部薬理学）
- TP-12 筑波大学の教育用計算機システムにおける性能と利便性を向上させるための機能
○大山恵弘（筑波大学）、中井央（筑波大学）
- TP-13 情報セキュリティおよびユーザサポートを目的としたキャンパスネットワークにおける監視および情報収集機能
○鳩野逸生（神戸大学）
- TP-14 BLEビーコンとスマートフォンを用いた出席確認システム
○佐野彰（龍谷大学理工学部）、関本達生（龍谷大学理工学部）、樋口三郎（龍谷大学理工学部）、松本平淳太（龍谷大学理
工学部）、高橋隆史（龍谷大学理工学部）
- TP-15 Wingnetシステムを利用したP-Drug適正薬剤選択演習
○田頭秀章（福岡大学医学部薬理学）、根本隆行（福岡大学医学部薬理学）、柴田志保（福岡大学医学部薬理学）、喜多知（福
岡大学医学部薬理学）、後藤雄輔（福岡大学医学部薬理学）、喜多紗斗美（福岡大学医学部薬理学）、岩本隆宏（福岡大学医
学部薬理学）
- TP-16 初年次学習者を対象にした演習ベースのeラーニングシステムについて
○金西計英（徳島大学）、高橋暁子（徳島大学）、戸川聡（四国大学）
- TP-17 学生を対象とした講義動画配信の満足度調査報告
○早坂明哲（日本医科大学）、竹下俊行（日本医科大学）、藤倉輝道（日本医科大学）

- TP-18 MoodleにRedashを連携させたアナリティクス機能の実装**
○大石哲也（東京工業大学広報・社会連携本部情報活用IR室）、大浦弘樹（東京工業大学教育革新センター）
- TP-19 初等教育機関におけるネットワーク分離の事例報告**
○松井聰治（大阪教育大学情報企画室）、佐藤隆士（大阪教育大学情報処理センター）
- TP-20 情報倫理教育の2軸フレームワーク評価法**
○村上祐子（セイコー化工機株式会社）、稲垣知宏（広島大学情報メディア教育研究センター）
- TP-21 研究室向け貸出無線APサービスの取り組み**
○葎葉純子（東北大学医学系研究科）、中村直毅（東北大学病院）、伊藤和哉（東北大学医学系研究科）、高畑知香（東北大学医学系研究科）、菱川理絵（東北大学医学系研究科）、長瀬祥子（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）、中山雅晴（東北大学医学系研究科）、富永悌二（東北大学病院）
- TP-22 ToMMoスーパーコンピュータを利用するための遠隔セキュリティエリアの設置と運用**
○長瀬祥子（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）、中村直毅（東北大学病院）、伊藤和哉（東北大学医学系研究科）、葎葉純子（東北大学医学系研究科）、平野幸子（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）、齊藤智（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）、木下賢吾（東北大学情報科学研究科）、中山雅晴（東北大学医学系研究科）、富永悌二（東北大学病院）
- TP-23 事務室へのシンクライアント導入による情報支援業務の効率化**
○茶谷祥太郎（京都大学大学院工学研究科附属情報センター）、奥中敬浩（京都大学大学院工学研究科附属情報センター）、浅野義直（京都大学大学院工学研究科附属情報センター）
- TP-24 学認クラウドオンデマンド構築サービス**
○佐賀一繁（国立情報学研究所）、竹房あつ子（国立情報学研究所）、丹生智也（国立情報学研究所）、横山重俊（群馬大学）、合田憲人（国立情報学研究所）
- TP-25 MITライセンスで公開したOpenCEASの導入運用支援**
○福森貢（畿央大学教育学習基盤センター）、篠原健（OpenCEAS株式会社）、三矢晴彦（ボウ・ネットシステムズ株式会社）、植木泰博（ニュータイプシステムズ株式会社）
- TP-26 学習進捗状況をグラフィカルに表示するMoodleプラグインの開発**
○長岡千香子（熊本大学）、喜多敏博（熊本大学）、平岡斉士（熊本大学）、鈴木克明（熊本大学）
- TP-27 日本の大学におけるLMSの導入状況**
○稲葉利江子（津田塾大学）、酒井博之（京都大学）、辻靖彦（放送大学）、平岡斉士（熊本大学）、重田勝介（北海道大学）
- TP-28 キャンパスネットワークにおけるインシデント対応の自動化 —シミュレーション実験の報告—**
○佐藤聡（筑波大学）、三宮秀次（筑波大学）、片岸一起（筑波大学）、中井央（筑波大学）、亀山啓輔（筑波大学）
- TP-29 教育の内部質保証に向けたLMSの活用**
○松本高志（阿南工業高等専門学校）、小松実（阿南工業高等専門学校）、山田耕太郎（阿南工業高等専門学校）、川畑成之（阿南工業高等専門学校）、太田健吾（阿南工業高等専門学校）
- TP-30 タンパク質構造の教育におけるICTの活用（Ⅱ）**
○菊地浩人（日本医科大学）、早坂明哲（日本医科大学）
- TP-31 大学のICT活用教育に対する期待感及び効果の認識における設置者別の経年比較**
○辻靖彦（放送大学）、稲葉利江子（津田塾大学）、酒井博之（京都大学）、平岡斉士（熊本大学）、重田勝介（北海道大学）
- TP-32 (発表辞退)**
- TP-33 Apereo Foundation を通じたオープンソースコミュニティへの貢献**
○梶田将司（京都大学情報環境機構）

ポスターマップ

会場案内図

セッション一覧

全体会・イベント

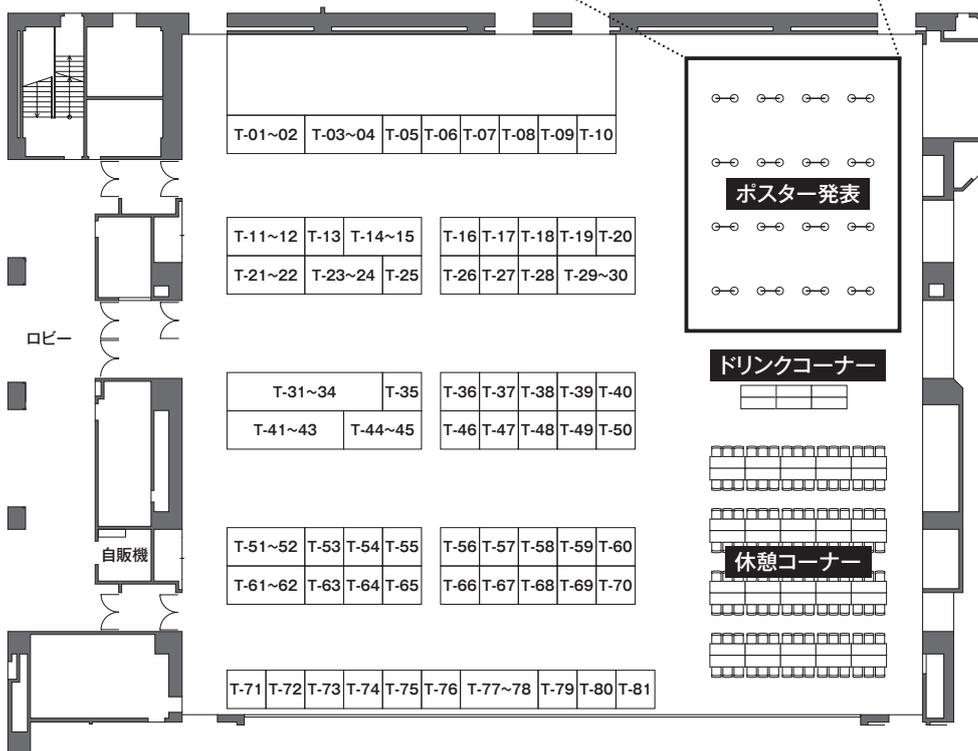
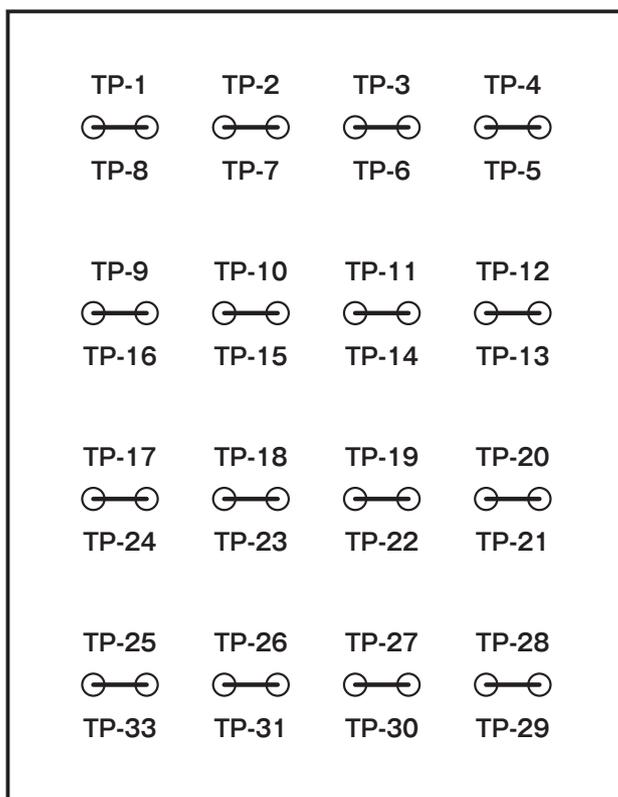
一般セッション
(口頭発表)

一般セッション
(ポスター発表)

企画セッション

ランチョンセミナー
出展者セミナー

展示



企画セッション

企画セッション

TF1 大学ICTのための『ユーザサポート』を考える

実行委員会（提案責任者：森村吉貴）

日時：2019/12/12 9:10～10:40 場所：F会場（404-406）

■オーガナイザ

森村 吉貴（京都大学）
近堂 徹（広島大学）

■講師・パネリスト・司会者等

西村 直也（さくらインターネット株式会社）
森村 吉貴（京都大学）
近堂 徹（広島大学）
末廣 紀史（香川大学）
山田 晃久（株式会社早稲田大学アカデミックソリューション）

■セッション概要

ICT環境が大学の全構成員にとって必要となった今、幅広い層を対象とするユーザサポートを実現し、そのフィードバックをサービス改善に役立てる事が求められている。一方で、多様化・複雑化するサービスを支え、ユーザの要望に応えながら利活用を促進するためには解決すべき課題も多い。本セッションでは、大学におけるユーザサポートと民間企業におけるカスタマーサポートの事例を紹介し、大学ICTのためのユーザサポートの将来像について討論を行う。

TG1 高等教育機関における基盤ソフトウェア等のAXIES正会員向け特別プログラムについて

ソフトウェアライセンス部会（提案責任者：丹羽量久）

日時：2019/12/12 9:10～10:40 場所：G会場（409-410）

■オーガナイザ

丹羽 量久（長崎大学）

■講師・パネリスト・司会者等

司会：丹羽 量久（長崎大学）
講演者：
小野 裕一（日本マイクロソフト株式会社）
馬場 祐介（トレンドマイクロ株式会社）
大野 秀記（シスコシステムズ合同会社）
藤永宏一郎（株式会社プリンストン）
保坂 大輔（Dropbox Japan株式会社）
館野 康彦（株式会社内田洋行）

■セッション概要

高等教育機関において基盤となるソフトウェア等を取り上げて、ライセンス契約の内容およびAXIES会員向け特典について情報共有します。会員校それぞれの運用・利用形態を踏まえて、全学規模だけでなく部局等を契約対象とする特別プログラムも提供されています。また、提供中の特別プログラムの拡充計画についても紹介がなされます。

T11 研究データマネジメントの組織的行動への展開

研究データマネジメント部会（提案責任者：青木学聡）

日時：2019/12/12 9:10～10:40 場所：I会場（413）

■オーガナイザ

青木 学聡（京都大学）
松原 茂樹（名古屋大学）
船守 美穂（国立情報学研究所）
脇 昌弘（ソニービジネスソリューション）
朝原 啓太（日立製作所）

■講師・パネリスト・司会者等

脇 昌弘 (ソニービジネスソリューション)
船守 美穂 (国立情報学研究所)
松原 茂樹 (名古屋大学)
青木 学聡 (京都大学)

■セッション概要

研究データマネジメント (RDM) 部会では、大学等研究機関が組織的にRDM環境を整備、推進するために必要な検討項目を取りまとめ、2019年5月に「研究機関における研究データ管理に関する提言 (AXIES-RDM提言)」として発行した。RDMが広く普及するには、トップダウンでのポリシー制定だけではなく、研究者、研究支援者等の役割と具体的な行動を明確にする必要がある。本企画セッションでは、組織的な研究データマネジメント体制の構築に向けた具体例を紹介するとともに、研究者を対象とした研究データに関する意識調査アンケートの実施について議論を進める。

TG2 わが国における次世代電子学習環境 (NGDLE) に向けた取り組み2019: エコシステムと国際標準化
学術・教育コンテンツ共有流通部会 (CSD)、オープンソース技術部会 (OSS)、教育技術開発部会 (EdTech) (提案責任者: 山田恒夫)
日時: 2019/12/12 11:00~12:30 場所: G会場 (409-410)

■オーガナイザ

大西 淑雅 (九州工業大学、OSS)
常盤 祐司 (法政大学、EdTech)
山田 恒夫 (放送大学、CSD)

■講師・パネリスト・司会者等

大西 淑雅 (九州工業大学、OSS)
常盤 祐司 (法政大学、EdTech)
山田 恒夫 (放送大学、CSD)

■セッション概要

EDUCAUSEによって提唱された次世代電子学習環境 (Next Generation Digital Learning Environments、NGDLE) については、2016年度以降、AXIES年次大会でも3部会合同の提案セッションとして検証を進めてきた。2019年度大会では、エコシステムと国際技術標準の観点から、わが国における実践事例を報告いただき、今後の展開について議論する。

TI2 ITベンチマーキング調査事業中間報告
ITベンチマーキング部会 (提案責任者: 岡田義広)
日時: 2019/12/12 11:00~12:30 場所: I会場 (413)

■オーガナイザ

岡田 義広 (九州大学)
森村 吉貴 (京都大学)

■講師・パネリスト・司会者等

1. 既存調査事業の公開データの整理 Educause CDS を中心に (30分)
2. 本部会調査事業概要と中間結果報告 (30分)
3. パネル討論 (30分)

パネリスト

森原 一郎 (大阪大学)
玉造 潤史 (東京大学)
森村 吉貴 (京都大学)
西村 浩二 (広島大学)
岡田 義広 (九州大学)

■セッション概要

AXIESのITベンチマーキング部会は、各大学がICT戦略を進めるための重要な指針となるデータを提供することを目的としています。また、EDUCAUSE Core Data Service (CDS) を参考に日本版CDSを実施したいと考えています。EDUCAUSE CDS Top 10 IT Issuesを中心とした今年度の本部会の調査事業について報告・議論をさせていただきます。

TA4・TA5 NII-SOCSインシデントマネジメント研修

国立情報学研究所（提案責任者：高倉弘喜）

日時：2019/12/12（TA4）13:45～15:15（TA5）15:35～17:05 場所：A会場（502-503）

■オーガナイザ

高倉 弘喜（国立情報学研究所）

15：35～17：05の演習は公開です。どなたでも見学できます。

■セッション概要

大学における教育・研究が情報システムに大きく依存するようになった現在、情報システムの可用性確保が重要な課題となりつつある。一方で、高度なサイバー攻撃による被害が発生した場合、初動段階では不確定な情報や誤った情報が錯綜し、刻々と変化する状況に臨機応変に対応することが求められる。このような緊迫した状況下では、疑心暗鬼によりCISO等の管理部門がエリートパニックに陥ることも珍しくない。そこで、インシデント発生時の危機管理のあり方を考える切っ掛けを作ることを目的として、高度なサイバー攻撃の実例を模擬した机上演習（Table Top eXercise：TTX）を実施する。演習には、国立大学法人等のCSIRTメンバーなど日々インシデント対応にあたっている者が参加する。さらに、その様子を公開することで、見学者にも高度なサイバー攻撃下に曝された際に大学の運営において守るべきものは何かを掴んでもらうことを期待する。

TD4 組織のセキュリティポリシーに合致するクラウド環境の作り方

クラウド部会（提案責任者：西村浩二）

日時：2019/12/12 13:45～15:15 場所：D会場（401-402）

■オーガナイザ

西村 浩二（広島大学）

吉田 浩（国立情報学研究所）

■講師・パネリスト・司会者等

詳細については、クラウド部会の活動状況ページ（<https://axies.jp/ja/SIG/activity/lmc99q>）をご覧ください。

■セッション概要

組織がクラウドサービスを利用する際には、組織のセキュリティポリシーとの整合性を考慮する必要がある。一方で、クラウドサービス事業者から提供される多種多様な機能をどのように組合せ、設定すれば、自組織の要求（機能面、セキュリティ面）に合致するかを確認することは難しい。本セッションでは、サンプル規程集やガイドラインの要求を満たすクラウド環境の構築方法やそのテンプレート化の可能性等について議論する。

TG4 LMSエキスパートの教員は担当する授業でどのようにICTを利用しているのか？

教育技術開発部会（提案責任者：常盤祐司）

日時：2019/12/12 13:45～15:15 場所：G会場（409-410）

■オーガナイザ

常盤 祐司（法政大学）

■講師・パネリスト・司会者等

武田 考正（株式会社 内田洋行）

喜多 敏博（熊本大学）

渡辺 博芳（帝京大学）

喜多 一（京都大学）

常盤 祐司（法政大学）

■セッション概要

企業と大学が一丸となってEdTechの実践的な利活用のあり方を提案し推進する教育技術開発部会の議論において、特に企業サイドから実際の授業におけるICTの具体的な利用状況を知りたいという要求が提示された。本セッションでは、大学においてICTの活用を推進している教員をパネリストとして招き、自身が担当する授業におけるICT活用の事例や課題について報告し、会場を交えて大学と企業が新たなICTの利活用の在り方を議論する。

TH4 EDUCAUSE John O'Brien会長と語る大学ICTの将来像

CIO部会（提案責任者：深澤良彰）

日時：2019/12/12 13:45～15:15 場所：H会場（411-412）

■オーガナイザ

深澤 良彰（早稲田大学）
棟朝 雅晴（北海道大学）

■講師・パネリスト・司会者等

講師：EDCAUSE John O'Brien会長
（指定討論者：大学CIOなどを想定）

■セッション概要

将来の大学ICTの方向性について、EDUCAUSE John O'Brien会長にご講演をいただくとともに、参加いただく大学ICT関係者との質疑応答を通して議論を深める。

FF1 高等教育機関等におけるICT利活用調査向けWebアンケートシステムの開発

ICT利活用調査部会（提案責任者：重田勝介）

日時：2019/12/13 9:00～10:30 場所：F会場（404-406）

■オーガナイザ

重田 勝介（北海道大学）
酒井 博之（京都大学）
辻 靖彦（放送大学）
稲葉利江子（津田塾大学）
平岡 齊士（熊本大学）

■セッション概要

高等教育機関等におけるICT利活用の状況については、これまで文部科学省先導的の大学改革推進委託事業等を通して、調査研究が継続的に進められてきた。AXIES ICT利活用調査部会ではそれらの調査を引き継ぎ、2015年度、2017年度と「高等教育機関等におけるICTの利活用に関する調査研究」を実施してきた。我が国の高等教育機関の悉皆調査として、定期的の実施し現状を把握することが重要であるが、調査ごとのアンケートシステムの構築や分析など非常にコストがかかっている。さらに、対象機関においても、調査結果と自組織との比較などがわかりにくいことや、前調査から自組織がどのように変化してきているのかを客観的に見ることができないなどユーザフレンドリーな調査となっていない。そこで、ICT利活用調査に特化したWebアンケート機能とユーザが全体結果および自組織の比較が可能な結果閲覧機能を有したシステムの開発を進めてきている。

本セッションでは、システムの開発の途中経過を報告すると共に、今後の調査について議論する予定である

F11 Moodleプラグイン開発とAperreo Foundationによるオープンスタンダードソリューション

オープンソース技術部会（提案責任者：大西淑雅）

日時：2019/12/13 9:00～10:30 場所：I会場（413）

■オーガナイザ

梶田 将司（京都大学）
喜多 敏博（熊本大学）
大西 淑雅（九州工業大学）

■講師・パネリスト・司会者等

中原 敬広（合同会社三玄舎）
Dr.Charles Severance（University of Michigan）

■セッション概要

次の2つテーマで講演を行います。

・Moodleプラグイン開発入門（09:00-09:35）

オープンソースのLMSを活用するメリットは、利用環境に合わせて機能拡張やカスタマイズできる点になります。オリジナル機能として開発を業者に委託する場合もあれば、研究開発した機能をオープンソースとして公開する場合があります。本企画セッションでは、Moodleを題材に機能拡張やカスタマイズを行う際のメリットやデメリットについて説明し、いくつかのプラグイン開発の事例について紹介します。また、独自開発する際に押さえておきたい情報をわかりやすく解説します。

- ・オープンソースおよびオープンスタンダードソリューションの開発と採用 (09:45-10:30)

LTI (Learning Tool Interoperability) は、クラウド時代の教育と学習の革新を推進し、LTI 1.3とLTI Advantageとして進化し続けています。本セッションでは、LTIの生みの親であるミシガン大学情報学部のChuck博士による講演を企画しました。Aperio Tsugi Projectを紹介すると共に、過去10年間のAperio Foundationの開発と採用、重要な役割、および将来などについて講演します。

FJ1 社会人エンジニアのための実践的な情報教育

九州大学 (提案責任者: 小出洋)

日時: 2019/12/13 9:00~10:30 場所: J会場 (414)

■オーガナイザ

小出 洋 (九州大学)

湯浅 壘道 (情報セキュリティ大学院大学)

■講師・パネリスト・司会者等

小出 洋 (九州大学)

湯浅 壘道 (情報セキュリティ大学院大学)

■セッション概要

2012年から続いている文部科学省の教育プログラムenPiT (成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成) では、新たな枠組として2017年から社会人エンジニアのための学び直しの推進を図っている。このセッションではenPiT-Proにおける社会人の学び直しについて、現在までの取り組みと今後の展開についての議論を行う。

FF2 BYOD活用に向けた無線LAN性能計測

高品質・セキュリティICT部会 (提案責任者: 村瀬勉)

日時: 2019/12/13 10:50~12:20 場所: F会場 (404-406)

■オーガナイザ

長谷川 剛 (東北大学)

■講師・パネリスト・司会者等

招待講演者: 福田 豊 (九州工業大学)

■セッション概要

キャンパスにおける学生の活動に個人所有のノートパソコンやタブレットを利用するBYODの動きが活発化している。その際のネットワーク接続環境として重要となる無線LANは、干渉問題の解消やチャネルなどの設定が重要となる。本講演では、キャンパスネットワークにおける無線LANを用いた通信の性能計測を通じて、キャンパス環境におけるBYODを実現するための無線ネットワーク設計について議論する。

FH2 パスワード不要のシンプルで堅牢な認証システム構築に向けて

認証連携部会 (提案責任者: 細川達己)

日時: 2019/12/13 10:50~12:20 場所: H会場 (411-412)

■オーガナイザ

永井 孝幸 (京都工芸繊維大学)

江川 淳一 (エクスジェン・ネットワークス株式会社)

細川 達己 (慶應義塾)

■講師・パネリスト・司会者等

森山 光一 (NTTドコモ・FIDO Japan WG座長)

市原 尚久 (LINE・FIDO Japan WG副座長)

江川 淳一 (エクスジェン・ネットワークス株式会社)

河野 圭太 (岡山大学)

中田 寿穂 (日本マイクロソフト株式会社)

富士榮尚寛 (伊藤忠テクノソリューションズ株式会社)

細川 達己 (慶應義塾)

■セッション概要

昨今、パスワードという認証手段の限界が指摘されており、パスワードを不要とする認証技術の標準規格としてFIDO（ファイド）認証が注目を集めている。本セッションでは、FIDO自体の紹介とともに、大学の認証システムにおいてどのようにFIDO認証を活用していいのかについて、会場の参加者も交えて議論する。

SA1・SA2・SA4 これからの大学の情報教育

情報教育部会（提案責任者：和田智仁）

日時：2019/12/14（SA1）9:00～10:30（SA2）10:50～12:20（SA4）13:45～15:15 場所：A会場（502-503）

■オーガナイザ

稲垣 知宏（広島大学）
喜多 一（京都大学）
多川 孝央（九州大学）

■講師・パネリスト・司会者等

立田 ルミ（獨協大学）
稲垣 知宏（広島大学）
徳野 淳子（福井県立大学）
中鉢 直宏（帝京大学）
山口 泰（東京大学）
布施 泉（北海道大学）
高橋 尚子（國學院大学）
辰己 丈夫（放送大学）
喜多 一（京都大学）
水野 義之（京都女子大学）
中野 淳（日経BP）

■セッション概要

わが国では多くの大学で一般教育として情報教育が行われています。多様な学生を対象に情報に関する幅広い内容を扱うこともあり、授業の企画と実施には大学毎に様々な工夫があります。一方、内閣府総合科学技術・イノベーション会議での議論を受け、数理・データサイエンス・AI教育を全ての大学生・高等専門学校生が履修できるようにする準備が進んでいます。高等学校においても2022年度に必修化される「情報I」にはデータサイエンス・AIの基礎が取り入れられ、合わせて大学入学共通テスト「情報I」の検討も進められています。このシンポジウムではこのような実状や高大連携の動向を踏まえ、これからの大学の一般教育としての情報教育について、何を目標に、どのような内容を扱えばいいのかを討議します。

SD1 大学の事務用業務システムの現状

実行委員会（提案責任者：金川真行）

日時：2019/12/14 9:00～10:30 場所：D会場（401-402）

■オーガナイザ

金川 真行（北海道大学）

■講師・パネリスト・司会者等

高橋 雄大（高知大学研究国際部学術情報課）
長田 和宏（信州大学総合情報センター）

■セッション概要

国立大学法人等情報化連絡協議会が開催する事務用業務システム改善についての情報化発表会（事例発表会）での優秀な事例発表について、本企画セッションでも発表を行います。また、上記発表会での傾向等についても発表します。

講演：「総合情報システムの更新について（事務システムのネットワーク分離等）」

講演：「標的型攻撃メールおよびランサムウェアを体験するツールの開発と訓練実施」

SH1 次世代公開教育資源（OER）の展望

学術・教育コンテンツ共有流通部会（CSD）（提案責任者：山田恒夫）
日時：2019/12/14 9:00～10:30 場所：H会場（411-412）

■オーガナイザ

山田 恒夫（放送大学）
重田 勝介（北海道大学）
深澤 良彰（早稲田大学）

■講師・パネリスト・司会者等

重田 勝介（北海道大学）
深澤 良彰（早稲田大学）

■セッション概要

教育/学習のパーソナル化に向け、学習解析（LA）、デジタルバッジ、生涯学習 e ポートフォリオ、AIチュータ、次世代センサとAR/VR技術、さまざまな構成要素が進化を続けるなか、学習コンテンツとその共有流通プラットフォームはどのように変革しなくてはならないか、技術とビジネスモデルの観点からディスカッションする。

SH2 ORCIDの活用と展開

ORCID部会（提案責任者：森雅生）
日時：2019/12/14 10:50～12:20 場所：H会場（411-412）

■オーガナイザ

森 雅生（東京工業大学）

■講師・パネリスト・司会者等

森 雅生（東京工業大学）
青木 学聡（京都大学）
矢吹 命大（横浜国立大学）

■セッション概要

永続的研究者識別子として国際的標準となりつつあるORCIDは、国内でも10万人を超える登録者を抱えている。そして、ORCIDとともに提供されているサービスについて、単なるPIDを超えた可能性が期待されている。このセッションでは、そうした期待と技術的な可能性について議論を行う。

SI4 IT担当技術職向けセキュリティハンズオン

九州大学（提案責任者：南里豪志）
日時：2019/12/14 13:45～15:15 場所：I会場（413）

■オーガナイザ

笠原 義晃（九州大学）
浦川 伸治（九州大学）
南里 豪志（九州大学）

■講師・パネリスト・司会者等

葛生 晋一（シスコシステムズ合同会社）

■セッション概要

本ハンズオンでは、テストマルウェアを実際に手元のPC端末上で動作させ、その挙動がセキュリティ製品にてどのように見えるかをご自身で体験いただくことで、EDR（Endpoint Detection and Response）を利用したセキュリティ管理に対する理解を深めていただきます。また、ネットワークの一時利用者や、通信内容を監視できないHTTPSを利用したマルウェアに対するセキュリティ対策を意識した、DNSセキュリティを体験していただけます。

本ハンズオンは事前登録が必要です。年次大会Webサイトの企画セッションページをご確認いただき、まだ空きがありましたら、登録してご参加ください。

IT管理者を対象としていますが、参加資格等の制限はありません。セキュリティに関心があり、実際に操作を体験したい方が対象です。体験用のPC端末はこちらで用意した物を利用していただきます。環境の均一化とセキュリティのため、お手持ちのPCではご参加いただけません。本ハンズオンでは、セキュリティソリューションとして Cisco AMP for Endpoints、Cisco Umbrella、Cisco Threat Response を使用します。

ランチョンセミナー
出展者セミナー

ランチョンセミナー

12月12日（木）

TF3 ハイブリッドクラウドを実現するNutanix Enterprise Cloud OS

出展者：ニュータニックス・ジャパン合同会社

日時：2019/12/12 12:40～13:30 場所：F会場（404-406）

Nutanixが提供する「Nutanix Enterprise Cloud OS」は「ハイパーコンバージドインフラ」の次世代データセンター基盤として注目される「マルチクラウド」を実現する最先端のソフトウェアテクノロジーです。

このセッションでは、柔軟かつ俊敏性のあるハイブリッドクラウドを実現するNutanixのソリューションについてご紹介します。

TG3 The new normal in Public Sector

出展者：アマゾンウェブサービスジャパン株式会社

日時：2019/12/12 12:40～13:30 場所：G会場（409-410）

日本政府のクラウド利用に係る指針やクラウド市場の動向、AWSクラウドのメリットやAWSクラウドの最新状況や、特に皆様が課題とされているクラウドの調達の方法についても国内外の事例を交えながらご説明します。

TH3 大学の公開ウェブが抱える隠れたサイバーリスクと停止リスク

出展者：アカマイ・テクノロジーズ合同会社

日時：2019/12/12 12:40～13:30 場所：H会場（411-412）

大学の「顔」であるホームページだけでなく、参加の研究、医療機関へのサプライチェーンへの攻撃の入り口となるのが多様化、高度化しているウェブベースの攻撃です。世の中で起きている攻撃手法を紐解き、見落としがちなサイバーリスクおよびサービスダウンのリスクについて解説します。

12月13日（金）

FF3 学校法人青山学院 全学ICT基盤システム最適化とサイバーセキュリティ強化の事例紹介

出展者：ユニアデックス株式会社

日時：2019/12/13 12:30～13:20 場所：F会場（404-406）

「学校法人青山学院 全学ICT基盤システム最適化とサイバーセキュリティ強化の事例紹介」と題して、実際に更改プロジェクトを推進された青山学院大学の丸山先生をお招きして、これまで全学で課題となっていたサイバー攻撃などに対するセキュリティ対策強化と、それに伴う運用管理負荷の軽減など基盤システム更改における全体最適化のポイントについて、体験談を交えてご講演いただきます。

FG3 全学の学生とあらゆる学習ツールのコラボレーションHubとなる協働学習プラットフォームをMicrosoft365でセキュアに実現。

出展者：日本マイクロソフト株式会社

日時：2019/12/13 12:30～13:20 場所：G会場（409-410）

大学でのセキュリティ強化は文科省からの通達の通り、最優先すべき課題です。セキュリティを担保しながら、BYODを実現し、全学規模のクリエイティブな協働学習環境提供、学生・教員間のコミュニケーション活性化を図るため、Microsoft365およびTeamsの利活用が広がっています。その結果めざましい学習効果・研究成果を生み出し、非常に高い学生満足度を得ている海外事例や国内大学での事例をご紹介します。

FH3 重要性の高まるOSS関連技術と、レッドハットが提供する実践的な教育支援のご紹介

出展者：レッドハット株式会社

日時：2019/12/13 12:30～13:20 場所：H会場（411-412）

デジタル改革、オープンイノベーション等が叫ばれる中、ソフトウェア技術、とりわけオープンソースソフトウェア（OSS）に関する技術は、年々重要性を増しています。本セミナーでは、昨今注目されているOSSと、それに関わるレッドハットの活動をご紹介します。

またOSSについて、研究活動の助けとなる技術習得、ならびに生徒の皆様の実践的なスキル獲得を後押しする、レッドハットの支援メニューも併せてご提案します。

12月14日（土）**SG3 大学向けネットワークセキュリティソリューション**

出展者：アラクスネットワークス株式会社

日時：2019/12/14 12:30～13:20 場所：G会場（409-410）

外部組織や各種ログで通知されるIPアドレスから端末や通信相手（影響範囲）を特定する、そんなシーンが増えていませんか？「IPアドレスが分かっても、端末がどこにあるか分からない」「被疑端末が、いつ・どこに接続していたか知りたい」といったセキュリティの悩みを解決するネットワークソリューションを紹介します。さらに、日々のネットワーク運用を楽にするマルチベンダ対応の運用ツールも紹介します。

SH3 研究データ管理実現をサポートする光ディスク「オプティカルディスク・アーカイブ」

出展者：ソニービジネスソリューション株式会社

日時：2019/12/14 12:30～13:20 場所：H会場（411-412）

高等教育・学術研究機関では、「研究データ管理」は年々注目されています。

また、分析機器では、AI技術の活用や、高解像・大容量ファイルを生成するようになり、研究現場では、「大容量データの運用と長期管理」が大きな課題となっています。

本セミナーでは、ソニーが提供する100年保存寿命の光ディスク「オプティカルディスク・アーカイブ」の概要と、研究機関における運用事例を中心にをご紹介します。

出展者セミナー

12月12日（木）

TA2 学認が支える学術基盤の「信頼」とは —フェデレーションからクラウド、研究データ管理まで—

出展者：国立情報学研究所

日時：2019/12/12 11:00～12:30 場所：A会場（502-503）

国立情報学研究所（NII）は学術認証フェデレーション「学認」を運用しています。学認は学術情報基盤における信頼（トラスト）の確立を目指し、サービス範囲をクラウド、研究データ管理RDM（research data management）まで拡大しています。改めて学認が築き上げてきた環境を振り返りつつNIIの提供サービスをご紹介します、学術情報流通・管理・活用における「信頼」「トラスト」とは何かを考えます。

TI4 オープンサイエンス基盤をID管理で実現する有効活用方法と学認SPの活用事例

出展者：エクスジェン・ネットワークス株式会社

日時：2019/12/12 13:45～14:45 場所：I会場（413）

オープンサイエンス基盤であるGakuin RDMやJAIRO Cloud、CiNIIとID管理との連携の活用方法と学認SPの活用事例をご紹介します。

12月13日（金）

FE1 これからの大学に必要なAI教育の進め方 —基礎知識のない文科系新生生での実践事例から、全学向けカリキュラムの構築まで—

出展者：日経BP/日経BPマーケティング

日時：2019/12/13 9:00～10:00 場所：E会場（403）

国は年間25万人のAI人材育成の目標を掲げ、大学・高専でAI教育を推進する方針を打ち出しました。こうした中、大学・高専ではどのようにAI教育を進めると良いのでしょうか。日経BPは専門媒体によるAIのコンテンツやノウハウを基に、複数大学でAI教育に協力しています。本セミナーでは国の政策や全国の高等教育機関での実践など、AI教育の最新事情を解説し、日経BPによるAI教育支援の取組みと成果を紹介します。

FE2 Tellus ～政府衛星データのオープン&フリー化及びデータ利用環境整備事業

出展者：さくらインターネット/プラナスソリューションズ

日時：2019/12/13 10:50～11:50 場所：E会場（403）

「Tellus（テルース）」とは、さくらインターネットが経済産業省からの委託を受けて開発する日本初の衛星データプラットフォームです。本講演ではTellusのビジョンを中心にご紹介致します。

FI2 【シスコユーザ事例/東洋大学様】やり方ひとつで変わるWebexの浸透術/Wi-Fi6と5Gの共存について

出展者：シスコシステムズ合同会社

日時：2019/12/13 10:50～11:50 場所：I会場（413）

本セッションでは、2つのテーマを予定しております。1つめは、東洋大学情報システム部様より、Cisco Webexの大学内における利活用について、ご講演いただきます。まさに、やり方ひとつで変わるツールの浸透術は必聴です。

2つめは、昨今話題の5Gに対して、Wi-Fi6の位置づけに関して、今までにないユースケースも含めて、弊社製品担当より、講演いたします。

FJ2 大学における新時代のデジタルクリエイティブ教育について～授業実践報告～

出展者：アドビシステムズ株式会社

日時：2019/12/13 10:50～11:50 場所：J会場（414）

これからの学生や研究者が活躍するためには、研究内容の質のみならず、研究内容をわかりやすく人に伝える力が欠かせません。図解や画像、動画を駆使し、相手の興味を喚起するプレゼン、論文・ポスター等をまとめるには、クリエイティブソフトウェアを使いこなせる新世代のデジタルリテラシーが必要です。当セミナーでは、全国の大学で一般教養として広がりつつあるデジタルクリエイティブ講座について授業実践事例をご紹介します。

FE5 フィッシング、標的型攻撃の対策を5分で全校展開 ～DNSに乗せられる脅威インテリジェンス～

出展者：アカマイ・テクノロジーズ合同会社

日時：2019/12/13 16:45～17:45 場所：E会場（403）

学会のために訪問する他校の教授、公開講座の一般受講者などが学内無線LANを利用する大学において常に脅威の侵入が懸念されています。ですが、訪問者の端末を制御する事は不可能なため別の角度からの対策が必要です。この場合、学内からのインターネット向け通信で常に利用されるDNSを脅威インテリジェンスと連携させる方法が極めて有効です。本セミナーでは、大学で複数の実績があるDNSを使った脅威対策をご紹介します。

FJ5 TOGAF、ArchiMateに基づくシステムインフラストラクチャの図式表現によるITシステム要求要件の明確化、標準化—京都大学様システムでのモデリング検証—

出展者：富士通株式会社

日時：2019/12/13 16:45～17:45 場所：J会場（414）

技術の多様化で大学のITシステムは複雑化し、上流工程での要件の明確化とオープンスタンダードによる標準化が求められています。京都大学様と富士通は、エンタープライズアーキテクチャTOGAFと記述言語ArchiMateで、稼働中のITシステム（DB）を対象にモデリング検証を行い、他大学にも活用頂けるリファレンスモデルとなる有効性評価を実施。京都大学IT企画室教授の梶田将司様にもご講演頂きます。

12月14日（土）**SE1 ローコストで実現可能な最新の標的型攻撃対策 ～パスワード付きファイルの脅威から情報を守る～**

出展者：株式会社クオリティア

日時：2019/12/14 9:00～9:30 場所：E会場（403）

昨今主流のパスワード付きファイルによる標的型メール攻撃。今では企業だけでなく、研究情報等の先端技術を保有している教育機関もターゲットとなっていますが従来のフィルタリング製品では、最新の標的型メール攻撃に対して十分な効果が発揮出来ないケースもあります。セミナーでは、当社のメール無害化ソリューションに新たに実装された"サンドボックス機能"による最新の対策をデモを含めてご紹介します。

SI1 皆に知ってほしい、Javaサポートに関する本当の話/SINET接続でデータ転送なし!!OSS利用にも最適なOracle Cloud

出展者：日本オラクル株式会社

日時：2019/12/14 9:00～10:00 場所：I会場（413）

前半ではWeb中心に広まっているJavaサポートの間違った情報を訂正し、正しい情報をお伝え致します。後半ではSINET利用によってデータ転送が無料となる、弊社クラウドサービスの概要をご紹介します。

SJ1 クラウドベースのMoodleが選ばれている理由

出展者：Blackboard Japan株式会社、アシストマイクロ株式会社
日時：2019/12/14 9:00～9:30 場所：J会場（414）

学習管理システムもクラウドへの移行が急速に進んでいます。国内で最も利用されているLMS「moodle」からクラウドへの移行とそのメリット、独自機能のご紹介を交えながら、国内の導入事例についても詳しくご紹介いたします。

SE2 大好評！ご利用学校数260校突破！「ウチダのOffice学割」のAXIES正会員向け特別プログラム／大学向けセキュリティ対策ソリューションのご紹介

出展者：株式会社 内田洋行
日時：2019/12/14 10:50～11:50 場所：E会場（403）

「ウチダのOffice学割」は大学の費用負担ゼロ、学生が格安でOfficeを購入、様々な特典満載のサービスです。AXIES正会員様向けにお得となる特別メニューが追加されました。また、包括ライセンス等の教職員・学生向け配布効率化を実現する「Download Station」、標的型攻撃やランサムウェア等のセキュリティ対策や学内ライセンス管理に有効な「ASSETBASE」をご紹介いたします。

SI2 まだEDR？ パロアルトネットワークスが推奨するXDRとは

出展者：パロアルトネットワークス株式会社
日時：2019/12/14 10:50～11:50 場所：I会場（413）

一般的に、EDRやNTAなどのツールは、個別にデータを保管し個別にアラートを上げますが、データの相関付けがなく、運用者は整理されていない情報の増加に疲弊して効率が低下します。

弊社が提供するトータルセキュリティ=Cortex XDRのディテクション&レスポンスを導入することで、ネットワーク、エンドポイント、およびクラウドから集めたログデータを総合的に判断して脅威を食い止めることができます。

SJ2 BYOD時代にふさわしい先端的な無線LAN ～AI/人工知能、データサイエンスと最新クラウドテクノロジーを組み合わせ「つながらない」・「遅い」問題を解決～

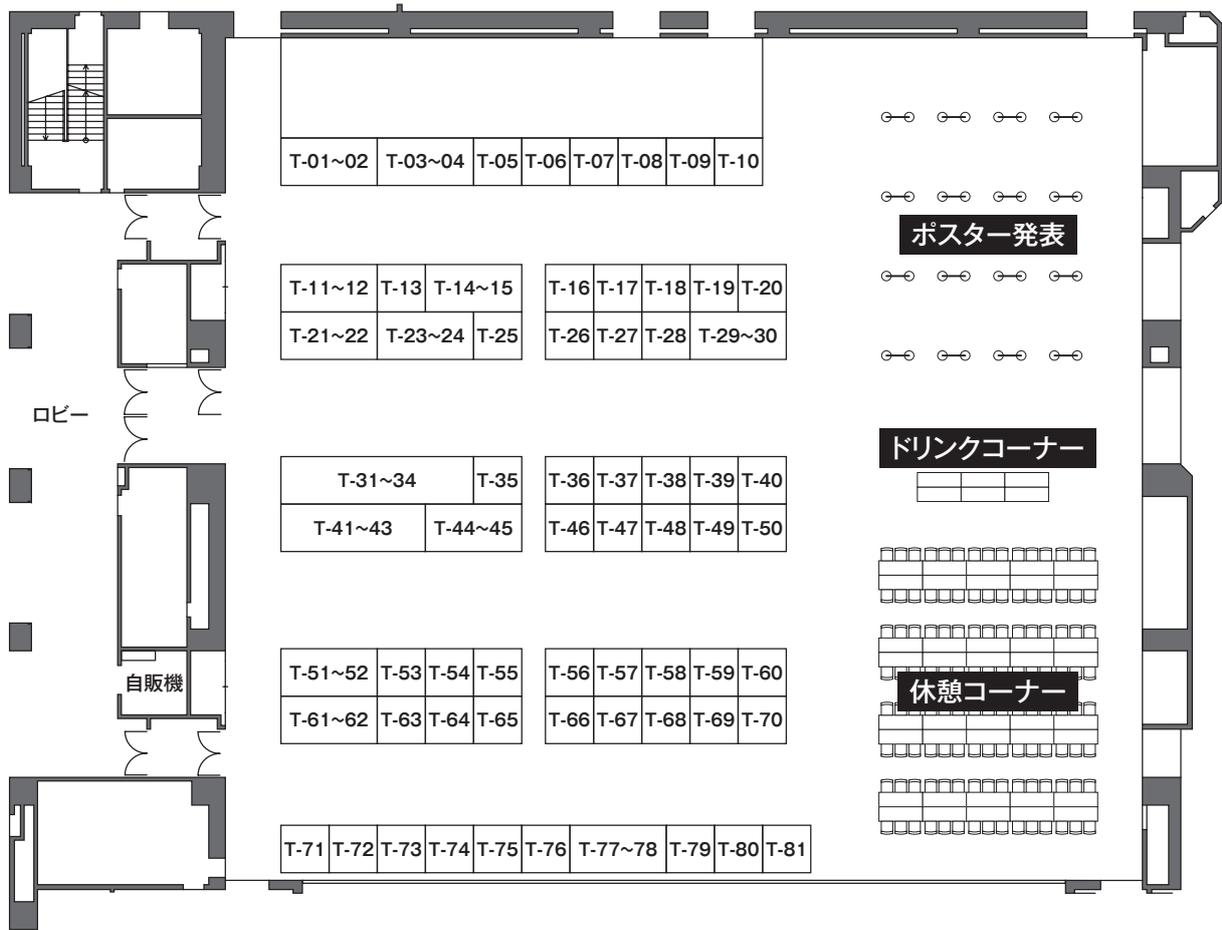
出展者：ジュニパーネットワークス株式会社
日時：2019/12/14 10:50～11:20 場所：J会場（414）

BYOD時代にふさわしい先端的な無線LANをデモンストレーションを交えてご紹介します。AI/人工知能、データサイエンスと最新クラウドテクノロジーを組み合わせ「つながらない」・「遅い」問題を解決します。以下のような課題をお持ちの方にお勧めです：

- ①Wi-Fiの障害対応に時間を要してしまう
- ②人が密集した際の電波調整を最適化したい
- ③現在のWi-Fiを快適に使えているか把握したい

展示

展示マップ



出展者一覧

T-01~02	ネットワンシステムズ株式会社	T-28	パロアルトネットワークス株式会社	T-58	マクニカネットワークス株式会社
T-03~04	株式会社シー・オー・コンヴ	T-29~30	シスコシステムズ合同会社	T-59	株式会社シティアスコム
T-05	丸善雄松堂株式会社	T-31~34	西日本電信電話株式会社	T-60	株式会社朝日ネット
T-06	システムギア株式会社	T-35	日本マイクロソフト株式会社	T-61~62	富士通株式会社
T-07	Blackboard Japan株式会社、 アシストマイクロ株式会社	T-36	フォーティネットジャパン株式会社	T-63	日鉄ソリューションズ株式会社
T-08	ジュニバーネットワークス株式会社	T-37	株式会社クライム	T-64	キャノンマーケティングジャパン株式会社
T-09	日本システム技術株式会社	T-38	東京エレクトロンデバイス株式会社	T-65	ユニアデックス株式会社
T-10	ざくらインターネット/プラスソリューションズ	T-39	株式会社ネットスプリング	T-66	エクスジェン・ネットワークス株式会社
T-11~12	ソニービジネスソリューション	T-40	Infoblox株式会社	T-67	株式会社東和エンジニアリング
T-13	レッドハット株式会社	T-41~43	アマゾンウェブサービスジャパン株式会社	T-68	株式会社プリンストン
T-14~15	アカマイ・テクノロジーズ合同会社	T-44~45	丸紅情報システムズ株式会社	T-69	日本オラクル株式会社
T-16	株式会社内田洋行	T-46	ニュータニックス・ジャパン合同会社	T-70	エイチ・シー・ネットワークス株式会社
T-17	CTC/サイオステクノロジー	T-47	三井情報株式会社	T-71	全国大学生生活協同組合連合会
T-18	株式会社日立製作所	T-48	パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社	T-72	日本データバシフィック株式会社
T-19	ファルコンシステムコンサルティング株式会社	T-49	フォトロンM&Eソリューションズ株式会社	T-73	一般社団法人大学ICT推進協議会 (AXIES)
T-20	ワールドビジネスセンター株式会社	T-50	富士ゼロックス株式会社	T-74	一般財団法人高度情報科学技術研究機構
T-21~22	アドビシステムズ株式会社	T-51~52	アラクスラネットワークス株式会社	T-75	国立情報学研究所
T-23~24	NEC	T-53	株式会社コムネット	T-76	立正大学 AP(大学教育再生加速プログラム)運営委員会
T-25	リコージャパン株式会社	T-54	株式会社アルファシステムズ	T-77~78	大阪大学サイバーメディアセンター
T-26	Dropbox Japan株式会社	T-55	日経BP/日経BPマーケティング	T-79	京都大学
T-27	SCSK株式会社	T-56	共信コミュニケーションズ株式会社	T-80	名古屋大学 情報連携統括本部
		T-57	株式会社クオリア	T-81	九州大学附属図書館付設教材開発センター

展示（正会員）

- T-73 一般社団法人大学ICT推進協議会（AXIES）
・大学ICT推進協議会の概要、現況
・情報倫理デジタルビデオ小品集7の案内
- T-75 国立情報学研究所
「学認が支える学術基盤の「信頼」とは ―フェデレーションからクラウド、研究データ管理まで―」
学術認証フェデレーション「学認」は、学術情報基盤における信頼（トラスト）の確立を目指しています。学認の一環として提供されるフェデレーション、クラウド、研究データ管理などのサービスをご紹介します。
- T-76 立正大学 AP（大学教育再生加速プログラム）運営委員会
「立正大学 大学教育再生加速プログラム（AP）」
本学ではAP実施にあたり、事務局設置、特任教員2名採用等多岐にわたった教育改善活動を実施しています。
- T-77 大阪大学サイバーメディアセンター
サイバーメディアセンターが提供する教育・研究に関するサービスおよび様々な支援活動について紹介します。
- T-79 京都大学
「教職協働・業務改善のための大学業務系システムのクラウド移行」
京都大学では教職協働・業務改善を目的とし、昨年末から今年にかけて業務系システムをクラウドに移行しました。本展示ではその背景から現在の状況について紹介します。
- T-80 名古屋大学 情報連携統括本部
「名古屋大学における教育研究用ICT基盤」
名古屋大学情報連携統括本部の活動、ICTに関連するサービス、情報基盤整備、情報基盤共同利用などについて紹介を行う。ポスター、情報連携統括本部パンフレット、NUICレター、共同利用公募案内の展示を行う。
- T-81 九州大学附属図書館付設教材開発センター
「九州大学附属図書館付設教材開発センターの活動報告」
2011年4月に設置された教材開発センターのこれまでの活動内容と成果についてご報告いたします。特にMOOCの制作と開講、ICT活用電子教材の開発実績についてご説明いたします。

展示（賛助会員・非会員）

- T-01 ネットワンシステムズ株式会社
「運用管理の効率化を実現するAI活用ソリューションのご紹介」
クラウドAI型無線アクセスポイント「Mist Systems」、使用状況を可視化できるストレージ管理「PureStrage」、AIを活用した潜在意識分析、AI顔認証を実現する「SAFR」を展示します。
- T-03 株式会社シー・オー・コンヴ
「新製品！高機能ネットブック『CO-COLORsほたて』と貸し出しPC運用支援ソリューション『CO-OnSen』～BYOD化を強力に支援し教育の高度化に貢献～」
「PC教室運用で多くの実績を誇るCO-CONVネットブックが機能・性能を大幅アップデート」「充電・イメージ更新・自動貸し出し・返却期限管理などの貸し出しPC運用はすべて『CO-OnSen』におまかせ」
- T-05 丸善雄松堂株式会社
「教育支援システムとのプラットフォーム一元化による効果的な学習環境の構築」
教育支援システムと丸善雄松堂の電子教科書・教材サービス、電子図書館サービスとの連携を通じて効果的な学習環境の構築や事例をご紹介します、学生の学習を強力にサポートします。
- T-06 システムギア株式会社
「IC/磁気対応ハイブリッドカードリーダー、学割証発行システム」
ICカード、磁気カードに対応したハイブリッド型のカードリーダーをご用意しております。
講義出席管理や勤怠管理用途にご利用いただけます。学割証発行に特化したシステムもご提案可能です。
- T-07 Blackboard Japan株式会社、アシストマイクロ株式会社
「クラウドLMS×連携ソリューション×学修成果の可視化」
学修成果の可視化に向けてBlackboard Open LMS、及びLearnのデモと、簡単に連携可能なお役に立てるソリューション、お客様の活用事例をご紹介します。ぜひ、ブースでご体験ください。

- T-08** ジュニパーネットワークス株式会社
 「BYOD時代にふさわしい先進的なAIクラウド型無線LAN/Office 365導入後のネットワーク負荷を効率的に分散」
 ・BYOD時代にふさわしい先進的なAIクラウド型無線LANが「つながらない」「遅い」を解決
 ・O365導入後に“ネットワークが重くなった”と感じたら？トラフィックの最適化で拠点間のボトルネックを解消
- T-09** 日本システム技術株式会社
 「日本システム技術株式会社 GAKUEN/UNIVERSAL PASSPORT」
 大学様向けポータルシステムのUNIVERSAL PASSPORTから、教育支援機能を中心にご紹介いたします。
- T-10** さくらインターネット／プラナスソリューションズ
 「新たなビジネスモデルに挑戦するさくらインターネット（株）とプラナスソリューションズ（株）」
 さくらインターネットとプラナスソリューションズは協調してデータプラットフォーム事業「Tellus」に参画する他、スーパーコンピュータのクラウド化など新しいビジネスモデルに挑戦しています！
- T-11** ソニービジネスソリューション
 「・研究データの大容量・長期管理「オブティカルディスク・アーカイブ」
 ・講義映像に新たな価値創造。AIを活用した「エッジ・アナリティクス・アプライアンス」」
 ・研究データの大容量・長期管理：大容量の研究データを安全に長期保存・管理するための光ディスクストレージをご紹介
 ・AIを活用した講義収録新手法：講義収録の課題をAIを活用して解決した新手法をご紹介
- T-13** レッドハット株式会社
 「オープンソースソフトウェア関連技術とレッドハットが提供する実践的な教育支援」
 デジタルイノベーションが叫ばれる中、オープンソースソフトウェア（OSS）の技術は年々重要性を増しています。注目のOSS技術に加え、研究活動の助けとなる技術やスキル獲得を支援するメニューをご紹介します。
- T-14** アカマイ・テクノロジーズ合同会社
 「公開サーバ、学内LAN、研究室まで多面的に守る アカマイのクラウド型セキュリティサービス群」
 情報流出、Web改ざんなど大学を取り巻く脅威は、インターネットを経由して行われています。20年間インターネットの基盤を支えるアカマイが、そのEdgeプラットフォームによる保護で御校を脅威から守ります。
- T-16** 株式会社内田洋行
 「大好評の「ウチダのOffice学割」のAXIES正会員向け特別プログラム／大学向けセキュリティ対策ソリューションのご紹介」
 ご利用学校数が260校を超えた「ウチダのOffice学割」に、AXIES正会員様向けの特別プログラムが追加されます。また、大学や教育機関で多くの実績のあるセキュリティ対策製品をご紹介します。
- T-17** CTC/サイオステクノロジー
 「簡単で安全！ ShibbolethとSNS/FIDOを活用した多要素認証のご紹介」
 CTCのSNS連携・FIDO認証機能とサイオステクノロジーのShibbolethにおけるAzureADの多要素認証制御。2つの強みを組み合わせたセキュアなクラウドID基盤をご紹介します。
- T-18** 株式会社日立製作所
 「オープンサイエンスを加速する日立的クラウド環境と多様なソリューション」
 日立は、研究データを管理・公開する各基盤の導入から、各種クラウドサービスのご提供、お客さま個々のニーズに合わせたIoT・人工知能（AI）などのソリューションの活用まで、幅広くご支援します。
- T-19** ファルコンシステムコンサルティング株式会社
 「クラウド対応統合認証基盤WisePoint Shibboleth v7」
 WisePoint Shibboleth v7の最新機能と、デモコーナーではテレワークにおける認証、SSO、IDのプロビジョニングをご紹介します。
- T-20** ワールドビジネスセンター株式会社
 「端末からサーバ・インフラまでをトータルサポートするICT包括ソリューションサービス」
 大学ICT部門様の負担軽減、業務効率化を実現するシステム運用管理などの各種BPOサービス、仮想デスクトップソリューションをご紹介します。
- T-21** アドビシステムズ株式会社
 「Adobe Creative Cloud 教育機関向けライセンス」
 世界中で使われているクリエイティブツール群の教育機関向けライセンスのご紹介です。これからの大学教育に欠かせない新世代のデジタルリテラシーの育成に、ICT環境整備の一環としてぜひご検討ください。

- T-23 NEC SX-AURORA**
 「大学・研究機関向け 次世代イノベーションプラットフォーム “SX-Aurora Tsubasa”」
 使い易さと超高性能を両立した『SX-Aurora Tsubasa』。デスクトップで利用可能なエッジモデル～大規模計算向けサーバーコンピュータモデルまで幅広いラインナップをご用意しています。
- T-24 NEC 教研系システム**
 「学生にも学び方改革を！新たな教育環境を提供するVDI予約システム「Virtual Desktop Reservation System」」
 学生に大学のPC環境を自由に利用させたい、NECのVDI予約システムはそんなお悩みを解決。大学資産を有効活用し、サービス向上を実現できます。顔認証・Shibboleth認証にも対応しています。
- T-25 リコージャパン株式会社**
 「42インチの薄型電子ペーパー！軽量・防塵防水・バッテリー駆動(参考出展)&サッとスライド、RICOH Handy Printer」
 ホワイトボードに手書きした内容を簡単に電子データとして保存、手書きをテキスト化しPC等への再入力が必要ありません。ワイヤレス接続でPCから文字・図等簡単に表示でき、遠隔地と内容を共有できます。
- T-26 Dropbox Japan株式会社**
 「高等教育機関で採用が進むDropbox Educationの概要紹介 ～教員・学生に支持され、いつでもどこでもデータにアクセス、その秘密を事例を交えて紹介」
 個人向けの優れた利便性と大学が必要とするセキュリティや高度な管理性を備えたDropbox Education。世界では40万社、国内でも関西大学、有名私立など各分野で採用が拡大中の理由を紹介します。
- T-27 SCSK株式会社**
 「次世代教育プラットフォーム SCSK Campus Innovations」
 SCSKではICTを活用した次世代教育プラットフォームを提供し教育の質保証をサポートしています。ポートフォリオ機能を中心に、「DreamCampus」、「PrimeLearning」をご紹介します。
- T-28 パロアルトネットワークス株式会社**
 「パロアルトネットワークスの提案するセキュリティの最新像を展示・ご紹介」
 学内を、クラウドを、未来をセキュアに。
 次世代ファイアウォールのみならず、次世代エンドポイント、XDR、クラウドセキュリティなど、弊社の提案するセキュリティの最新像を展示・ご紹介致します。
- T-29 シスコシステムズ合同会社**
 「Wi-Fi6+セキュリティ+働き方・学び方コラボレーション改革を推進するシスコ」
 今後の「学び方改革」「働き方改革」を支える、無線技術やビデオコミュニケーションを中心にご紹介いたします。その他、サイバー脅威に対する対策ソリューション、教材など各種シスコソリューションもご紹介いたします。
- T-31 西日本電信電話株式会社**
 「NTT西日本の文教ソリューションに対する取組み」
 NTT西日本の文教向けソリューションご紹介
 ・大学各種証明書をネット上で申請し、コンビニで受け取り可能：証明書発行サービス
 ・クラウド活用やセキュリティ分野等、大学ICT環境に必要なソリューション
- T-35 日本マイクロソフト株式会社**
 無限に広がるチームワークを実現するコラボレーションデバイスSurface Hub 2S新登場！学内コミュニケーションHubとして大注目のTeamsと共にご紹介します。
- T-36 フォーティネットジャパン株式会社**
 「大学のキャンパスネットワークにおける不正な端末の早期発見とクラウドセキュリティ対策」
 ・ネットワークに接続するデバイスやユーザを可視化：FortiNAC
 ・マルチクラウドセキュリティ：FortiGate on AWS/Azure/GCP、FortiCASB、セキュアSD-WAN
- T-37 株式会社クライム**
 「クライムが提供するバックアップ、DR、VDIソリューション」
 文教用VDIツール「Accops」、仮想化（VMware, Hyper-V, AHV）+物理環境バックアップ、DRツール「Veeam」、AWS特化の「Druva」などをご紹介します。
- T-41 アマゾンウェブサービスジャパン株式会社**
 「Amazon Web Services (AWS) with our Partners」
 2006年にアマゾン ウェブ サービス(AWS)はサービスの提供を開始しました。今回は弊社のパートナー企業様と一緒にサービスや事例のご紹介を行います。

- T-44 丸紅情報システムズ株式会社**
「文教向けネットワーク&セキュリティソリューション」
 ・キャンパス間ネットワークを仮想化し接続できるNWゲートウェイ製品
 ・標的型攻撃に対応する学内対策ソリューション
 等をご紹介します。
- T-46 ニュータニックス・ジャパン合同会社**
「ハイブリッドクラウドを実現するNutanix Enterprise Cloud OS」
 Nutanix Enterprise Cloud OSは柔軟かつ俊敏性のあるハイブリッドクラウドを実現するソリューションです。デモを交えながらご紹介させていただきます。
- T-47 三井情報株式会社**
「OpenStack on Nutanixによるクラウド・バイ・デフォルトの実現」
 Nutanix基盤上にOpenStackを用いて大学独自のクラウド環境を実現。
 柔軟な環境が必要な教育・研究の場において、大学のニーズに適したクラウド環境を提供する。
- T-48 パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社**
「必携PC・マルチOS教室をスマートに実現する最新ソリューションをご紹介」
 全国的に取り組みが加速している必携PCを支援するソリューションや、Windows・macOSのマルチOS教室をスマートに管理する最新ソリューションをデモ展示いたします。
- T-49 フォトロンM&Eソリューションズ株式会社**
「講義収録・医療/看護実習のシミュレーション収録配信システムのご紹介」
 講義収録配信、反転授業、OSCE等の医療/看護系実習のシミュレーション収録など様々な動画活用において、収録システム及び動画配信システムで革新的なご提案をします。
- T-50 富士ゼロックス株式会社**
「AI/クラウドと連携!! 大学市場における複合機ソリューションのご紹介」
 日々、新たなICTがスポットライトを浴びる時代。富士ゼロックスはAIとクラウドを利用して学内のIT連携の中心に複合機を置くことで、教員、学生、職員間の情報とコミュニケーションの充実をご提案します。
- T-51 アラクサラネットワークス株式会社**
「大学向けネットワークセキュリティソリューション」
 インシデント時に通知される被疑端末のIPアドレスから、その所在や過去の接続状況を確認できるソリューションを紹介。さらに、ネットワーク運用管理を容易化する新製品も展示予定。
- T-53 株式会社コムネット**
「情報基盤システムのご提案」
 大学様に導入実績のある認証基盤ソリューションです。
 是非お立ち寄りください。
- T-54 株式会社アルファシステムズ**
「多台数PCの管理・運用やPC授業に最適な製品をご紹介」
 ・PC運用システム「V-Boot」: 1台のPCで全台一括設定
 ・環境復元システム「V-Recover」: 再起動で簡単に環境復元
 ・授業支援ソフト「V-Class」: Mac、Win、Linux対応
- T-55 日経BP/日経BPマーケティング**
「ITリテラシー向上、資格取得等に役立つクラウド型教育コンテンツ提供サービス「日経パソコンEdu」のご紹介」
「日経パソコン」が提供するクラウド型デジタル教材サービスです。Officeや情報モラルなどITリテラシー向上に役立つ情報から、プログラミングやAIなど最新トレンドまで、多彩なコンテンツをお届けします。
- T-60 株式会社朝日ネット**
「クラウド型教育支援システム「manaba」
「manaba」はLMS・ポートフォリオをベースとしたクラウド型教育支援システムです。
 現在90校に全学規模でお使いいただいております。
 本展示ではサービス概要や活用事例等をご紹介します。
- T-61 富士通株式会社**
「2020年度新入生向け キャンパスモデルノートPCのご紹介」
 利用シーンに応じてノートスタイル、タブレットモード、スタンドモード、テントモードを使い分けられるコンバーチブル型の2 in 1 PCなど、2020年度の新入生向けのノートパソコンを展示してご紹介します。

- T-63 日鉄ソリューションズ株式会社**
 「学務情報システムCampusSquareは、「学生」「教員」「職員」三者間での学内情報共有と有効活用を実現します。」
 「学生」「教員」「職員」が情報を共有化し、必要な情報を迅速かつ正確に収集・提供できる環境を構築、学生関連業務の豊富なサブシステム提供により大学様の種々の業務機能に対応しております。
- T-64 キヤノンマーケティングジャパン株式会社**
 「教育支援情報プラットフォーム「in Campus」シリーズと活用事例としての留学管理システムの紹介」
 ポータル・LMSを皮切りに進化する「in Campus」シリーズ全般（ポートフォリオ・コミュニティ・デバイス・スキャン・プリント）と19年に神戸大学様でスタートした留学管理システムを紹介致します。
- T-65 ユニアデックス株式会社**
 「グループワーク型授業に向けた大学クラウドサービス」
 「クラウド型パソコン教室サービス／クラウド型ホワイトボードサービス
 クラウド型メール／ウェブ／セキュリティ運用サービス」に関し、大学様の事例を交えご紹介致します。
- T-66 エクスジェン・ネットワークス株式会社**
 「エクスジェン・ネットワークスが提供するID管理ツール LDAP Managerとクラウド型ID管理サービス (IDaaS) Exticのご紹介」
 LDAP Managerでオンプレミスの統合ID管理を実現。
 また、クラウド型のID管理サービスであるExticでID管理と学認参加も実現可能です。
- T-67 株式会社東和エンジニアリング**
 「マルチデバイス対応ワイヤレスコラボレーションツールと人・場所の“今”の状況見える化ソリューションのご紹介」
 複数のPCやスマートデバイスの画面、画像などのコンテンツをワイヤレスで簡単に表示できるコラボレーションツールと、人の所在や状況、場所・物の“今”の状態を見える化できるソリューションをご紹介します。
- T-68 株式会社プリンストン**
 「どこからでも気軽に利用出来る「ハドルルーム」に最適なコラボレーションツール」
 遠隔会議システムやクラウドを組み合わせ、離れた場所にいる「教員同士」「教師と生徒」「生徒同士」による打合せや研修、授業など、さまざまな場面で簡単気軽にコラボレーションができる製品をご紹介します。
- T-69 日本オラクル株式会社**
 「SINET接続利用でデータ転送量なし!! OSS利用にも最適なOracle Cloud」
 2019年5月に東京に新設された弊社データセンターが、SINET接続にも対応致しました。
 データ転送コストを気にせず利用できる、高パフォーマンスで安価なクラウドサービスをご紹介します。
- T-70 エイチ・シー・ネットワークス株式会社**
 「次世代高速Wi-Fi (IEEE802.11ax対応) アクセスポイントで学びの場の変革を」
 次世代無線規格 (IEEE802.11ax Wi-Fi 6) に対応した無線アクセスポイントをご紹介します。これまでの学びの場を変える無線LANでキャンパス内の課題を解決します。
- T-72 日本データバシフィック株式会社**
 「WebClassクラウドサービスと情報倫理デジタルビデオ小作品集7」
 全国90大学以上で導入いただいているeラーニングシステム「WebClass」がSaaSでご利用頂けるようになりました。
 ご好評を頂いている「情報倫理デジタルビデオ小作品集7」も展示しております。
- T-38 東京エレクトロデバイス株式会社**
 「IT資産の状況を可視化し、対処方法と優先順位を提示。サイバー攻撃実行のインフラを調査攻撃予測。」
 Balbixは全ての資産、攻撃ポイントの脆弱性を監視、把握し、対処策を提示します。
 Seclyticsは様々な脅威情報に対して機械学習を用い攻撃元のIPアドレス及び攻撃の種類を分析します。
- T-39 株式会社ネットスプリング**
 「株式会社ネットスプリング製品 (AXIOLE・eFEREC) ご紹介」
 (株) ネットスプリング最新製品紹介
 ・ AXIOLEネットワーク認証管理製品：ハードウェア版から仮想版、クラウド版
 ・ eFERECネットワークエンドポイントアクセス管理装置：SAML認証
- T-40 Infoblox株式会社**
 「デジタルトランスフォーメーション時代におけるセキュリティ基盤としてのDNSの有用性」
 Infobloxは脅威を素早く検知・阻止し、セキュリティスタック全般のパフォーマンスの最適化を実現するための基盤となるセキュリティを提供します。

- T-56 共信コミュニケーションズ株式会社**
「[DaAlps] ~AIによる講義収録コンテンツの活用~」
 DaAlpsとはAIによる講義収録コンテンツ活用ソリューションです。音声 AI 解析する事で、キーワード検索が可能。必要なコンテンツを AI によって探しあてる、講義収録の新たな活用方法を提案します。
- T-57 株式会社クオリティア**
「メールセキュリティなら、QUALITIA！」
 クオリティアは、国公立・私立大への導入実績も多い「Active! mail」や「DEEPMail」をはじめ、標的型攻撃対策「Active! zone」などメール・メール周りのセキュリティを展示します。
- T-58 マクニカネットワークス株式会社**
「学内外のユーザを守る、クラウドベースのセキュリティのご紹介」
 働き方改革、学生のBYODなど学内ネットワークにおけるセキュリティ対応は引き続き大きな課題です。Infoblox製品を利用したセキュリティ対応と万が一の際の端末特定を他製品との連携を絡めて紹介します。
- T-59 株式会社シティアスコム**
「モバイルアプリで大学の魅力度UP！と業務効率化のススメ」
 今や欠かせないモバイル。弊社のモバイルアプリで魅力度UPを実現しませんか？モバイル×クラウドが、学校の魅力を飛躍的に変化させます。また、業務改善も必須。RPAを用いた効率化を徹底的に実践しましょう。
- T-71 全国大学生生活協同組合連合会**
「学生が思わず教科書を読みたくなる!? <古くて新しい学びが実現できる> 大学生協の専門書ビューアのご紹介」
 先生方からは「学生が教科書を読むようになった。学生が教科書をどう読んでいるかが解った。」「学生の予習復習に役立っている。」というお声を頂いています。導入費用は基本的にゼロ。先生お一人から始められます。
- T-74 一般財団法人高度情報科学技術研究機構**
「HPCIシステム・HPCIシステムにおける利用支援」
 HPCIは国内最先端のスーパーコンピュータ等を高速ネットワークで接続し、ユーザーが利用できる共用計算環境基盤です。スーパーコンピュータ「京」の研究成果、HPCIの概要、利用、成果について紹介します。

BYOD化を支援する 『学校端末運用システム』で 教育の高度化に貢献

『PC教室や貸し出しPC』の管理負担を軽減し大学環境のBYOD対応を推進。端末必携が当然となる時代を見据えて、CO-CONVの製品群は開発されています。

- ✓ 授業用環境とCBT用環境の切り替えに
- ✓ アクティブ・ラーニング教室など、授業での貸し出し
- ✓ 学生の自宅学習を支援する貸し出しPC環境の整備に
- ✓ 毎週のイメージ更新でセキュリティ対策を万全に

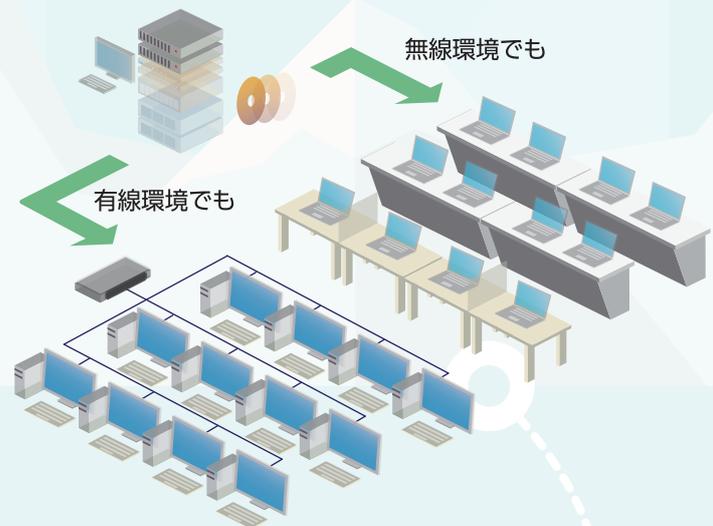
高機能ネットブートソリューション



PC教室運用で多くの実績を誇るCO-CONVネットブートが、機能・性能を大幅アップデート。有線でも無線でも、端末の高速起動・安定稼働と自在なディスクイメージ管理を実現します。

**電源ONから
ログイン完了まで25秒!**

起動の速さをご覧ください
<https://co-conv.jp/go?axies2019a>



貸し出しPC運用支援ソリューション



CO-CONV 製PC保管庫を中心に「自動貸し出し」「返却期限管理」「PCの充電」「PCへのイメージ配信」といった様々な機能を標準提供。貸し出しPCの運用・維持にかかるコストを大幅に削減します。

- 自動貸し出し
- PCへのイメージ配信
- 返却期限管理
- PCの充電

CO-OnSen利用の様子はここから
<https://co-conv.jp/go?axies2019b>



株式会社シー・オー・コンヴ

〒606-8225 京都市左京区田中門前町44 有斐閣京都ビル3F
TEL : 075-703-0740 FAX : 075-703-0738
E-mail : info@co-conv.jp

CO-CONV webサイト

<https://www.co-conv.jp>



文教ソリューションのご案内

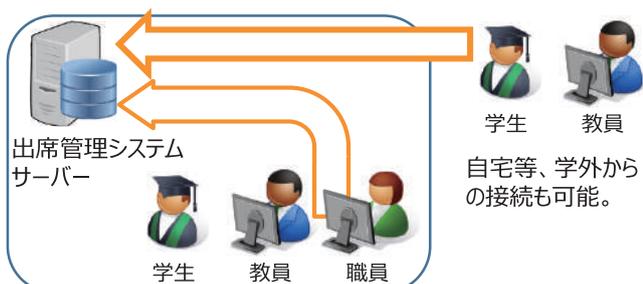
出席管理

高等教育無償化の流れにより、各大学様においても認定を受ける為に出席管理の整備が求められております。

出席管理なら、システム構築、カードリーダー選定まで、まるごとお任せ下さい。

<WEB管理タイプ>

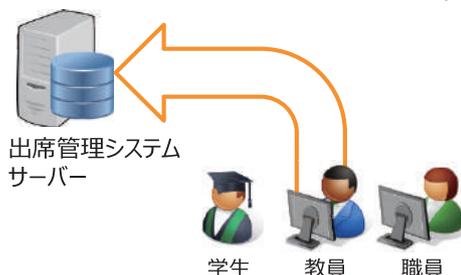
※学外公開も容易



ブラウザからの出欠情報参照、出席簿作成、閾値によるアラート、メール送信など
(学内外からの接続を問わず、クライアントPC設定に依存せず柔軟に運用可能です)

<クライアント/サーバータイプ>

※コストメリットで優位



職員様のPCや学内にある特定のPCから出欠情報参照、出席簿作成が可能
(WEBシステムよりも安価に構築可能です)

<スタンドアロン (簡易出席管理) >

※手軽にスタート



USBメモリ等でCSVファイルを取得



PDC-300RX



PIT-21A

出席情報を収集する端末として、大学様のニーズに合わせて最適なタイプをご提案可能です。

証明書自動発行機



ADC-3200

窓口の受付時間に依存することなく、証明書を即時発行し、学生サービスを向上します。

業界最小クラスのコンパクトなサイズながら、筐体一体型で本格的な機能を実装しております。

大画面液晶、LEDでの表示など、従来モデルより使いやすさを向上しております。

学割証専用自動発行機



機器イメージ

学割証発行に特化したコンパクトな筐体でカウンター上に設置しての運用も可能です。手軽に導入いただき、学生サービス向上に役立てていただけます。

IC学生証に対応し、タッチパネル画面にて操作可能です。

【お問い合わせ】

システムギア株式会社

営業本部 ソリューション営業1部 営業第1グループ

〒108-0073 東京都港区三田3丁目13番16号 三田43MTビル5F

TEL: 03-6858-2535

〒540-0034 大阪市中央区島町2丁目4番11号

TEL: 06-6910-4660

Blackboard Learn - 学習管理システム

あなたの教育改革パートナー

Blackboard Learn に、よりシンプルで直感的な“Ultra (ウルトラ)”インタフェースが誕生! 授業コンテンツへの素早いアクセスを実現し、さらに SaaS により、シームレスかつ強固な学修環境プラットフォームを提供します。動画システムはもちろん、論文の剽窃検知ツールとも連携し、教員と学生双方を本来のティーチング&ラーニングへ集中させ、双方のエンゲージメント(係わり)を高めます。

Blackboard Open LMS - 学習管理システム

かつてないほど手軽なオープンソース

Blackboard Open LMS は市場で最も成熟した、オープンソースベースの SaaS プラットフォームです。システム管理者がお困りの、サーバ管理における負担や工数を大幅に軽減し、使い慣れたインタフェースとユニークな独自機能が貴学ぴったりのオンライン学修環境の構築を実現します。

Blackboard Collaborate - 遠隔授業システム

もう研究室でのオフィスアワーは必要ありません

Blackboard Collaborate は、教育のためにデザインされたコラボレーションツールです。高品質な音声とビデオ、完全 Web ベースの直感的な操作によって、音声・ビデオによる双方向のコラボレーションやアプリケーション共有によって、教室での授業さながらの学習体験を実現します。外出先からの授業や会議、オフィスアワー、Web セミナーなど多様にご利用いただけます。

クラウド LMS x 連携ソリューション x 学修成果の可視化



連携ソリューションで、授業や学修スタイルがもっと広がります。



統合動画プラットフォーム

動画に特化した統合的なプラットフォームです。パソコンやサーバ上にある動画ファイル、Web カメラで録画したデータなど、さまざまな動画コンテンツを Kaltura にアップロードするだけで、配信準備や動画編集を自由に行えます。LMS との連携機能により、Kaltura 動画を教育コンテンツとして LMS 上に表示、管理することが可能です。



剽窃検知・教育ツール

学生から提出されるレポートや論文の内容を、他を圧倒する豊富なデータベースと照合し、既存情報との類似性をすばやく可視化してくれるオンラインツールです。コピーアンドペーストや引用が疑われる箇所のチェックだけでなく、提出物への細やかなフィードバックや成績評価、学生同士によるピアレビューまでオンライン上で行えます。

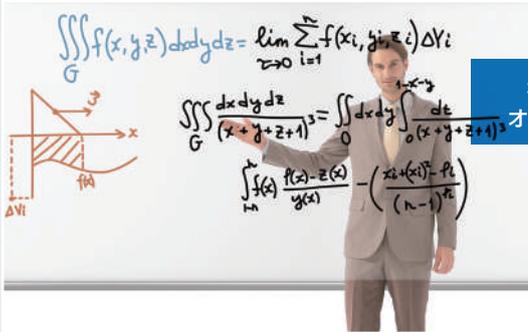


Blackboard 日本総販売代理店
アシストマイクロ株式会社 Blackboard Japan Project
〒164-0012 東京都中野区本町 3-31-11 7F
TEL: 03-5302-2982 FAX: 03-5302-2844
<http://www.blackboard.jp/> E-mail: bb_sales@assistmicro.co.jp



SONY

ソニーのAIテクノロジーで授業収録が進化する Edge Analytics Appliance (エッジ・アナリティクス・アプライアンス)



板書抽出
オーバーレイ



クロマキーレス
CGオーバーレイ



リモートカメラ
自動追尾



注目エリア
クロッピング

4K撮影を推奨

Edge Analytics Applianceの商品情報は
<https://www.sony.jp/edge-analytics-appliance/>



研究データマネジメントに向けた 保存寿命100年以上の高堅牢なメディア オプティカルディスク・アーカイブ

オプティカルディスク・アーカイブは、複数枚の堅牢性の高い
業務用光ディスクを格納したカートリッジと、これを制御する
高速光学ドライブによる光ディスクストレージシステムです。
このシステムは2012年の発表以来、アクセス性、堅牢性、
長期保存を求める幅広いユーザーに採用されています。

オプティカルディスク・アーカイブの
商品情報は sony.jp/oda/



Optical Disc Archive



ソニーのプロフェッショナル/
業務用商品の情報は

sony.jp/pro/

広告掲載商品に関するお問い合わせは
業務用商品購入相談窓口 [フリーダイヤル]

0120-580-730

受付時間：9：00～18：00
(土・日・祝日・弊社休業日は除く)

©ソニーおよびSONYは、ソニー株式会社の登録商標です。◎その他記載されている商品名は、各社の商標または登録商標です。本文中では、TM、® マークは明記していません。◎商品を安全に使うために必ず「取扱説明書」をよくお読みください。◎掲載商品の仕様や外観は改良のために予告なく変更することがあります。

ソニービジネスソリューション株式会社
Sony Business Solutions Corporation



Red Hat Academy

学生/研究者の皆様がオープンソース技術に精通していただくための無償プログラム

- Red Hat Enterprise Linuxを中心とした商用オンライントレーニングが無償で利用可能 (8コース)
- 先生方、生徒問わず無償で受講し放題
- 学内クラウド基盤に構築できるラボ環境を無償で提供
- レッドハット提供のラボ環境も有償で追加提供可能

詳細・利用開始はこちらから⇒

レッドハット株式会社 partner-mktg-jp@redhat.com



Enterprise Threat Protector

Akamai ETP

アカマイの脅威インテリジェンスで、常に最新の脅威対策を維持

社内でも社外でも、同一レベルの強固なネットワークセキュリティ

誰がいつどこに接続したのか、可視性を提供

大学におけるネットワークの課題

- 授業/就職活動等、あらゆる場面でインターネットの活用が必須
- インターネットアクセス(構内Wi-Fi)の安全な提供
- 標的型攻撃メール、ランサムウェアなど多くの被害が日々増加

既存対策の限界

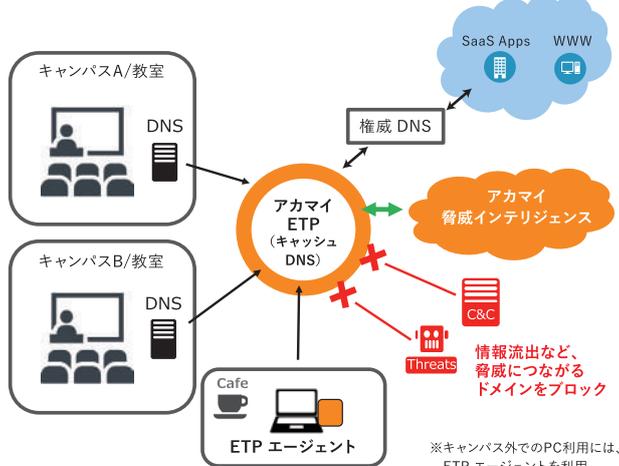
- ・セキュリティ機器の運用負荷(アップデート、メンテナンス、リプレイス)
- ・脅威情報データベースのリアルタイム性
- ・設定の複雑さ
- ・学外外出時の保護

大学向け特別ライセンスをご提供

教育現場のマルチデバイス化、IT活用の多様化に伴い、セキュリティ対策は複雑化しています。そこで、アカマイは、DNSセキュリティ製品「ETP」に、安価な大学向け特別ライセンスをご用意しました。5分で完了する簡単設定で、御校を保護します。

脅威ドメイン情報を常時更新するDNSサーバが大学を保護

Enterprise Threat Protector 導入イメージ



Web Application Protector

Akamai WAP

簡単初期設定!
管理が面倒なWAFルールは自動更新

上位製品ゆずり!
最強のDDoS対策+ウェブからの情報漏えい対策

中規模ウェブでも導入できる
これまでにないお手頃な価格

こんなお悩みを持つ大学Web担当者必見!

- 大学のブランディングが重要となり、年々リッチ化していくウェブサイトの最適化と高速化の実現
- 合格発表時におけるウェブサイトへの集中アクセスを負荷分散
- コンテンツ改ざんやログインページへの不正アクセスの遮断
- ウェブセキュリティの安定運用と運用負荷低減

無償トライアルをご提供

- 最大60日間、WAP機能を現在のご契約に無料で追加
- WAFはモニタモードでの追加のため通信に影響なし
- ご試用期間後アカマイが無償で攻撃を可視化し報告

トライアル実施～可視化までの流れ

トライアル契約書締結

アカマイによる設定作業の実施

トライアル開始

期間中の1~2週間の攻撃トラフィックを収集

報告書のご提示



最大60日

以降の対策(Deny化)のご検討



アカマイ・テクノロジーズ合同会社[英文名: Akamai Technologies GK]

東京本店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-1-3 京橋トラストタワー Tel:03-4589-6500 Fax:03-4589-6501

email: info_jp@akamai.com HP: https://www.akamai.com/jp/ja



ウチダの学割

検索

Microsoft Office

大学 ICT 推進協議会
正会員大学の学生様 特典

学割

ガク
7!

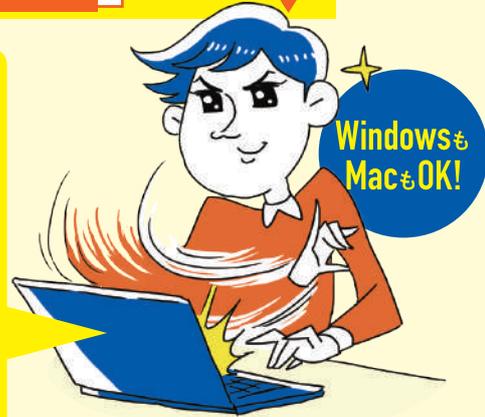
ワード・エクセル・パワポ等



その他マイクロソフトオフィスまるごと!



※1 Access、PublisherはMac版には含まれません



OfficeがインストールされていないPCと^{※2}

ウチダの学割Officeのコンピが圧倒的にお得!

※2 PCはセット内容には含まれません

大学 4年制の場合

¥13,948

¥20,680

通常の学生向け価格

Microsoft Office Professional Academic (参考価格)

¥30,580 (税込)

1年生・2年生 お得

3年生・4年生 お得

¥16,632 (税込)

¥9,900 (税込)

標準価格よりさらに割引が適用されるため、ウェブサイトに掲載されている価格とは異なります。学割ウェブストアにログイン後、記載の価格にてご購入いただけます。1年生・2年生の場合、卒業までを期限とする最長4年間、3年生・4年生の場合、同じく最長2年間のアップグレード可能期間の特典があります。

サイオテクノロジー／CTC クラウド ID 基盤のご紹介

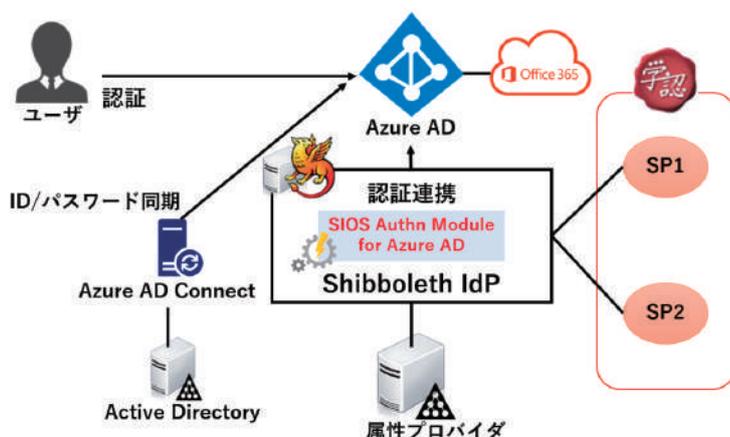
Shibboleth における AzureAD の多要素認証制御と
SNS 連携・FIDO 認証機能を組み合わせて
セキュアな認証基盤を実現

SIOS Authn Module for Azure AD

本モジュールを Shibboleth IdP に組み込むことで、Azure AD が提供する高セキュアな認証（多要素認証やリスクベース認証）を Shibboleth IdP で使用可能に。Shibboleth IdP とフェデレーションしている学認 SP ごとに Azure AD で多要素認証を「使用する」または「使用しない」といった制御が可能です。

特徴

- Shibboleth IdP の認証を Azure AD で実施
- Shibboleth IdP の認証で Azure MFA (多要素認証) が使用可能
- リスクベース認証 (Azure AD Identity Protection) が可能
- SP 毎に認証方式の制御 (多要素認証の有無) が可能
- 属性配信同意画面 (uApporve) が使用可能
- Azure AD Connect で ID/パスワードの同期が必須
- Azure AD PREMIUM P1 以上のライセンスが必須

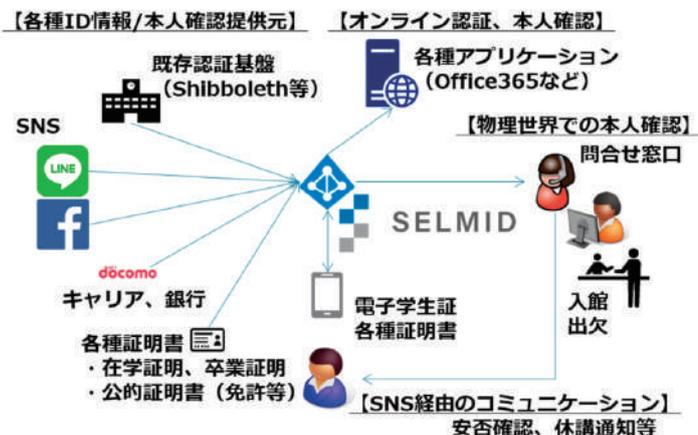


CTC クラウド ID 基盤「SELMID」

Microsoft Azure Active Directory B2C を CTC 独自に拡張。既存アプリケーションの SNS ログイン対応、認証強化や、学生とのコミュニケーション強化に必須の SNS 連携を容易かつ柔軟に実装できる基盤です。

特徴

- 既存システムと簡単に連携し、SNS ID でログイン可能に (N 対 N での連携)
- メールや API 連携による、個別 SNS メッセージ配信を容易に実現
- 各種証明書や本人確認サービス (キャリア等) との連携、FIDO 認証にも対応



WisePoint Shibboleth version7

SAML2.0対応

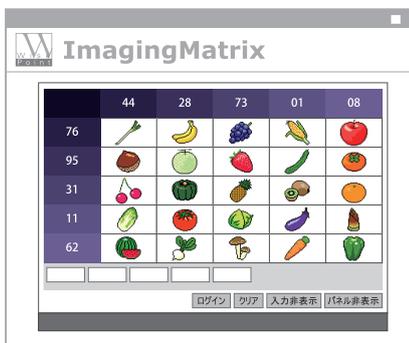
Shibboleth ver3対応

ワンタイムパスワード認証

- シングルサインオンの導入でユーザと管理者の利便性向上
- フェデレーション対応のワンタイムパスワードでセキュリティ強化

多彩な認証機能

■イメージングマトリクス認証



- ・覚えやすく忘れにくい絵柄・図柄で認証
- ・ユーザはあらかじめ決めた画像を順番通りにクリックするだけ。
- ・ログイン毎にイメージの位置情報が変化する事で、ワンタイムパスワード認証を実現

■マトリクスコード認証



- ・ユーザ毎にユニークな乱数表を用いた認証
- ・ユーザはサーバから指定された行列の数値を入力するだけです。
- ・ログイン毎にチャレンジコードが変化することで、ワンタイムパスワード認証を実現
- ・記憶と所有物による二要素認証

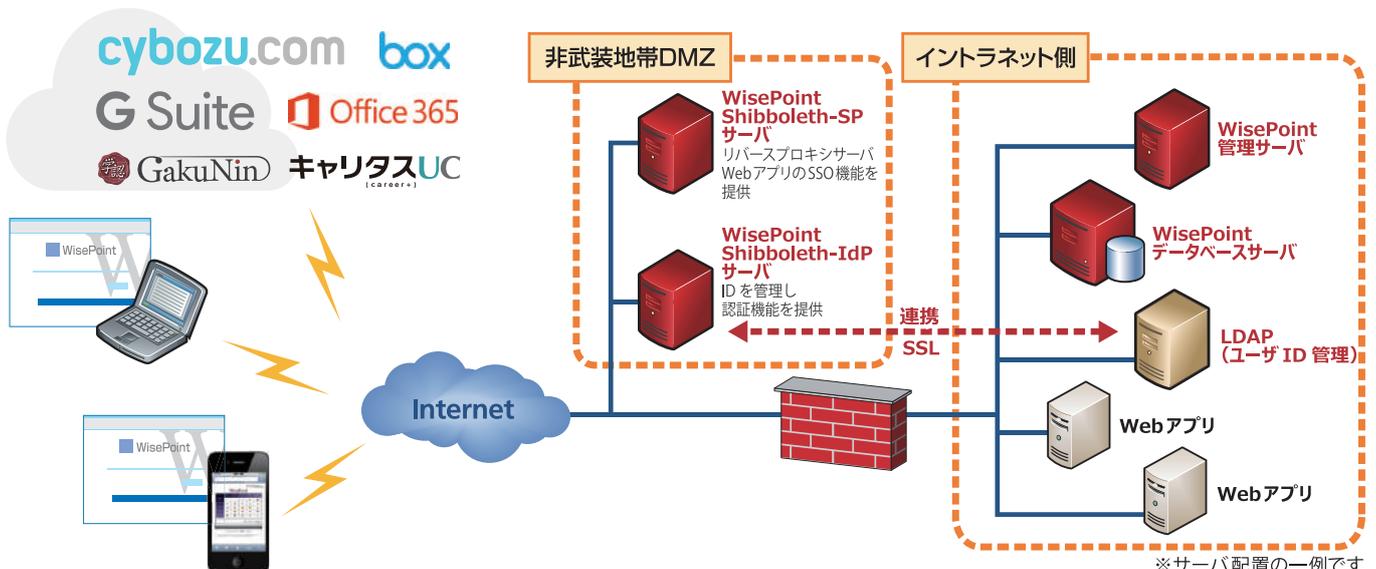
■パスワード認証



- ・本人しか知らない既知情報を「質問(チャレンジ)」と「答え(レスポンス)」として登録利用できるので、覚えやすく忘れにくい認証方式
- ・日本語(全角文字:漢字やひらがな)と英数字を利用できます
- ・パスワードに利用可能な文字数が英数字のみの認証と比べ増加するため、総当たり攻撃に強い耐性を発揮

■GoogleAuthenticator対応

システム構成



開発・販売

Falcon System Consulting
TRUST & INTEGRITY

ファルコンシステムコンサルティング株式会社
e-mail: sales@falcons.com URL: http://www.falcons.com/

大学ICT推進協議会 (AXIES) 2019年度年次大会 ブース出展予定!

WBCワールドビジネスセンター株式会社

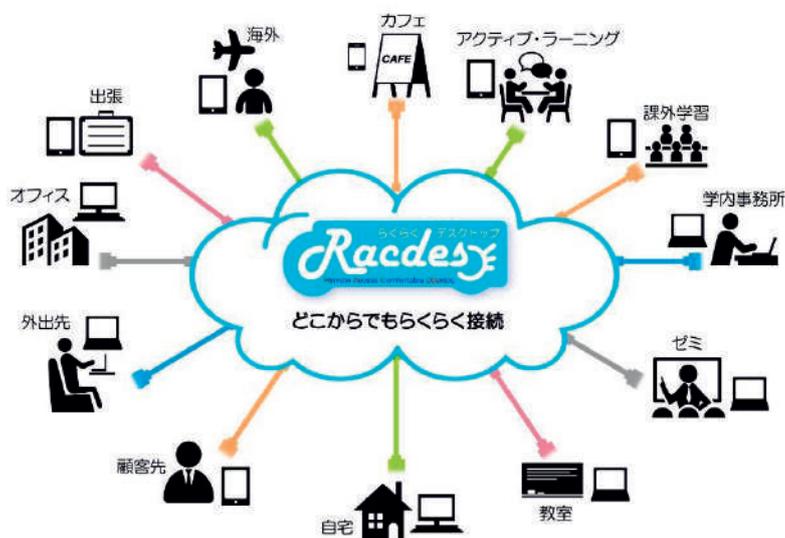
ブース展示予定

- 仮想デスクトップソリューション
- 教育研究系ICTサポートサービス NeTS



安定・快適な仮想デスクトップ環境をご提案いたします。

導入事例もご紹介!



大学ICT部門様の業務負担軽減、
効率化に寄与する
各種BPOサービスを
ご提案いたします。



お問い合わせ

ワールドビジネスセンター株式会社
ソリューション事業本部 ソリューション営業部
eigyo@wbc.co.jp
【京都本社】 TEL 075-662-7055
【東京本社】 TEL 03-5289-9966

<https://www.wbc.co.jp/>

WBCワールドビジネスセンター株式会社

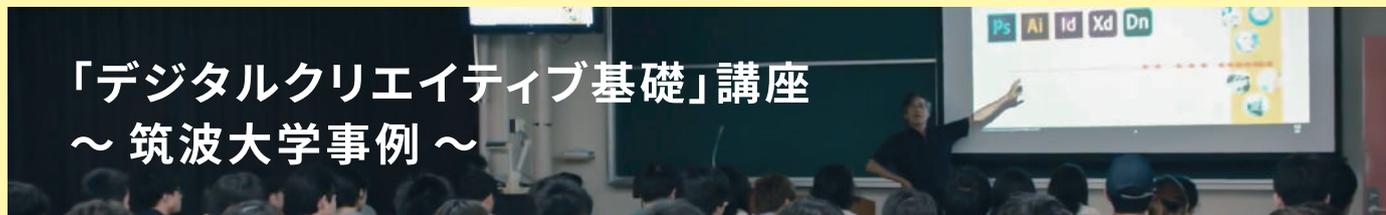


— いま大学に必要なデジタルリテラシー教育とは？ —

今、高等教育ならではのデジタルリテラシー教育として、進路や専攻に関わらず一般教養科目の正規授業として「デジタルクリエイティブ基礎」講座を開講する大学が増えつつあります。

これからの社会で活躍する研究者や学生には、研究内容や自身の取り組みについて「人に伝える力」「自分から発信する力」の強さと質が重要であり、そのために使いこなすデジタルツールは、オフィスツールだけでは全く差別化にならないという考えに基づくものです。

2019年度は千葉大学、北海道大学、筑波大学、山形大学、横浜国立大学で開講されています。



シラバス	
第1回：ビジュアル表現（講義）	ビジュアル表現の構成要素を支える技術の役割
▶ 第2回：ビジュアル表現（演習）	
第3回：画像処理（講義）	画像形式の特性や画像処理の仕組み
▶ 第4回：画像処理（演習）	
第5回：カラーリング（講義）	メディアによる色の扱い方の違い、特性、色指定の考え方
▶ 第6回：カラーリング（演習）	
第7回：タイポグラフィとレイアウト（講義）	ビジュアル文字表現とWebレイアウト技法
▶ 第8回：タイポグラフィとレイアウト（演習）	
第9回：映像制作（講義）	映像コンテンツに関わるデジタル技術の基礎について
▶ 第10回：映像制作（演習）	

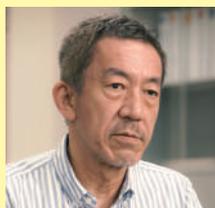


小学校でプログラミングが必修になる時代、大学教育はさらに付加価値のあるものでなければいけません。その意味で、デジタルツールを用いて単にアイデアを形にできるだけではなく、人によりわかりやすく伝えるようにするための技術を習得する機会を提供すべきだと考えました。実施してみると学生たちは細かい作業にもよく取り組めており手応えを感じています。

筑波大学 図書館情報メディア系 長谷川 秀彦 教授

アドビ製品は以前から導入していましたが、学生たちがPhotoshopやIllustratorはやや敷居が高いと感じている様子を見て、手を動かして学べる授業を実現しようと思立ちました。実際の授業では使い方だけではなく、デザインの考え方や社会での活かし方の視点も学んでいる様子うかがえます。やはりまずは機会を提供することが大切だと実感しています。

筑波大学 情報環境機構 学術情報メディアセンター 中井 央 准教授



単なるツールの使い方というレベルではなく、実際の世界の中でのコンテンツの在り方を学べる授業を実現できたと思います。情報というのはあらゆる分野と接点を持ちつつ発展できる学問です。最先端の技術にも広く視野を持ちつつ創造性を発揮できる人材が育ってくれることを願っています。

筑波大学 情報学群長 情報環境機構長 和田 耕一 教授

詳しいシラバスはこちら

<https://kdb.tsukuba.ac.jp/syllabi/2018/1F20024/jpn/0/>

この事例の紹介映像はこちら ▶



..... セミナーにて詳しくご紹介いたします。12月13日(金) 10:50~ 会場:414

Creative Cloud 導入環境の例



PC教室



ラーニングcommons



研究室

Adobe Creative Cloud とは

※ライセンスの種類により、一部ご利用いただけないサービスやアプリケーションがあります。詳しくはご相談ください。

Creative Cloudは、PhotoshopやIllustratorをはじめとするデスクトップアプリ、多彩なモバイルアプリ、さらに大容量ストレージやフォントサービスなど、制作に必要なすべてがご利用いただける定額制メンバーシップです。

- | | | | |
|------|--------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| 製品一例 | Illustrator ▶ イラストやデザイン | InDesign ▶ ページレイアウトやデザイン | Premiere Pro ▶ 映像編集 他多数 |
| | Photoshop ▶ 画像編集 | Adobe XD ▶ UI/UXデザインとプロトタイプ | |



新しいベクトルアーキテクチャが、 未来を切り拓く。

SX-Aurora TSUBASAは世界最速のベクトルエンジン(VE)をx86サーバ(OS: Linux)に搭載する新アーキテクチャを採用。性能、設置環境、用途等のニーズに合わせて、エッジ用からデータセンタ用まで柔軟にシステム構成が可能です。HPC領域の科学技術計算に加え、AI・ビッグデータ解析、資源探査、画像解析、セキュリティなどの新しい領域へ活用の翼が広がります。



データセンタモデル

●ベクトルエンジン(VE)仕様

演算性能(8コア): 2.45TFLOPS、2.15TFLOPS
(単一コア性能: 307.2GFLOPS、268.8GFLOPS)
メモリ帯域: 1.22TB/秒、0.75TB/秒

●ラインナップ

エッジモデル(タワー型、1VE搭載)
オンサイトモデル(ラック搭載型、最大8VE搭載)
データセンタモデル(専用筐体、最大64VE搭載)

次世代イノベーションプラットフォーム

SX-Aurora TSUBASA

適用分野

- 大学、研究機関 / 研究開発、大型計算機センター
- 自然 / 気象変動、気象予報、防災・減災、資源探査
- ものづくり / 構造解析、流体解析、新材料開発
- 社会インフラ / AI、IoT、画像解析、新エネルギー
- 医療 / パイオ、ヘルスケア、新薬、DNA解析
- マーケティング / ビッグデータ解析、金融、次世代流通





宛名の
横書き

〒143-8555

東京都大田区中馬込1丁目6番6号

株式会社リコー

RICOH

宛名の
縦書き



QRコード
バーコード



※QRコードは最大12.7mm、バーコードは最大13.5mmになります。

サッとスライド。きれいにプリント。 オフィスの新しい必需品です。

書きたい場所にスライドさせるだけで、宛名の横書き・縦書きはもちろん、
QRコードやバーコード、イラストの印刷までサッと手軽に行える「RICOH Handy Printer」。

多彩な機能を片手におさまるコンパクトなボディに搭載し、
オフィスワークの効率化を力強くサポートします。

一步先ゆく新感覚のプリンター、これが印刷の新しいカタチ。

RICOH Handy Printer



●Black

●Red

●White

※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

<https://www.ricoh.co.jp/prINTER/handy-printer/>

RICOH Handy Printerに関するお問い合わせは下記のダイヤルで承っております。

お問い合わせ窓口

0120-235-061

●受付時間：平日(月～金)9時～12時、13時～17時(土日、祝祭日および弊社休業日を除く)
※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただいております。
※受付時間を含め、記載のサービス内容は予告無く変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1-3-6 〒143-8555



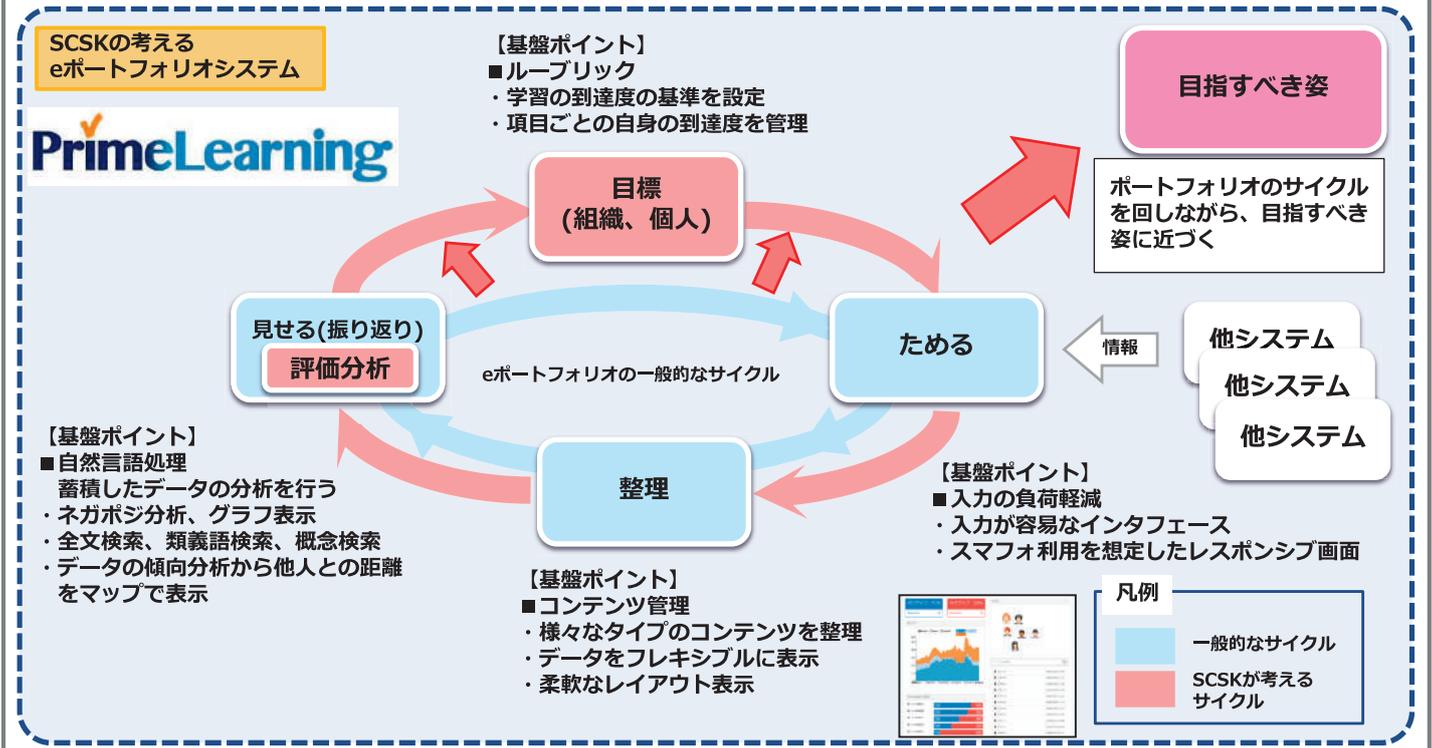
PrimeLearning

“Goal-Based Learning Management” を行うeポートフォリオ

■ eポートフォリオシステム PrimeLearning

eポートフォリオは、学生の活動や成果を蓄積して整理を行いながら、振り返りを行う仕組みです。

SCSKの考えるeポートフォリオは、このサイクルに組織・個人目標（到達度基準）、評価分析を追加することで、目標に対する成果を振り返り、目指すべき姿の実現をサポートするシステムです。



DreamCampus

次世代教育プラットフォーム



DreamCampusシリーズは、大学改革に必要な機能を装備したプラットフォームです。充実した管理機能や洗練された学生サービス機能により、教育・研究に最適な環境を提供いたします。

Point 入学から卒業までのトータルソリューション

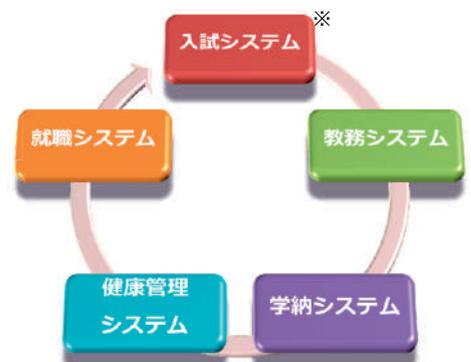
入学から卒業後までカバーしたSCSKのトータルソリューション。大学ごと、独自に実現するエンロールマネージメントを強力にご支援します。また、大学様のニーズに合わせ、業務カットでの各ソリューションの単体導入も可能です。
 ※：入試管理システムにつきましては、株式会社コンセプト社からの提供となります。

Point データの一元管理によるリアルタイム処理

システム内のデータは一元管理されており、業務処理間で必要データはリアルタイムに自動連携されます。タイムリーな学生様の学修・出席状況把握による学生指導、経営判断に必要な各種傾向分析がリアルタイムに実施できます。

Point グローバル、クラウドの最新ニーズに対応

学事暦：クォーター制、Unicode、ポータル(学生/教職員)日英二言語に対応しています。今後の高等教育機関の国際化をシステム面から支援します。また、プライベートクラウド、パブリッククラウド上でも動作しますので、大学様のニーズに合わせ、ライセンス型、利用型にてご提供します。





SECURE THE FUTURE!!

パロアルトネットワークス

SECURE THE ENTERPRISE



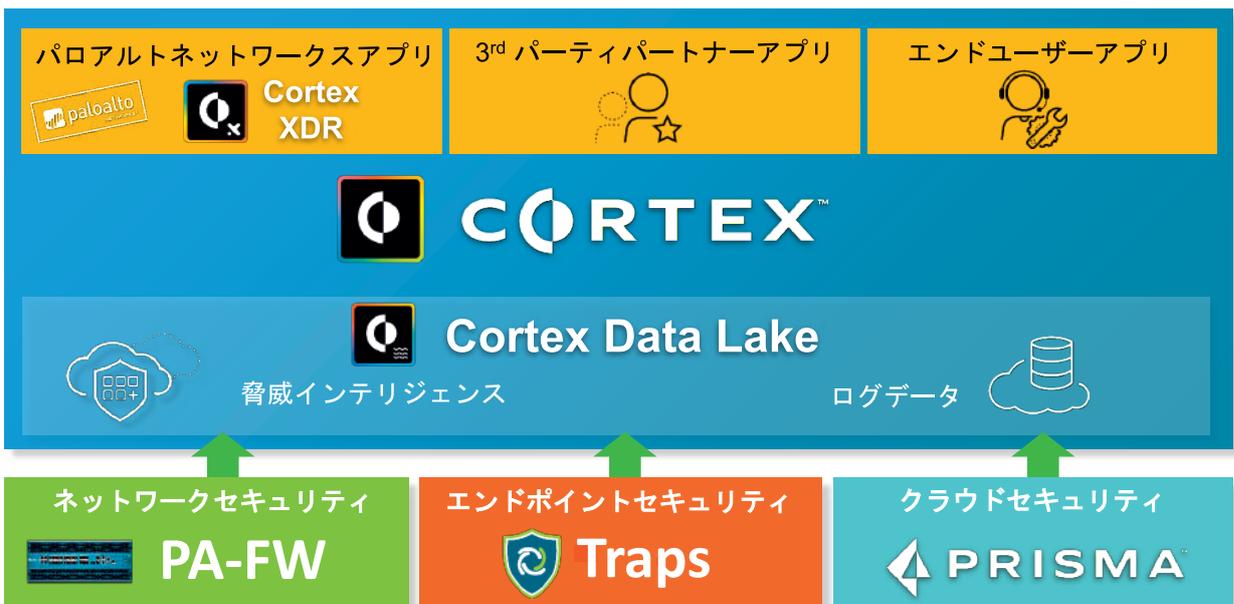
SECURE THE CLOUD



SECURE THE FUTURE



セキュリティ・オペレーティング・プラットフォーム



問い合わせ先 パロアルトネットワークス株式会社
公共営業本部 asp@paloaltonetworks.com

シスコ in AXIES 2019

出展概要

教育における様々な障壁をITを活用し支えるソリューション群を紹介いたします。

- 働き方・学び方を支えるコラボレーションソリューション
- 包括的なサイバーセキュリティ・無料セキュリティ人材育成プログラム
- Wi-Fi6 + 活用を妨げない運用性

出展社セミナー

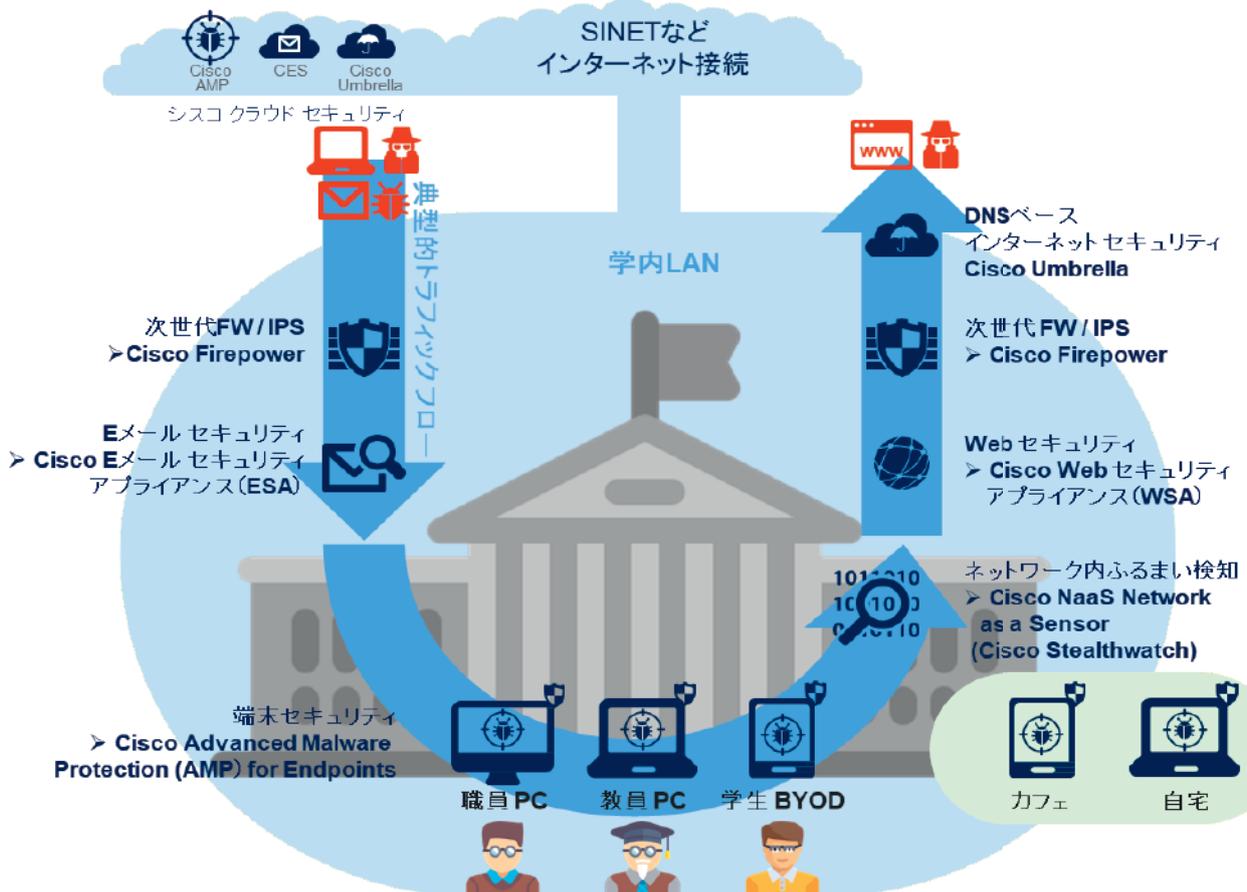
今回、2つのテーマを予定しております。

1つめは、東洋大学情報システム部様より、Cisco Webex の大学内における利活用について、ご講演いただきます。まさに、やり方ひとつで変わるツールの浸透術は必聴です。

2つめは、昨今話題の5Gに対して、Wi-Fi6の位置づけに関して、今までにないユースケースも含めて、弊社製品担当より、講演いたします。

今年のAXIES x Cisco の取り組み

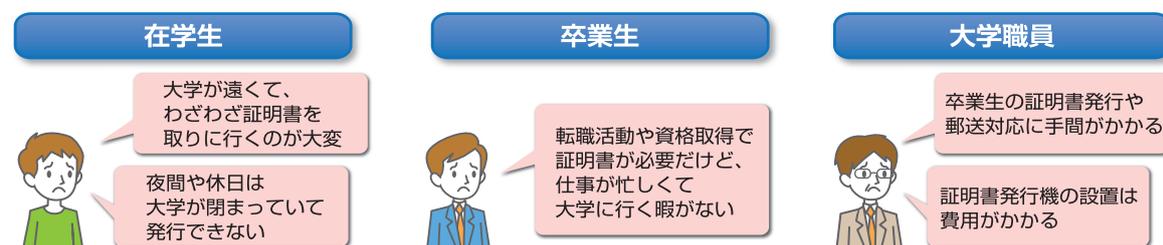
- 出展ブース内のインフラ支援をします (各会場内等は範囲外)
- AXIES全大会のWebexによる配信 (予定)
- 九州大学様との企画合同セッション IT技術者様向けセキュリティハンズオン
テストマルウェアファイルを使ったEDR体験など



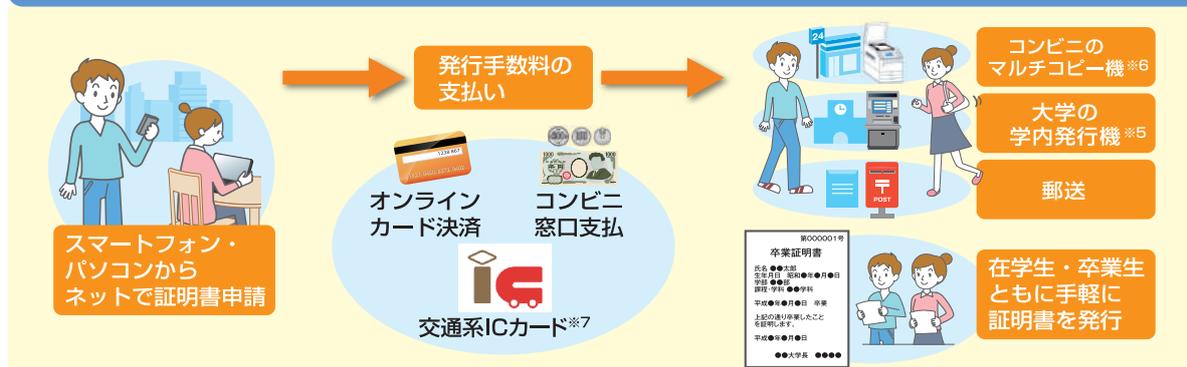
シスコのセキュリティソリューション ポートフォリオ
シスコのソリューションで実現する入口/出口/内部対策

証明書発行サービス

- サービス利用者(在学生/卒業生)はスマートフォン・パソコンからネットでいつでもどこでも証明書*1の申請が可能
- 24時間365日*2身近なコンビニエンスストア*3に設置されたマルチコピー機で証明書が発行できて、利便性が格段に向上
- サービス導入者(大学等)は窓口業務、現金収納業務の負担軽減
- コンビニ発行だけでなく、証明書の郵送依頼もオンライン受付*4可能に!
- さらに、専用プリンターとの連携*5により、学内で証明書(学割証を含む)を発行する場合も本サービスが利用可能に!



証明書発行サービスなら**ネット**で申請、**コンビニエンスストア**で印刷!



※1 コンビニエンスストアで発行できる証明書は卒業(見込)証明書や成績証明書、健康診断証明書等のA4またはA3サイズの証明書です。
 ※2 証明書を発行/受け取りできる時間は、コンビニエンスストアの営業時間に従います。
 ※3 本サービスは指定のコンビニエンスストアで利用可能です。
 ※4 発行・郵送は大学様で実施していただきます。利用者様は別途送料等が必要となります。
 ※5 学内発行連携はオプションサービスです。本機能を利用する際は、富士ゼロックス株式会社が提供する連携用のプリンターが必要となります。プリンターで証明書発行手数料を支払う場合は、交通系ICカードまたは生協電子マネーでのお支払いが可能です。
 ※6 申請した証明書を発行する際に、別途コンビニエンスストアでのマルチコピー機の利用料がかかります。
 ※7 交通系ICカードまたは生協電子マネーでの支払う場合は、学内発行機連携オプションの専用プリンターが必要となります。
 * 本サービスには、別途、決済代行サービス事業者とのご契約、料金が必要です。
 * 本サービスには、別途、「フレッツ 光ネクスト」等のFTTHアクセスサービス及び、プロバイダーとのご契約、料金が必要です。

未来を創る力を引き出す

軽さの中に、無限の可能性を。

Surface Pro 7



あなたを変える、性能と美しさ。

Surface Laptop 3



Surface の製品情報はこちら

<https://aka.ms/sf-biz>



Surface カスタマーインフォメーションセンター

0120-41-6755 受付時間：9:00-17:30
※土日祝、弊社指定休業日を除く

● 在庫状況、発注期限に関してはリセラー各社にお問い合わせください。● 製品の仕様は予告なく変更する場合があります。● 掲載の画面、キーボードは英語版です。
● 教育機関用の Surface には Office はインストールされていません。● 使用している画像はイメージです。● 内容は2019年10月現在のものです。

フォーティネット セキュリティ ファブリック

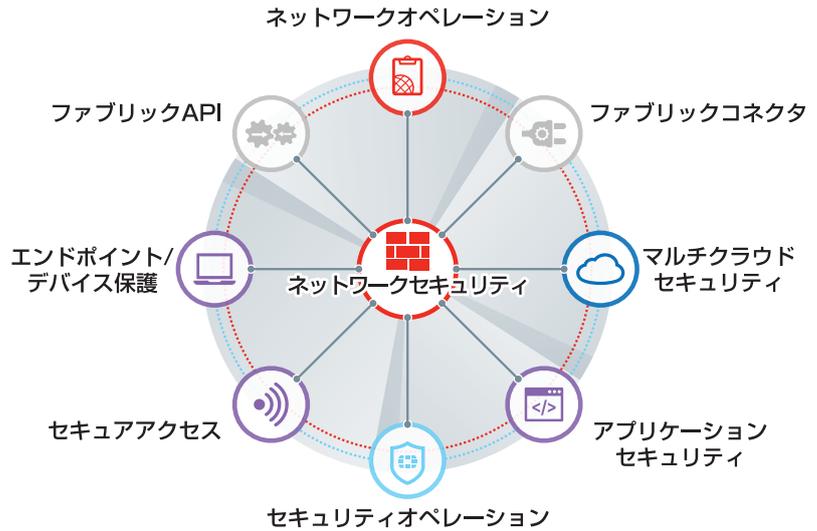
第三世代のネットワークセキュリティ

フォーティネットは、進化するITインフラに対する動的な適応と保護を実現する、初のオープンなセキュリティアプローチである「フォーティネット セキュリティ ファブリック」を提供し、ネットワークセキュリティの未来を再び切り拓いていきます。

Broad (幅広い)
デジタル攻撃対象領域の可視化

Integrated (統合化)
全てのデバイス、ネットワーク、アプリケーションに渡るAIドリブンの侵害保護

Automated (自動化)
オペレーション、オーケストレーション、レスポンス



お客様のネットワーク全体をカバーするセキュリティ ファブリック

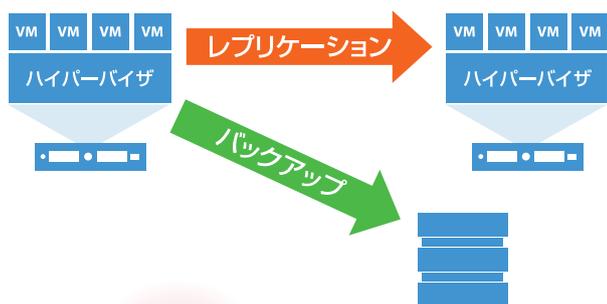
ファブリック API	ファブリック コネクタ	マルチクラウド セキュリティ	エンドポイント/ デバイス保護	アプリケーション セキュリティ	セキュア アクセス	セキュリティ オペレーション	ネットワーク オペレーション
<ul style="list-style-type: none"> 大規模でさらに拡大を続けるパートナーとの統合によるオープンエコシステム ファブリック・レディ パートナーが広範なテクノロジーを拡張 ファブリックコネクタによって、複数のベンダー製品を使用するエコシステムとの緊密な統合を実現 DevOpsのスクリプトによりセキュリティのプロビジョニングと構成を自動化 	<ul style="list-style-type: none"> FortiGate 仮想ファイアウォール FortiCASB 	<ul style="list-style-type: none"> FortiClient FortiNAC 	<ul style="list-style-type: none"> FortiWeb FortiADC FortiMail FortiDDoS 	<ul style="list-style-type: none"> FortiAP FortiSwitch FortiToken 	<ul style="list-style-type: none"> FortiAnalyzer FortiSIEM FortiSandbox 	<ul style="list-style-type: none"> FortiManager 	

クライムが提供するソリューション

ヴィーム

VEEAM

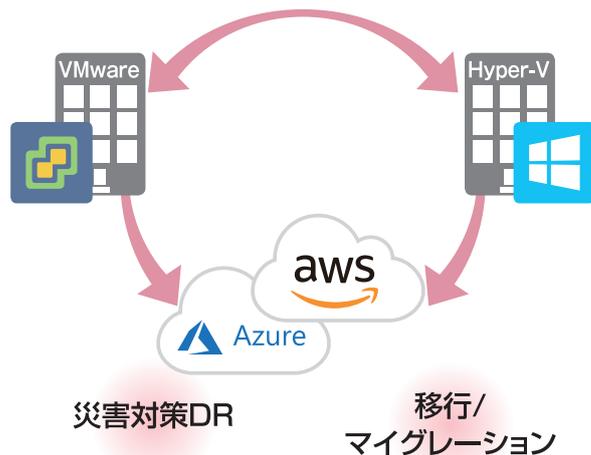
バックアップと
レプリケーション2in1



ゼルト

Zerto

ハイパーバイザベースレプリケーション
数秒のRPO



アコップス

ACCOPS

セキュアな仮想化
ワークスペース



インフィニオ

INFINIO

全てのストレージに
爆速なI/Oを



【脅威インテリジェンスソリューション】

将来的な攻撃の予測やIT資産の脆弱性把握・リスク評価をAIで実現

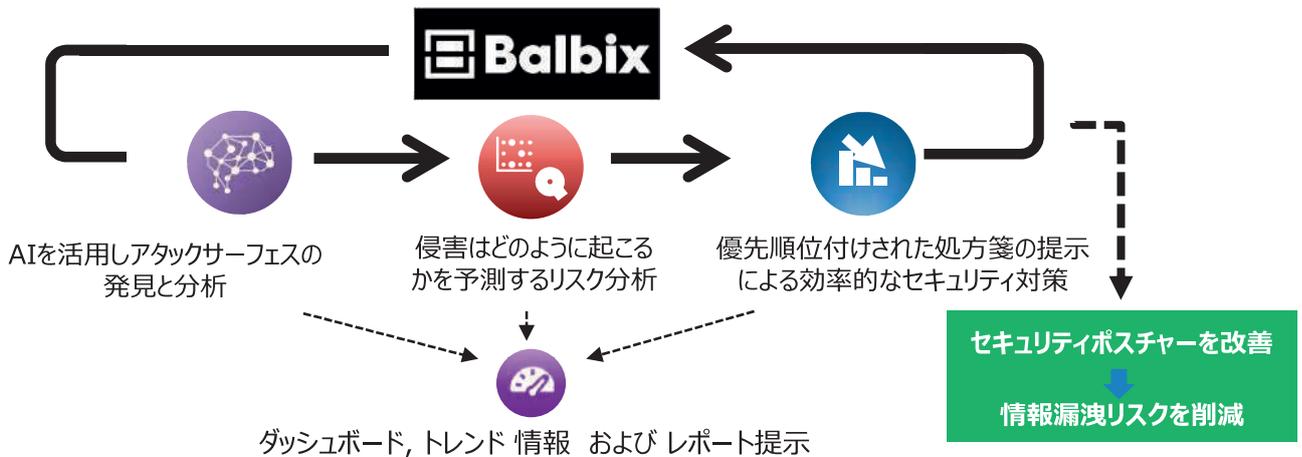
セキュリティ対策には確認すべきポイントが非常に多く、どこに弱点があるのかわからないという企業も少なくありません。そこで注目されているのがAIを駆使したインシデント対策です。

東京エレクトロンデバイスはIT資産の脆弱性をリアルタイムに把握するソリューションや脅威情報を予測しその確認とレポートで先手を打つソリューションによりお客様が直面しているセキュリティの重要課題を洗い出し、効果的な対策をご提案しています。

IT資産の脆弱性をリアルタイム監視



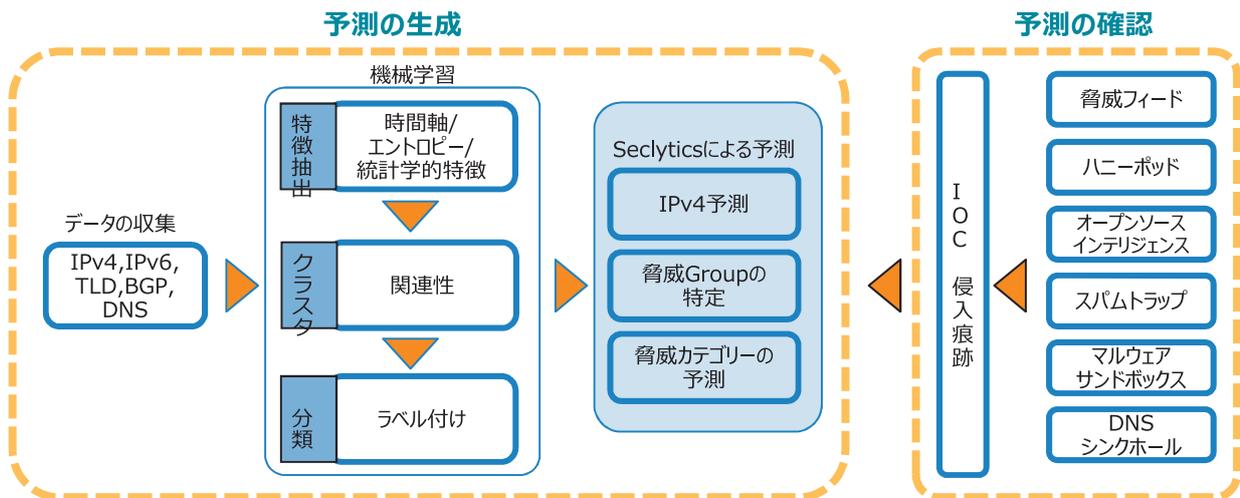
- Network・Trafficアナライザーがインベントリーを自動認識
- 対処すべきIT資産やアプリを優先順位をつけて提示



脅威情報の予測と可視化サービス



- 収集情報をもとに攻撃の予測情報をレポート
- 既知脅威情報も合わせて予測した推定を再確認



本紙に記載された会社名、ロゴ、ブランド名、製品名、サービス名は各社の商標または登録商標です。その他全ての商標および登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。



東京エレクトロン デバイス株式会社

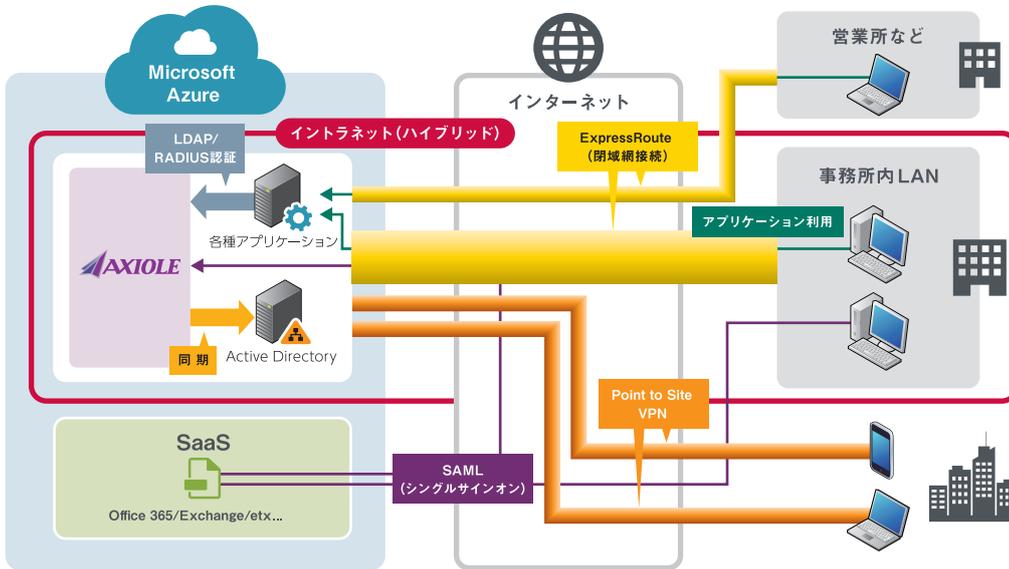
〒163-0134 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー-S34階

【URL】 <https://cn.teldevice.co.jp>

【TEL】 03-5908-2045

AXIOLE for Azure

Microsoft Azure版



**AWS版
提供中!**

Azure環境に最適化

MicrosoftクラウドプラットフォームAzureで稼働するAXIOLEのクラウド対応版です。Azure環境下の各種インスタンスで稼働しますが、推奨稼働環境はHPを参照下さい。

冗長機能はAzureの機能を活用

ハードウェアアプライアンス版と異なり冗長化機能は、Microsoft AzureのHA相当機能により実現されます。

オンプレミスからのデータ移行も容易

ハードウェアアプライアンス版と同様ののエントリーパッケージとスタンダードパッケージをラインアップ。また、オプション選択が容易な“スタータセット”と“フルオプションセット”を用意しています。

多要素認証機能(OTP他)をIdP利用時に容易に実現可能

- 以下の情報を元に MFA の有効無効を変更可能。
 - 学生 / 教員 / 職員等の属性 - アクセス IP アドレス (学内から / 学外から) - アプリケーション (SP)
- MFA の利用にあたっては、以下の製品・機能を利用可能。
 - クライアント証明書認証 - OTP トークン (メール通知 / Google・MS・HDE などのアプリ - その他)

オプション機能も提供

学術認証基盤フェデレーションのShibboleth IdPオプションならびにIdP専用仮想化アプライアンス版も提供。また、GoogleApps連携オプション機能も提供。なお、LDAPスキーマオプションは、全てのパッケージに標準バンドルされます。

ハードウェアアプライアンス版 AXIOLEと同等の機能を提供

認証基盤の導入の容易性はそのままに仮想環境に適合。バージョンアップやセキュリティ等の機能強化もアプライアンス版と同様、OSも含めて提供。また、バージョンアップも同時期提供予定

【製品ホームページ】 <http://www.axiole.jp/>

✉ [mail] info@axiole.jp

※ AXIOLEは、株式会社ネットスプリングの登録商標です。その他、記載の各製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

学生・教員向けクラウド学習プログラム

aws educate by

～明日のクラウド技術者を今日から育てる～

無償プログラム

AWSアカウントが
無い方も参加可能

アマゾン ウェブ サービス（以下AWS）が提供するAWS Educate プログラムはAWSが次世代のクラウド技術者を育成するため、2015年に始まった無償のプログラムです。学生と教員の方には実習用AWSクレジットが提供され、実際にAWSに触れ、学習コンテンツで学び、メンバー企業の求人情報にアクセスすることができます。世界中の数十万の学生がこのプログラムでクラウド技術を学び技術者を目指しています。

プログラムの目的



- ✓ 学生（14歳以上）のクラウド技術習得
- ✓ 就職活動支援
- ✓ 学校・教員の授業運営支援
- ✓ クラウド人材を必要とする企業と学生のマッチング

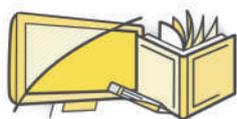
詳細、参加申し込みはこちら



AWS Educate サイト
www.awseducate.com

学生・教員の方は教育機関で発行されたメールでご登録いただくことで、以下の特典にアクセスできます。

STEP1 オンライン学習



目標とするクラウド関連の職業に紐づく12の学習コースで、クラウドに関する学習が自分のペースで行えます。日本語に対応済み。各コースは30～40時間を要する小テストを含むオンライン自習用学習コースになります。

STEP2 実習環境



提供されるクレジットでクラウドの実習ができます。教員はクラスで活用することも可能です。

【クレジット】
学生：
加盟校 \$100/非加盟校 \$40
教員：
加盟校 \$200/非加盟校 \$75

STEP3 ポートフォリオ管理



学習の進捗はポートフォリオ上で管理され、プロフィールとともに企業のリクルータに開示できますので、学習の成果を直接就職活動に活かせます。

STEP4 求職/求人情報提供



学生はJob Boardで求人情報を検索、閲覧し、習得したスキルとマッチする仕事が探せます。企業のリクルータはクラウド技術を学んだ学生を探せます。

MSYSの 大学・教育機関向け ICTインフラソリューション



丸紅情報システムズでは、大学・教育機関の情報システムを支えるICTインフラを幅広く提供しています。

情報社会の中で、学校教育においても多様化している様々なニーズに対応いたします。

容易にエリア拡張可能な無線AP

次世代Wi-Fi規格ワイヤレスメッシュ技術を搭載した無線APとWi-Fi6(802.11ax)搭載機器のご紹介



イーサネットファブリックの広域化

データセンターとの接続やキャンパス間ネットワークを仮想化し接続できるNWゲートウェイ



データ管理・活用・保護!

学内のさまざまなシステム基盤を支える、信頼性・可用性・高速性に優れたストレージソリューション



標的型攻撃対策

マルウェア感染端末を特定して自動的に学内ネットワークから遮断できる連携ソリューション



低コストで認証セキュリティレベル向上!

導入期間短縮、運用管理コストを削減できるワンタイムパスワード認証ソリューション



出展製品やその他のMSYSソリューションにつきましても、説明員へお気軽にお声掛けください!



丸紅情報システムズ株式会社

IT 基盤ソリューション事業本部
プロダクトマーケティング部

〒169-0072 東京都新宿区大久保三丁目8番2号新宿ガーデンタワー

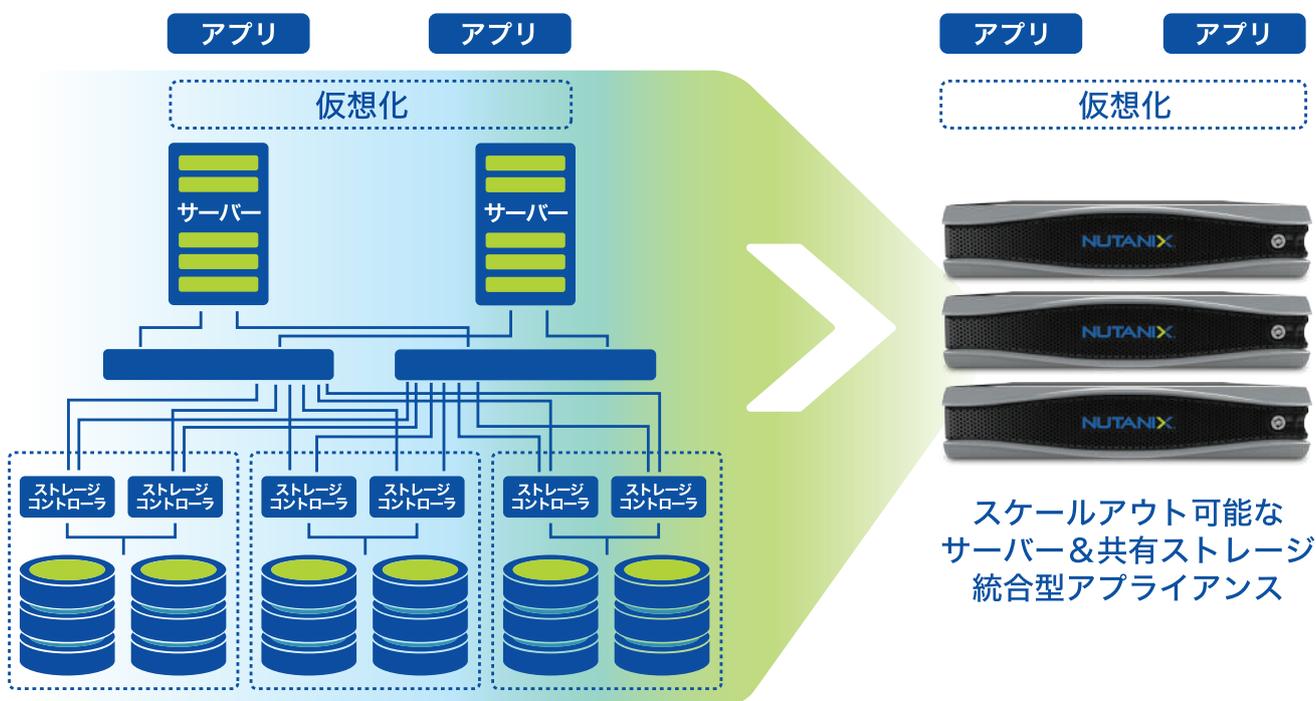
TEL: 03-4243-4210 Mail: ps-marketing@marubeni-sys.com

www.marubeni-sys.com

NUTANIX™

Your Enterprise Cloud Platform

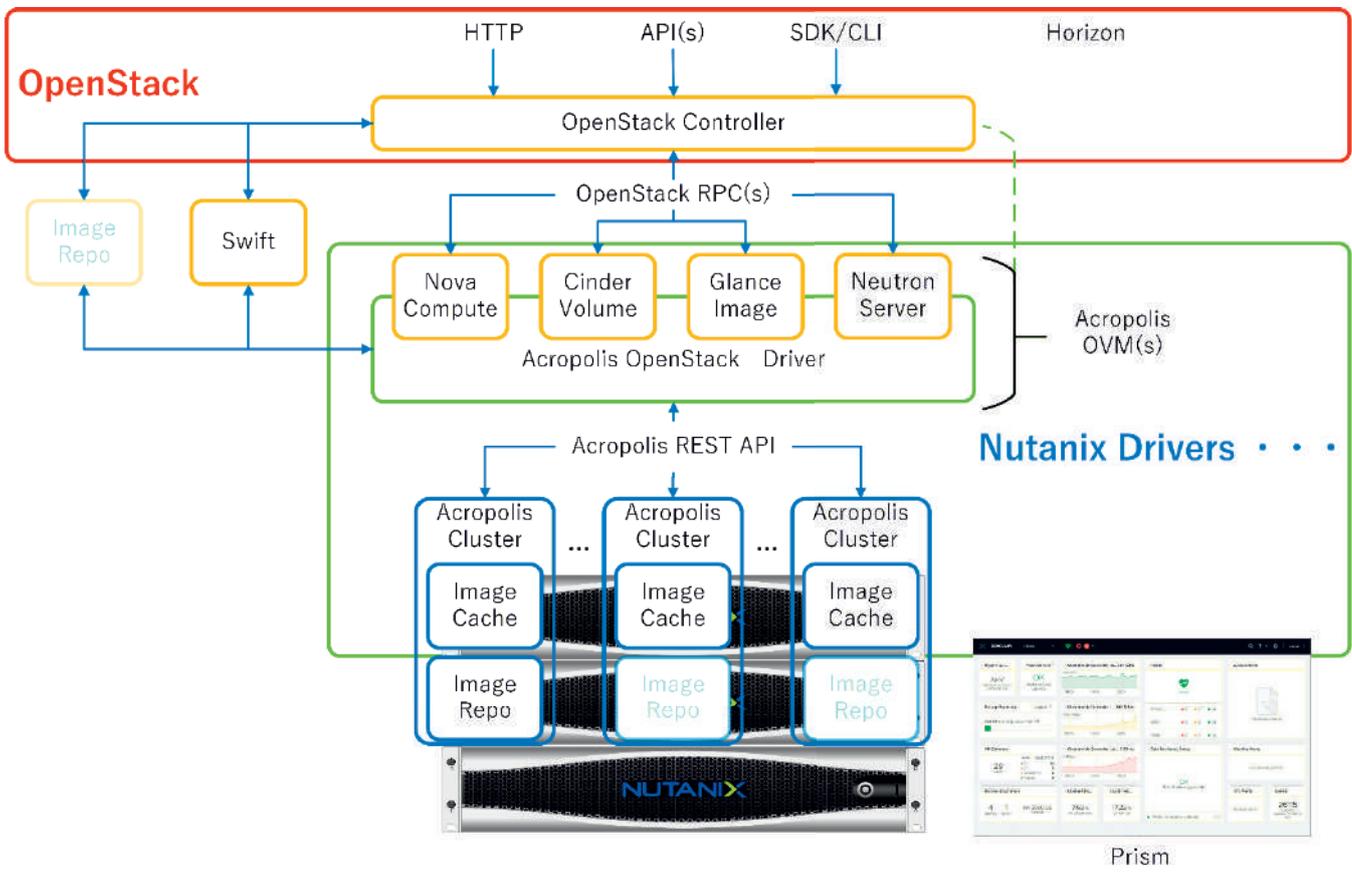
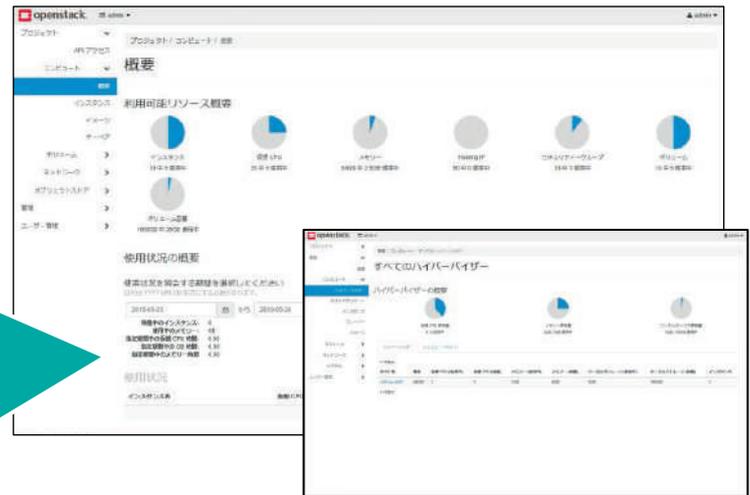
ソフトウェア処理で仮想化環境のサーバーと共有ストレージを単一のハードウェアに統合



～ OpenStack on Nutanix ～

柔軟な環境が求められる教育・研究現場のニーズに適したプライベートクラウド環境をご提供

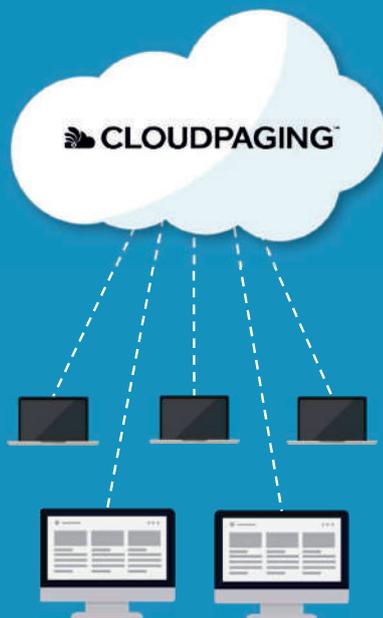
個別学習に
講義に
学内イベントに
・プログラム
・セキュリティ etc...

いつでも学べるBYODを、 もっと手軽に。

アプリケーション配信ソリューション
Cloudpaging

クラウドから学生のPCへ
アプリケーションを配信する
ソリューションです。



1 クリックするだけで
アプリケーションを利用可能。
インストールは不要!



2 ライセンスを集中管理。
同時稼働数、利用可能期間
などの制御が可能です。



3 独自のパッケージ化技術により
アプリ全体の5~10%の
データをダウンロードすればOK。
ディスク容量が少なくても使えます。



4 Windowsアプリケーションの
99.9%に対応。
アプリケーションを
一元管理できます。



※上記記載の会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

<https://is-c.panasonic.co.jp/service/product/cloudpaging/>

E-mail:sales-pisc@ml.jp.panasonic.com

パナソニックIS Cloudpaging



お問い合わせ

東日本第四営業所 TEL.03-5715-5477

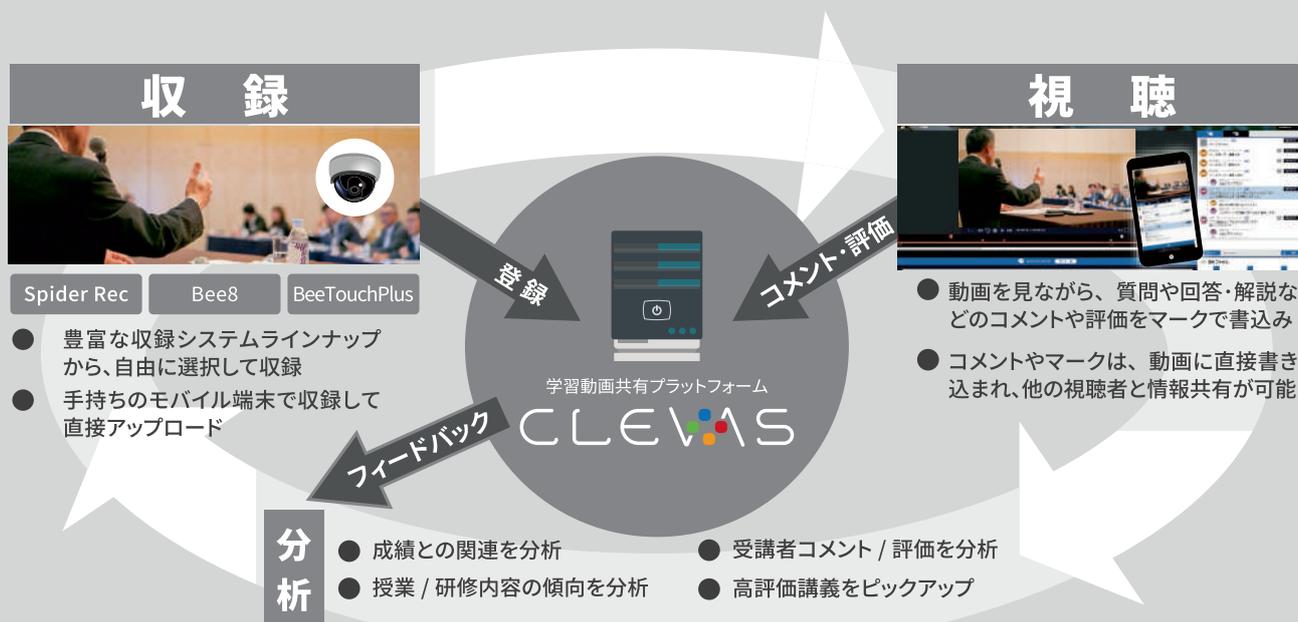
西日本第一営業所 TEL.06-6377-0050

九州営業所 TEL.092-523-9730

動画で学びが

軽がる **深**まる **広**がる

大学講義・医療系実習における動画活用のご提案



収録システム

Spider Rec

複数のネットワークカメラを集中管理できる収録システムです。カメラ/PC画面などを最大4画面まで同期収録・再生が可能で、管理スタッフや講師の収録にかかる負担を軽減します。



収録システム

BeeTouchPlus

2つの映像を簡単に合成録画できる講義収録に最適なライブエンコーダです。持ち運びに便利なコンパクトな筐体で設置場所を選びません。管理スタッフに負担をかけることなく収録が可能です。



学習動画共有プラットフォーム

CLEVAS

動画へのコメント/評価の書き込みや共有・分析が可能な配信システムです。大学講義/教育実習/医療実習/研修セミナーなどにおける効果的な学習活動を支援します。



フオトン M&E ソリューションズ 株式会社
教育映像システム営業グループ

e-solution@photron.co.jp

<https://www.photronmandesolutions.co.jp/education/>

TEL : 03-3518-6274 FAX : 03-3518-6279

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング 21 階

Photron

Cloud On-Demand Print[®]

BYODから手軽にプリント

教育機関
向け

こんなお困りごとはありませんか？

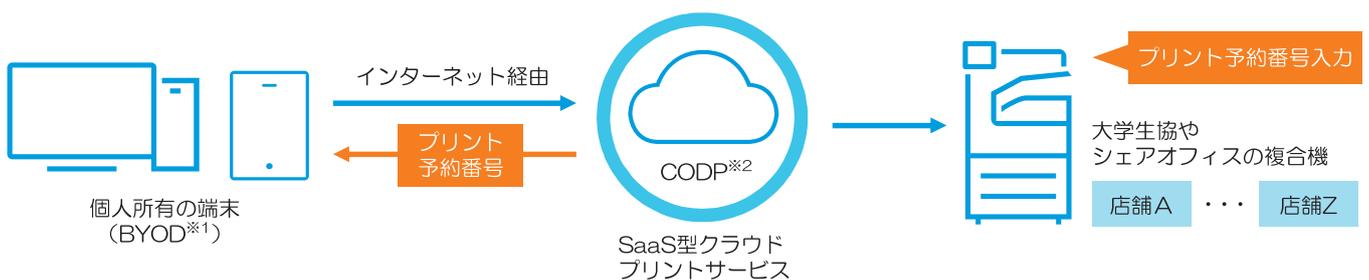
- 学生や職員が個人で所有するPC、タブレット端末やスマートフォンから簡単にプリントができない。
- 機種ごとのドライバー設定や機械の入れ替えによる再配布などの手間がかかる。



大学を中心とする教育現場やシェアオフィスでは、個人PCやスマートフォン・タブレットから手軽にプリントできる環境が求められています。

解決策

SaaS型クラウドプリントサービスCloud On-Demand Printでは、専用のプリントシステムも不要でインターネット経由で簡単にクラウドプリンターの環境が整えられます。



- ブラウザーからファイルをアップロード
- モバイルアプリからプリント
- ドライバーレスでプリント
- 共用ユーザーを利用してプリント
- プリント予約番号により特別なユーザー認証は不要
- コイン、電子マネー^{※3}などの課金システムも利用可能

学生や職員が個人で所有するPC、タブレット端末やスマートフォンから直接プリント指示が可能になり、また、課金装置と組み合わせることで、コインや電子マネー^{※3}などによる決済を行うことができより便利に行えます。

※1 BYODはBring your own deviceの略称です。

※2 CODPはCloud On-Demand Printの略称です。

※3 交通系電子マネーは、9種類 (kitaca[®]、Suica[®]、PASMO[®]、manaca[®]、Toica[®]、ICOCA[®]、nimoca[®]、Sugoca[®]、はやかけん[®]) に対応しています。

「Suica」は東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。JR東日本 Suica利用承認第67号、68号。当該承認は、東日本旅客鉄道株式会社が本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。

東日本旅客鉄道(株)の都合により、予告なく Suicaカードが交換されることがあります。PASMOは株式会社バスモの登録商標です。「Kitaca」は北海道旅客鉄道株式会社の登録商標です。

「TOICA」は東海旅客鉄道株式会社の登録商標です。「manaca (マナカ)」は株式会社名古屋交通開発機構及び株式会社エムアイシーの登録商標です。「ICOCA」は西日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

「SUGOCA」は九州旅客鉄道株式会社の登録商標です。「nimoca」は西日本鉄道株式会社の登録商標です。「はやかけん」は福岡市交通局の登録商標です。

アラクサラネットワークス 大学向けネットワークソリューション

セキュリティ×可視化×運用容易化

ランチョンセミナー

日時: 12/14 (土)

12:30-13:20

内容: ソリューション詳細

接続された端末について「いつ・どこで・なにが」を管理し、 過去にさかのぼって端末の接続状態についての調査が可能

- ◆ インシデント時、時間をかけずに接続箇所[接続履歴、移動履歴]を特定 (IPアドレスから即座に端末を特定可能)

校舎A



校舎B



AX-Security-Controller (AX-SC)

管理

AX-SC



いつ

- 接続開始時刻
- 接続終了時刻

どこで

- 接続先スイッチ
- ポート番号
- VLAN番号

なにが

- IPアドレス
- MACアドレス
- ベンダ名

- 端末の接続履歴や移動履歴を管理
- エージェントレス
- 非アラクサラの環境もOK

日々のネットワーク運用を劇的に楽にする マルチベンダー対応のネットワーク運用管理ソフト

- ◆ 簡単操作によるネットワーク運用効率化(GUI操作、VLAN変更など)
- ◆ システムの最新状況を即座に把握(「ネットワーク完成図書」のワンタッチ出力)
- ◆ マルチベンダー対応(アラクサラ以外の機器にも対応)





株式会社コムネット
COMputer & COMmunication NETwork

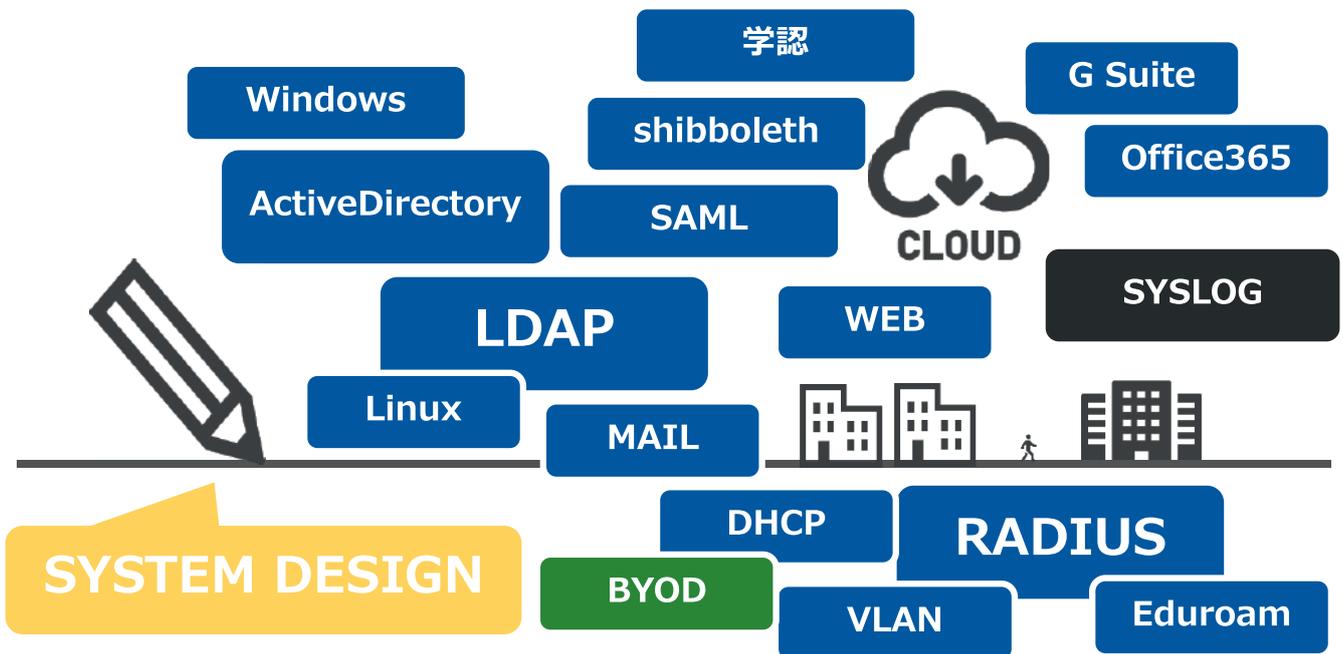
シンプルなシステムデザインを考える。

これからの時代に備えシステムを拡充するために、

「認証システム」は、拡張性のある柔軟な設計であり、外部システムと連携するために大幅な改造を必要としない…そのようなシステムが必要です。

我々のシステム設計はとてもシンプルです。そして、あらゆるシステムやベンダーと手を繋ぐことへの努力を惜しみません。

是非ご相談ください！



●株式会社コムネットは、
大学ICT協議会の賛助会員です。

詳細はホームページへ！

<http://www.dbcom.co.jp>



PC 教室や貸出ノート PC を
もっと楽に運用しませんか？

V-Boot

PC 運用システム

1 台の PC 操作で全台を一括メンテナンス！

- ✓ PC を利用中にバックグラウンドでイメージを配信
- ✓ 無線 LAN でノート PC も管理可能
- ✓ Windows Update などの定期メンテナンスを自動化
- ✓ PC 故障時の入れ替え作業が簡単

V-Recover

環境復元システム

メンテナンス時の PC 利用停止が不要！

- ✓ 利用者の変更は再起動するだけで簡単に元通り
- ✓ Windows Update やウイルス定義ファイルなどを PC 利用中にバックグラウンドで自動アップデート
- ✓ サーバは不要なので導入コストを抑えられる

V-Class

授業支援ソフトウェア

PC 授業を行う先生をサポート！

- ✓ シンプルなメニューで簡単操作
- ✓ Windows / Mac / Linux の混在環境に対応
- ✓ 無線 LAN 環境に対応

併せて
使いたい！

授業のテキスト・
自習用の教材・
教職員の研修に

日経パソコンEdu

「日経パソコンEdu」は、日経BPが提供するオンライン学習サービスです。パソコンやタブレット、スマートフォンなどの機器から、インターネット経由でさまざまな記事コンテンツを利用できます。授業のテキストや自習用の教材、教育機関のリスク管理などにお役立てください。



毎月
新たな記事
を追加

**1000本以上の
講座・解説が読み放題**

ソフトやサービスの使い方、セキュリティ・情報倫理の基本、パソコンやインターネットの仕組み、最新キーワード・ニュースの解説……など

コンテンツを大幅強化!

人気のOffice学習テキストをはじめとする日経BP発行の書籍
約80タイトルを追加しました

Word
2019
セミナーテキスト

Excel
2019
セミナーテキスト

PowerPoint
2016
セミナーテキスト

Windows 10 & Office セミナーテキストシリーズ

MOS
Microsoft Office Specialist
対策テキスト
Excel 2016

ITパスポート
合格講座

社会
基礎講座
人材講座

キャリア
基礎講座
テキスト

資格取得関連書籍
就活・キャリア関連書籍

こんな用途で使われています

全学部共通授業でEduを教材に
岡山大学



全学部の学生が共通して受講する情報リテラシーの授業において、eラーニングと日経パソコンEdu、Eduと連携する教科書を組み合わせた独自の教育方法を実践しています。

価格(税抜き)

教育機関で
利用する場合 年額 **2160**円(1ライセンス当たり)

AXIES特別プログラム さらに割引になります!

日経パソコンEduのお問い合わせ先

電話: **03-6811-8087**
(日経BPマーケティング 文教営業部)

Webサイト: nbpm.jp/npcedu

講義収録コンテンツをAI解析 “今知りたい!!” がすぐ見られる



スマートフォンから

テキストをみれば
授業の大まかな流れが
思い出せる

聞き落としの確認や、
小さな疑問を解消できる

知りたいところに
すぐアクセスできる

授業の理解度が深まり、
新たな疑問点が見つかる

パソコンから

タブレットから

検索しやすい

「AI」による講義収録コンテンツ活用ソリューション

授業の動画コンテンツは、学生に視聴されていますか？

教員の発言内容と資料（PC）をAI解析することで
キーワード検索が可能。

さらに、検索されたコンテンツのキーワード部分から視聴可能。

学生が今、必要な授業コンテンツをAIによって探しあてる
講義収録の新たな活用方法を提案します。



コンテンツ
管理



資料と映像の
同期



キーワード・
タグ検索



Web閲覧



コンテンツ
評価

\パスワードファイルも検知可能!/\

Active!zoneのサンドボックスオプション

NEW!

新機能
リリース開始

Sandbox

圧倒的な検知階層と
漏れの無いウイルスチェックを実現

Active! zoneの添付ファイル分離機能との併用により、
通常、サンドボックスでは対処ができなかった
「パスワード付き添付ファイル」の中身も検知可能となるのが最大の特長です。



ZIPパスワード付きファイルや読み取りパスワード付きファイルも「添付ファイル分離詳細画面」上で解凍/展開し、各種の無害化処理を行います。



プレビューボタンを押下すると同時にウイルスチェックを実施し、グレー判定が出た場合はサンドボックス処理に回してその結果を表示します。



アンチウイルスとサンドボックスによる検知の結果、ブラックについてはダウンロードボタンを表示せずに隔離します。

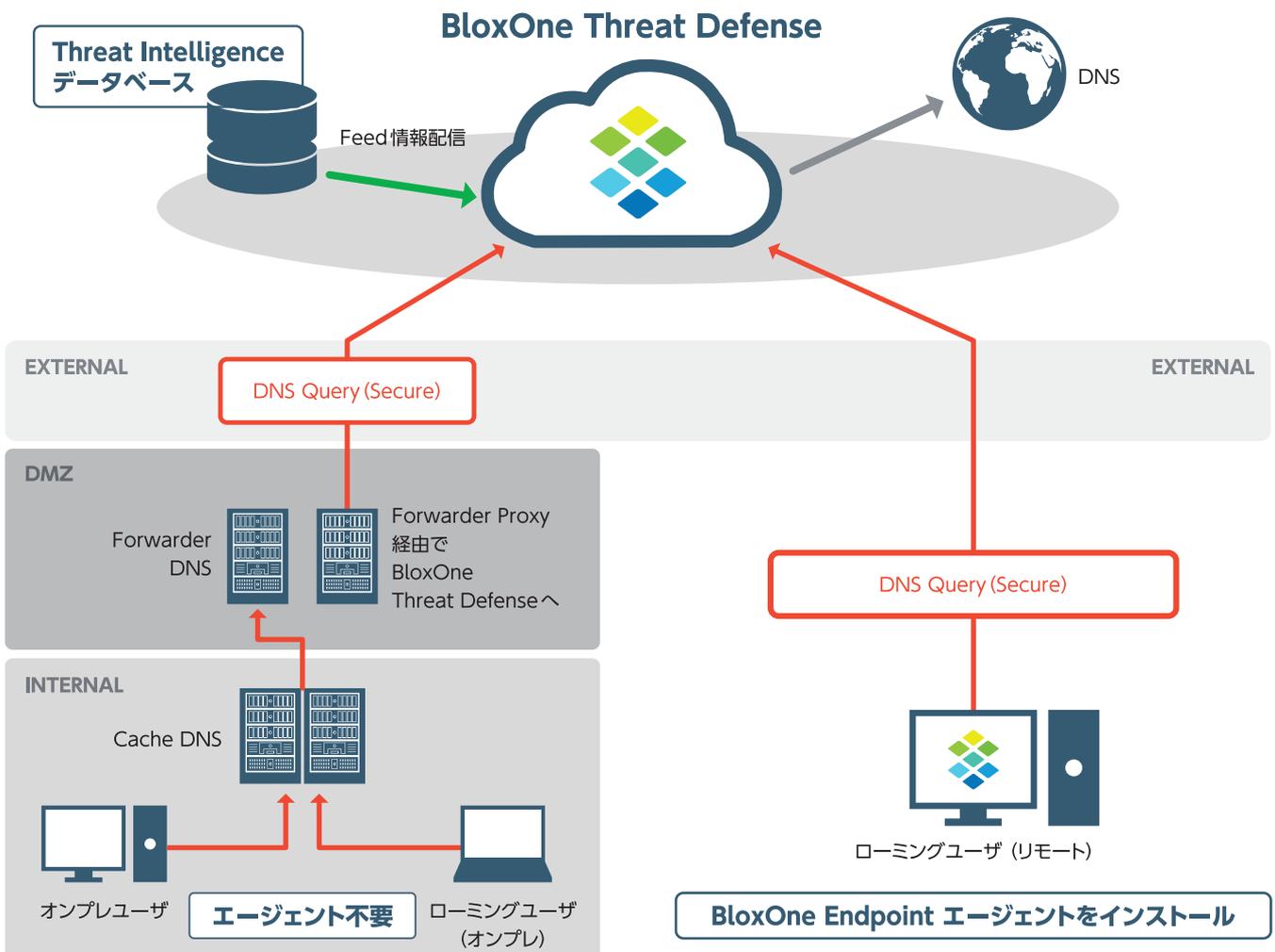


クラウド DNS セキュリティ

DNSの脅威検知・遮断、端末可視化

特徴

- 1 DNSプロトコルを利用した悪意ある通信を検知・遮断
- 2 外部端末を含めた、包括的な端末特定が可能
- 3 オンプレ・リモートの各ユーザの統一的な管理を実現





名称

株式会社シティアスコム

本社所在地

〒814-8554
福岡市早良区百道浜2丁目2-22
AITビル

Challenge to the next



JQA-QM4241



JQA-IM0506



18820083(04)
JISQ15001:2006準拠

地域との共生

付加価値の共創

成長と変革

人間力の向上

企業価値の向上

グループ総合力の向上

現行

2021年
創立50周年

プラットフォーム提供

DX戦略支援

セキュリティ

インフラ提供

パッケージ提供

BPO



クラウドコミュニティサービス

学校独自のモバイルアプリで

魅力UP！と効率化を実現しませんか

- ・学校向けコミュニティサービス
- ・クラウドイノベーション支援



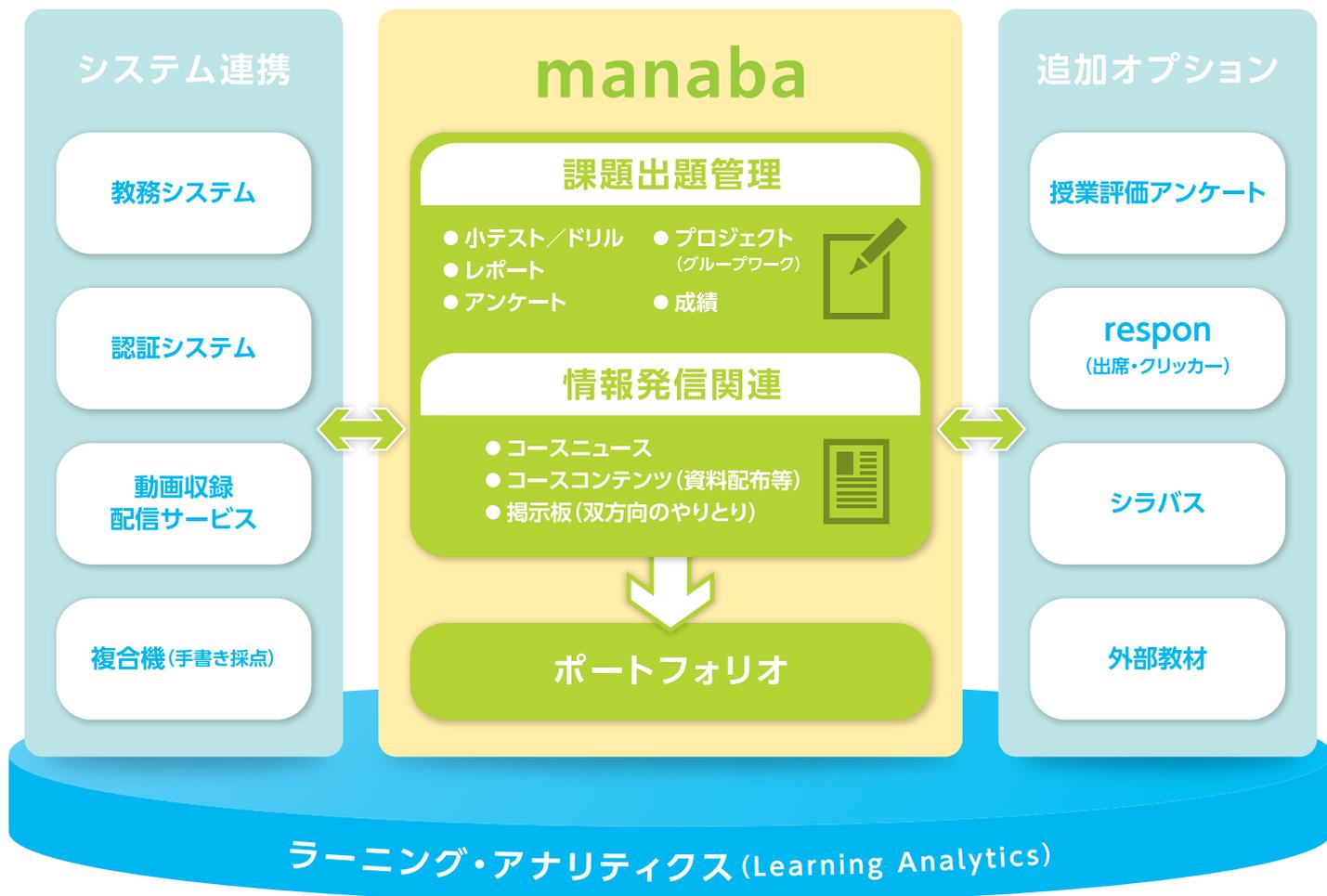
効率化・生産性向上ソリューション

- ・RPA導入・定着化支援／BPR(Business Process Re-engineering)支援
- ・Office365導入・活用支援サービス



様々な学内システムや外部教材と連携し「LMS」としての役割に加えて、トータルソリューションを提案します。

サービスの全体像



導入実績

250
の
導入実績

- 亜細亜大学
- いわき明星大学
- 大阪樟蔭女子大学
- 大妻女子大学
- 小樽商科大学
- 神奈川工科大学
- 鹿児島大学
- 関西福祉科学大学
- 関東学院大学
- 京都外国語大学
- 京都薬科大学
- 慶應義塾大学
- 皇學館大学
- 神戸松蔭女子学院大学
- 神戸女子大学
- 神戸常盤大学
- 公立はこだて未来大学
- 国土館大学
- 産業能率大学
- 静岡文化芸術大学
- 実践女子大学
- 昭和薬科大学
- 聖路加国際大学
- 創価大学
- 大東文化大学
- 千葉工業大学
- 中央大学
- 筑波大学
- 帝京平成大学
- 同志社女子大学
- 東洋大学
- 徳島大学
- 長崎国際大学
- 日本女子大学
- 北陸大学
- 立命館大学
- 立命館アジア太平洋大学
- 龍谷大学
- 流通経済大学
- 和洋女子大学

※2019年6月時点(一部抜粋)

2020年度新入生向け キャンパスモデルコンバーチブルノートパソコン FUJITSU Notebook LIFEBOOK UH95シリーズ

世界最軽量^{※1}

標準バッテリーモデル^{※2}

駆動時間

868g~約 9.3h

大容量バッテリーモデル^{※2}

989g~約20.5h



<ピクトブラック>

毎日の持ち歩きにも負担にならないこの軽さ！
さまざまなシーンであなたのパフォーマンスを向上させます。

通学・授業・就活にも
楽に持ち運べる軽さ、薄さ

13.3型のコンバーチブルPCでありながら約868g^{※3}の超軽量。
厚みもわずか約16.9mm^{※4}で手に持ちやすく、カバンの中に入れても場所をとりません。

重さ 約 **868** g



厚み 約 **1.69** cm

高精細なペンで紙に書くような
自然な書き心地を実現

高精細なアクティブペンが本体に内蔵されていますので、思いついた瞬間に取り出してメモを取ることができます。
メモだけでなく精緻なイラストも描けます。



**4年間
QAサポート無償^{※5}**

**4年間
メーカー保証^{※5}**

**第8世代 インテル®
Core™ プロセッサ
ファミリー搭載**



※1 13.3型ワイド液晶ペン付き2in1ノートPCとして世界最軽量。2019年6月1日現在、当社調べ。
※2 仕様詳細や注意事項につきましては開発中のもので、予告なく変更となる可能性があります。
※3 大容量バッテリー搭載時の重さは約989gになります。 ※4 突起部は含みません。
※5 入学時から4年後の3月31日までになります。

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

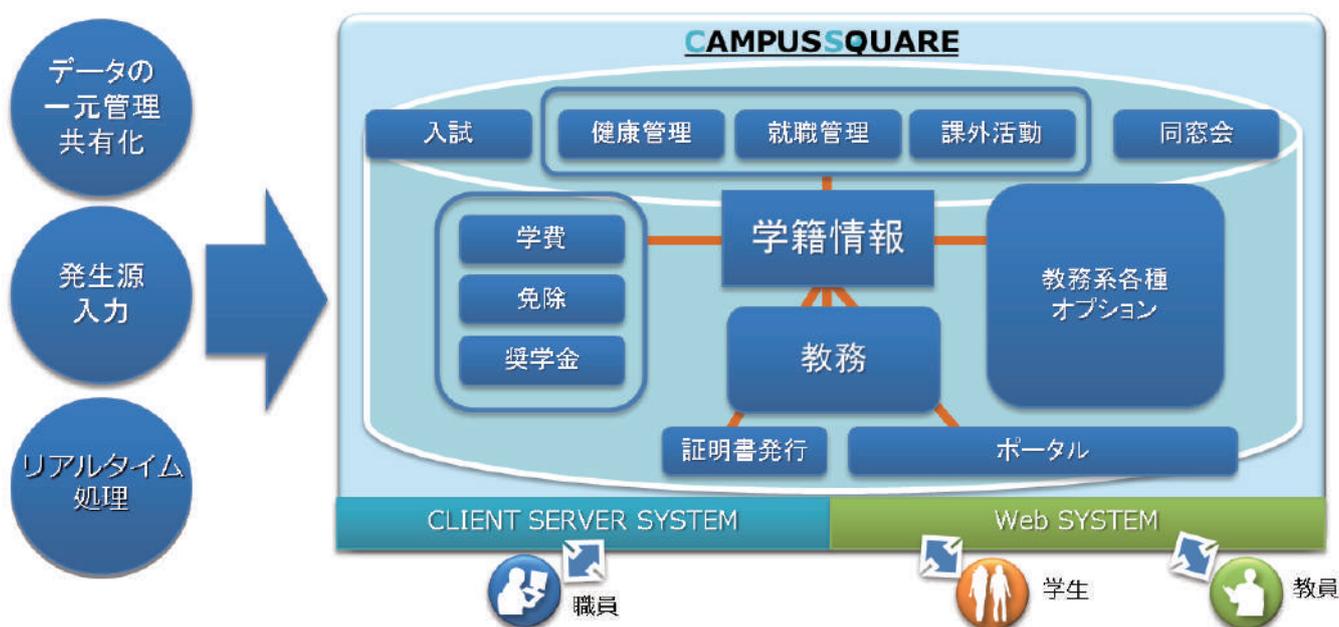
学務情報システムのご紹介

CAMPUSSQUARE

■ CampusSquareのコンセプト

CampusSquareは大学向けの学務情報システムで、「学生」「教員」「職員」が情報を共有化し、必要な情報を迅速かつ正確に収集・提供できる環境を構築し、利用者が相互に円滑なコミュニケーションを実現できるシステムで、一つのデータベースによる完全な一元管理方式を採用、発生源で入力を行い、リアルタイムデータのチェック、更新、参照により、最新の情報を常に利用することが可能です。

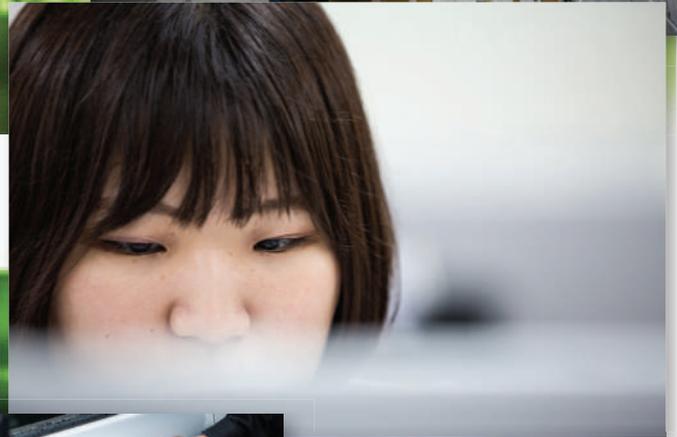
また、学生関連業務のサブシステム提供に加えて、他システムとの連携による大学様の種々の業務機能に対応しております。



日鉄ソリューションズ株式会社



<https://www.nssol.nipponsteel.com/solution/popup/campussquare/campus@jp.nssol.nipponsteel.com>



同じ未来を想うことから。

日本ユニシスグループの
ICT インフラトータルサービス企業

お客さまと同じ目線に立ち
ICT インフラを「つくり」「守り」「最適化」

大学・教育機関向けに、 セキュアなID管理をクラウドで。

お客様のIDライフサイクルに従い、
ユーザーの属性情報を
Active DirectoryやLDAP
さらにはOffice 365へ連携。
学認サービスプロバイダへの
シングルサインオンも実現。

< IdM&IdP >



+

< Secure >

統合型セキュリティソリューションを導入、
24時間/365日体制での
インフラ&サービス遠隔監視を実施。
日々報告されるOSやソフトウェアの
脆弱性にも迅速に対応。

+

< Cloud >

イニシャルコストを抑え、
より早くID管理を導入。
今後増えてくるクラウドサービスに
順次対応予定。



コラボレーション・コミュニケーションを活性化

ビジュアルコラボレーションツール

Solstie Pod

— ソルスティス ポッド —



各人のデバイス内のコンテンツをワイヤレスでスクリーンやディスプレイに自由に情報共有

▶ **マルチデバイス対応**

パソコン、タブレット、スマートフォン各種デバイスでご利用いただけます。



対応OS : Windows, Mac, iOS, Android

▶ **複数コンテンツの共有**

デスクトップだけでなく写真や動画、アプリケーションの画面を複数共有できます。



▶ **画面分割表示**

表示コンテンツ数に応じて自動でレイアウトされます。参加人数やコンテンツ数を気にすることなく利用できます。



“今” の人や場所の見える化

スマートサインN@vi



リアルタイムで人の居場所や状況が見える化、コミュニケーションの課題を解決

▶ **マルチデバイス表示対応**

アプリ不要のWEBブラウザ表示により、デバイスを選ばず、人の居場所を確認できます。



スマホ表示



パソコン表示



サイネージ表示

▶ **わかりやすい名板表示**

状況・居場所は、文字だけでなく、色で識別可能です。状況・居場所のステータスは運用に合わせて変更可能です。



▶ **複数の表示パターンを選択できます。**

目的や表示する場所に応じて、多様な表示パターンを作成可能。ブラウザベースのシステムにより、表示パターンや背景デザイン、テキストの変更などを簡単に行うことができます。



横28名表示



縦10名表示



シンプル縦表示



インフォメーション表示

— お問い合わせ先 —

株式会社 **東和エンジニアリング** 教育ソリューション営業部 TEL:03-5833-8310 FAX:03-5833-8311

□本社 〒101-8631 東京都千代田区東神田1-7-8

□支社/支店/営業所: 関西支社・関東支店・中部支店・北海道営業所・仙台営業所・横浜営業所・九州営業所

ぜひ、ホームページをご覧ください

▶▶▶ www.towaeng.co.jp



いままで、ビデオ会議に使えなかった場所が、少人数でのビデオ会議に最適な場所へ変わります。これからのハドルスペースの活用法。

Cisco Webex Room Kit Mini



こんな課題を解決します！

- ✔ ビデオ会議の部屋が足りない！
- ✔ 少人数での会議スペースが足りない！
- ✔ オープンエリアを有効活用したい！
- ✔ PC会議だと、音も映像もイマイチ。
- ✔ 低価格でかんたんに導入したい。
- ✔ かんたんで使いやすいビデオ会議が欲しい。



コンパクトなオールインワン 高品質ビデオ会議システム

Oracle Cloudなら SINET接続利用で データ転送量課金なし!!



仮想サーバ、
専有サーバも
安価で高速に！



Javaで開発を
すぐ始めたい！



文書・データを
適切に共有したい！



最新のGPUを
短期間だけ複数
使いたい！



データを安価に
保管したい！



データの可視化・
分析で新しい価値
を創出したい！



HPCを短期間だけ
待ち時間無く
使いたい！



クラウドも
オンプレも
一元管理したい！



高セキュリティで
高速にデータを
処理したい！

And more...

Oracle Cloud (PaaS/IaaS) 無料トライアル

- 無料トライアルのお申し込みサイト
– https://cloud.oracle.com/ja_JP/tryit
- 無料トライアルについて
 - \$300(約35,000円)のクレジットを無料取得できます
 - トライアル期間中は優遇レート(=IaaS料金のみ)
が適用されるため、多様なサービスをお試しいただけます
 - 30日間有効、以降も商用環境として継続使用可能
 - 30以上のPaaS/IaaSが利用可能
- 詳細や手順書はこちら
– https://blogs.oracle.com/oracle4engineer/column_cloud_trial



*OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Copyright © 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

日本オラクル株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター
oracle.com/jp

お問い合わせ窓口



Oracle Digital

TEL 0120-155-096

URL oracle.com/jp/contact-us



「顧客ファースト」の視点で 一段階上のサービスを提供します

トータルソリューションと自社開発の差別化製品を
併せ持つハイブリッドな IT システムをお届けします

高品質

High quality

信頼

Confidence

ネットワーク

Networks



エイチ・シー・ネットワークス株式会社

www.hcnet.co.jp

お問い合わせ：hcnet_marketing.hm@hcnet.co.jp

大学生協の電子教科書で

教育が変わる。学びが進化する。

大学生協はDECSアプリを活用して新しい学び環境を大学とともに構築しようと取り組んでいます



- ①授業を改善できるソリューションの提案
- ②「大学の学び」にふさわしい学習用PCの提案
- ③大学生協の「学び」事業のツールとして活用
- ④授業外の学生の学びを支える商品の開発
- ⑤ツール・アプリを使った効果的な学び方の提案

大学生協の「電子教科書」がお応えします

教育現場で発生する
お悩みや課題を解決

学生にもっと教科書に
親んでもらいたい



講義テキストから辞書へ、
教科書へ、
シームレスにアクセス

学生同士でグループワークや
学び合いをさせたい



メモや付箋などの共有で
学生の参加、
学びあいの姿勢を育成

学習効果を上げて、
理解が遅れがちな学生を救いたい



学生の利用ログ取得で、
学習効果の計測・分析が
可能に

リアルタイムに学生の反応を見て、
授業を進めたい



共有機能やアンケート機能で
学生の反応を
リアルタイムに把握



全国大学生協同組合連合会

大学生協事業連合 勉学研究事業部DCES事業推進課

〒166-0012 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協杉並会館 TEL:03-5307-1133

これが、私らしさ。

大学では色んな仲間と一緒に成長してきた。

レポートに悩んでいるとアドバイスをくれたり、私からアイデアを出すこともあった。

先生はいつも励ましの言葉をかけてくれた。

だから見てほしい、これが私らしさ。

 WebClass の e ポートフォリオ機能をご紹介します。

e ポートフォリオ・コンテンツ

深い学びを可能にする「気付き」を誘発。学習と評価の一体化で、学習プロセスを見える化します。自己評価・教師評価・相互評価をレーダーチャート上に可視化。ショーケースポートフォリオで作品集にまとめる事ができます。

学習記録ビューア

各授業で蓄積された成果物を一箇所ですべて確認ができます。学生が履修した授業の一覧や、課題の実施状況、さらには4年間で提出した全レポートの一覧表示とダウンロードが可能で、振り返りの場として活用できます。

修学カルテ

定期的な目標設定と振り返りや、課外活動の記録を蓄積できます。修学カルテは画面上に入力項目を自由に設置できるのが特徴。年度や学期の切替タブ、学生プロフィール、ループリック、レーダーチャートを配置できます。

WebClass の無料体験モニターを募集しております。

ラーニング・カンパニーでありたい。

日本データパシフィック株式会社

〒186-0002 東京都国立市東 1-4-15 国立 KT ビル

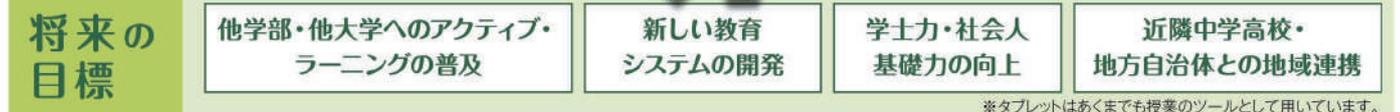
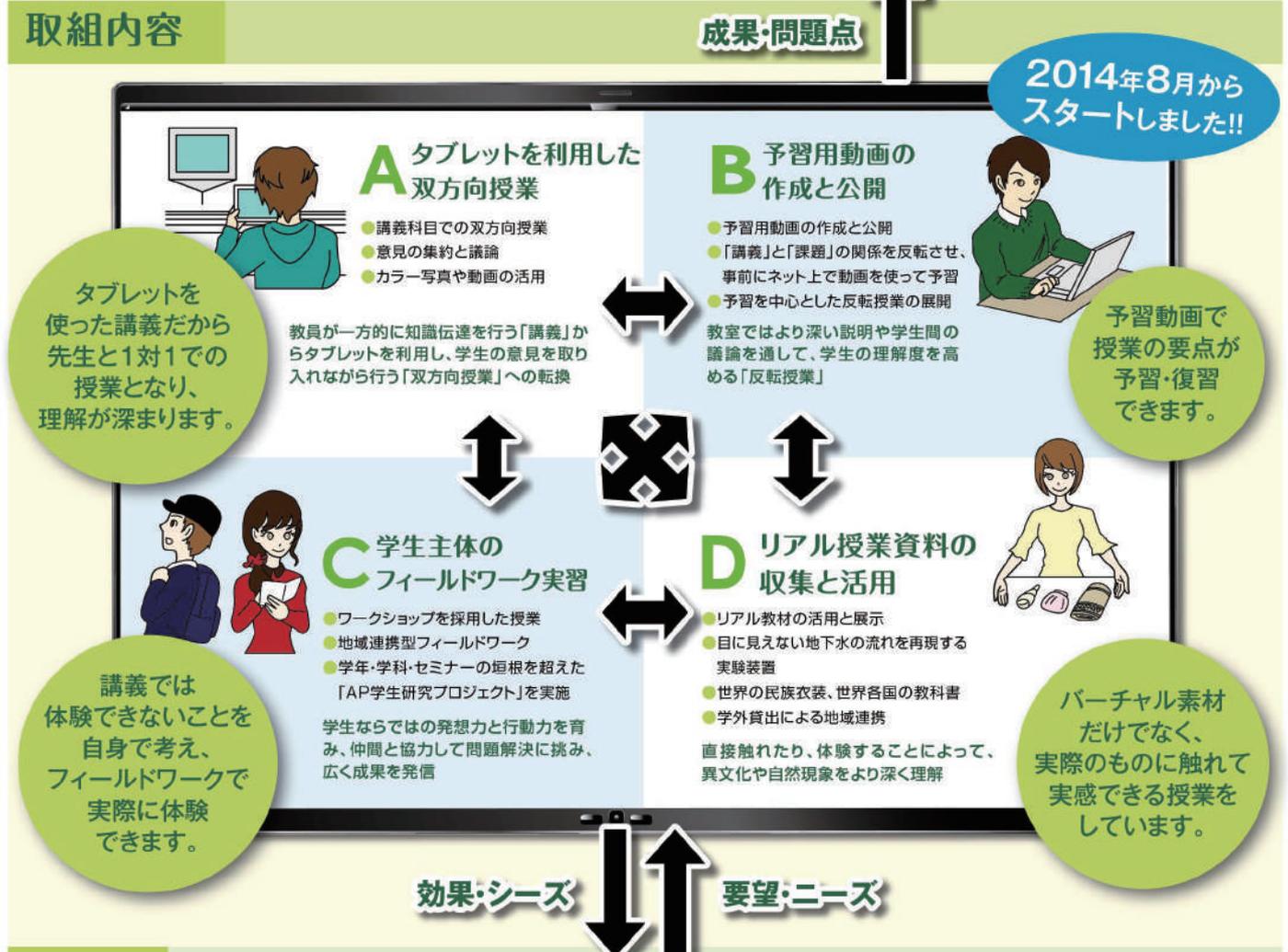
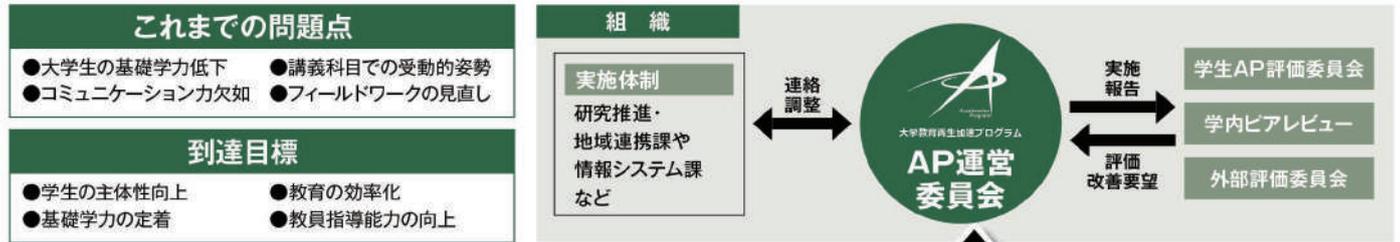
TEL : 042-573-6721 FAX : 042-573-6728

www.datapacific.co.jp

ABINIT-MP
MODYLAS
OpenMX FrontISTR
GENESIS
SALMON
FrontFlow/blue
SMASH
HPCI
FrontISTR × NTChem
RIST
SALMON HΦ
PHASE/0
OpenMX
GENESIS
ABINIT-MP

大学教育再生加速プログラム取り組み

アクティブ・ラーニング



※タブレットはあくまでも授業のツールとして用いています。



大阪大学サイバーメディアセンターの主な活動内容

大阪大学サイバーメディアセンターは、全国共同利用施設として、情報処理技術基盤の整備、提供および研究開発、高度な教育の実践ならびに知的資源の電子的管理および提供を行うことを目的としています。超高速スーパーコンピュータシステム等を有し、高度な大規模計算機システム環境を全国の大学などの研究者に提供するとともに、学内では、大阪大学総合情報通信システムや電子図書館システムなどの整備支援を行っています。また、学生にはキャンパスネットワークを利用した教育用計算機システムを提供しています。

教育

●情報教育システム

コンピュータを用いた電子メールやWWWなどの基本的な利用方法からプログラミングなどの高度な計算機利用技術にわたる一貫した情報教育カリキュラムを実施



情報教育教室

●CALLシステム

外国語教育に用いる個人の習熟度レベルに応じた外国語学習や異文化理解教育をサポート

●CLE

授業ごとに学生と教員、学生同士のコミュニケーションを促進するためのディスカッションボード、配付資料やPowerPointスライドなど各種教材の公開、オンラインでのレポート受付などの機能を有する、Webを利用した授業支援システム

●Echo

教室での授業や講義に使用する映像・音声資料を収録し、公開することができる「いつでもどこでも学べる」講義自動収録配信システムで、CLE上の各授業ページから視聴することが可能

●OUMail

全学生と卒業生が利用可能なメールシステムとしてMS社のOffice365のサービスを提供し、学生には全学通知や各教務事務からの連絡などに活用している。また、卒業生には大阪大学の最新の話題やイベント情報などを配信

●全学教育推進機構との連携

学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学習「アクティブラーニング」などの新しい教授法を、最先端情報通信技術を利用して効果的に実施するための学修環境整備やe-Learning環境の構築等、様々な点において全学的な観点から教育支援・学習支援の企画・開発・実施を行うために連携



吹田本館

研究

●大規模計算機システム

ベクトル型およびスカラ型のスーパーコンピュータを有し、高性能計算環境を学内外の学術研究者や産業界の研究者に提供、さらに計算機群の一部は、革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ (HPCI) として連携し、計算機資源として提供



大規模計算機システム

●可視化サービス

大阪大学吹田キャンパス、およびうめきた拠点に導入された高精細立体表示装置は、科学データおよびその解析結果の可視化等による共同研究、産学連携に加えて、一般の方々に分かりやすく解説・紹介するアウトリーチ活動の拠点として提供



大規模可視化システム

●学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点

東京大学情報基盤センターが中核拠点として機能する「ネットワーク型」共同利用・共同研究拠点に認定

●HPCI (High Performance Computing Infrastructure)

大学や法人がスーパーコンピュータや大規模ストレージおよび「京」をネットワークで結び、利用者の多様なニーズに応える計算機環境を提供



ITコア棟

教育研究支援

●図書館システム

附属図書館と協力し、コンピュータやインターネット上の情報を活用しながら教育・研究活動が行える環境を整備。蔵書検索や各種申込のオンラインサービス、学術情報データベースや電子ジャーナルへのリモートアクセス、図書館内の好きな場所で使えるマルチメディア端末などを提供

●情報ネットワーク

情報インフラとして、キャンパスネットワークである大阪大学総合情報通信システム (ODINS) の整備・運用を支援

●アカデミッククラウド

大学内に分散しているサーバの集約、統合を目的にキャンパスクラウドサービスを実施し、今後の他大学連携を見込んだアカデミッククラウドを推進

社会貢献・人材育成

●スーパーコンピューティングコンテスト

高校生・高専生のチームを対象としたプログラミングコンテストで東京工業大学と共同開催。夏休みの4日間を利用し、難題にスーパーコンピュータを用いた演算に挑む脳甲子園



コンテストの様子

●市民講座

大阪市・池田市等の近隣市民を対象に外国語を楽しみながら効果的に学ぶ講座を2014年より実施。2019年度は「複言語学習のススメ」と題し、スマホやタブレットを活用し、複数の言語で自己紹介などの表現を、文字を使わず、聞いた音を発音する練習を通して学びながら参加者同士が交流する場として社会に貢献



豊中教育研究棟

名古屋大学 情報連携統括本部

Information and Communications, Nagoya University

情報連携統括本部は、平成18年4月1日に運営支援組織として発足し、名古屋大学の情報戦略の企画立案、情報インフラの整備、情報セキュリティ対策、更には文部科学省の共同利用・共同研究拠点として国内トップクラスのスーパーコンピュータの使用環境を提供するとともに、教育研究を支援するための各種の情報化支援サービスを実施しています。

計算機資源の提供

スーパーコンピュータシステム (更新中!)

複数計算機システムからなるスーパーコンピュータシステムを維持し、学内外に計算機資源を提供しています。その特長は以下のとおりです。

- ・話題のDNNなど幅広い研究分野に対応する様々なソフトウェア
- ・8K高精細モニタや遠隔可視化機能を有する可視化システム
- ・外部計算機資源と高バンド幅ネットワークで接続

現在、14PFLOPS超の計算能力と30PB超のストレージを備え、数値計算とデータサイエンス研究に対応した融合型スーパーコンピュータシステムへの更新を進めています。

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 (JHPCN)

JHPCNでは公募型共同研究を受付中で、採択されれば共同研究を通じて最大86ノード年の計算機資源を無償利用可能です(2020年1月締切予定)。特に、(1)超大規模データ処理、(2)超大容量ネットワーク技術、(3)超大規模情報システムの研究を強く募集しています。

スーパーコンピュータの産業利用促進

JHPCN採択課題では成果公開が義務付けられますが、成果非公開でスーパーコンピュータ利用を希望する企業に対し、有償(1ノード日あたり864円)で計算機資源を提供しています。



スーパーコンピュータFX100



大規模共有メモリ型演算サーバ



高性能可視化システム室

ICTによる教育/研究の支援

教育学習支援システム (NUCT)

NUCT (NU Collaboration and course Tools) はe-LearningシステムのWebアプリケーションです。教員は、教材の配布、テスト実施、講義関連アナウンスなど、様々なツールを使って授業の実施/補完ができ、また、紙レポートも含めた採点管理も電子化できます。学生は、いつでもどこでも教材/資料を閲覧したり、テストを受けたり、課題を提出したりできます。

教育研究用ストレージサービス (NUSS)

NUSS (NU Storage Service) は、データの保管/共有のためのサービスであり、Webブラウザ、WebDAV、専用同期クライアントなどにより利用できます。学内外へのデータの配布、学内教職員間でのデータ共有管理などが可能です。

情報メディアスタジオによる映像コンテンツ制作

講義/研究等において映像コンテンツを制作したい教員に対し、収録スタジオの貸し出し、撮影/編集機材の貸し出し、撮影や編集方法の相談対応などしています。また、収録した映像コンテンツのスタジオチャンネルを通じた配信も行っています。



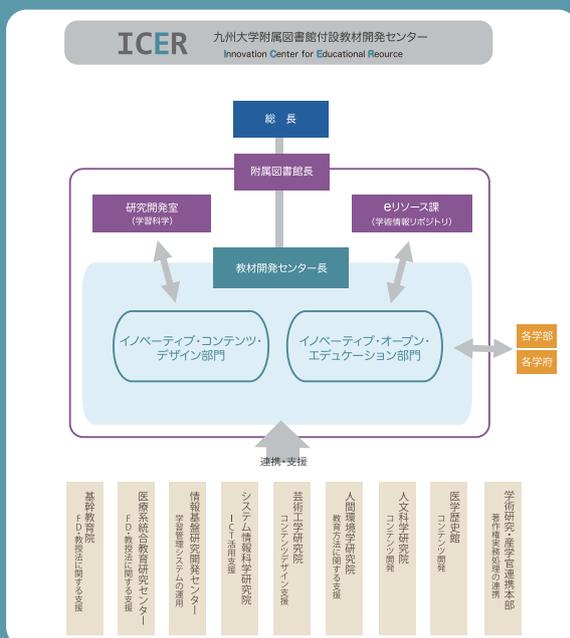
紙レポート採点管理自動化(NUCT)



映像コンテンツライブラリ

ICT を積極的に活用した教材の開発・作成支援を通じて、九州大学の教育の質向上を図ると共に、国際社会に拓かれた教育研究環境を構築することを目指して 2011 年 4 月 1 日に設置されました。

教材開発センターは、インストラクショナルデザインに基づいた教材、教育方法を開発・適用し、協調型・学生主導型学習を推進することで、自律的な学習と実践力を育成する教育技術の普及と促進を行います。また、双方向型 3 次元マルチメディアやゲーム性を活用した携帯端末やデジタル放送等の新技術に対応する教材コンテンツの開発を通して、学習意欲を高めるコンテンツの作成技法や作成効率を高める作成ツールを提供します。さらに、OCW、YouTube などを活用したオンデマンド学習の推進と、これら教育コンテンツ再利用のための著作権処理システムや SNS の活用を図ることで、学内外も含めた知の公共化と学びの共同体の醸成をリードします。



イノベティブ・コンテンツ・デザイン部門

最新 ICT を活用した魅力ある電子教材の提供と開発支援

- 対話型 3 次元マルチメディアや競争原理 (ゲーム性) の活用
- スマートデバイスやデジタル放送等の新技術に対応する教材の開発
- コンテンツの再利用と再編集を可能とする基盤技術の研究開発
- 高大連携による対話型電子教材の開発とその支援

イノベティブ・オープン・エデュケーション部門

知の公共化により自律的な学習者を養成する
教育方法と電子教材の開発

- 講義等ビデオ教材、代表的研究者紹介ビデオ、MOOC の制作
- インストラクショナルデザインに基づく教育方法、電子教材の開発
- 多彩なチャンネルによるビデオ等教材の公開 (OCW、YouTube、iTunes Podcast、QIR、研究情報システムなど)
- 著作権に関する電子教材開発者向け講習会等の開催

教育コンテンツの一部は、教材開発センターのウェブサイト、九州大学 Youtube、JMOOC、九州大学オープンコースウェア、九州大学 iTunes で公開しています。



<https://www.jmooc.jp/providers/kyushu-u/>



<http://www.icer.kyushu-u.ac.jp>



<http://www.youtube.com/KyushuUniv>



<http://ocw.kyushu-u.ac.jp>



<http://itunes.icer.kyushu-u.ac.jp>

大学ICT推進協議会2019年度年次大会ガイドブック

発行期日 2019年12月12日

発行者 一般社団法人大学ICT推進協議会
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学 企画・情報部内

編集 2019年度年次大会実行委員会

印刷 城島印刷株式会社
〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2丁目9番6号
TEL : 092-531-7102 FAX : 092-524-4411

AXIESは、会員間の相互連携・協働を通じて、我が国の高等教育機関及び学術研究機関における情報通信技術を利用した教育、研究、経営等の高度化を図り、もって我が国の教育、学術研究、文化及び産業の発展に寄与することを目的として設置されました。

❖ 年次大会 ❖

次回年次大会は
2020年12月に大阪大学を中心に開催

全体会、基調講演、表彰式、
企画セッション、一般セッション、
展示会、情報交換会などを予定して
います。



❖ 通常総会 ❖

次回通常総会は2020年5月中旬に開催



事業報告、決算報告、事業計画、
予算計画、役員改選などを行います。
CIO部会会議、CIO向け講演会も
予定しています。

❖ 情報倫理デジタルビデオ小品集7 ❖

大学生向けの情報倫理ビデオ教材を
作成しています。
2018年11月に第7版を作成しました。
正会員には、会員価格が適用されます。



❖ 会員特典 ❖

AXIESでは、正会員向けに種々の特典を用意しています。
・日本マイクロソフト株式会社との包括ライセンス契約
・トレンドマイクロ株式会社の専用特別ライセンス
・株式会社日経BP「日経パソコンEdu」特別プログラム
・Dropbox Japan株式会社の専用特別ライセンス
・株式会社内田洋行「ウチダのOffice学割」特別プログラム など

詳細は以下をご覧ください。
<https://axies.jp/ja/privilege>

❖ CIOセミナー(CIO向け講演会) ❖

会員大学のCIO向けのセミナーを開催

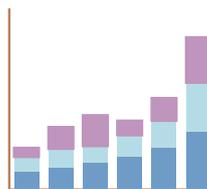
【最近のテーマ】

- ・ これからの次世代電子学習環境
(NGDLE)の可能性とその問題点
- ・ EDUCAUSE会長とのトークセッション
- ・ 大学における情報セキュリティ
ーこれまでとこれからー



❖ ICT利活用調査 ❖

我が国の高等教育機関における
ICT利活用の実態や課題を調査し、
ICT利活用の在り方を提案します。
BYODを活用した教育改善に関する
調査研究を行い、高等教育の質の
向上に役立てます。



部会のご案内

AXIESは、13の部会でそれぞれ活動しています。

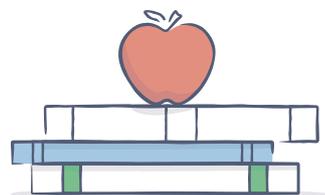
CIO部会
ITベンチマーキング部会
情報教育部会
オープンソース技術部会
学術・教育コンテンツ共有流通部会
ソフトウェアライセンス部会
認証連携部会

クラウド部会
ICT利活用調査部会
教育技術開発部会
高品質・セキュリティICT部会
研究データマネジメント部会
ORCID部会

※部会活動への参加を希望される場合は、office@axies.jp までご連絡下さい。

大学を含む教育機関向け Dropbox をブースにてご紹介しております。
ぜひお立ち寄りください。

高等教育機関で最も利用されている ファイル同期/共有サービス



Dropbox Education は、多くのユーザーに愛用されている共同作業ツールです。どこでも、どのデバイスでも利用でき、学内の教職員や学生をつなげます。また、学内のデータ管理に必要な管理機能と可視性を実現する、エンタープライズレベルのセキュリティ機能を備えています。

4人に1人

アメリカの大学生の約 4 人に 1 人が
Dropbox の個人用アカウントを所有

6,000校

世界中の 6,000 校以上の教育機関の
教員と学生が Dropbox を利用



関西大学
KANSAI UNIVERSITY



明治大学
MEIJI UNIVERSITY



Dropbox Education は LMS とともに、とっても仲良し
教材や学習資料のオンラインストレージとして、Dropbox
Education は LMS と連携。リンクをコピーするだけで、すぐ
に授業で活用。クラウドだから、授業後や学外からのアクセスも
かんたん。教材は複数で共同作成したり、コメントを受け取ったり
することも可能。変更があってもその都度コピーする必要はなく、
リアルタイムに更新されます。



Paper で学生同士のコラボ（協同作業）を支援

Paper はグループワークにぴったりのプラットフォーム。はじめに、
議事録を作成しておけば、作業を共有のノートブックに明確化。
ToDo 機能で効率よく作業分担することもできます。学内外の
参加者による共同作成も可能。リアルタイムに共同編集が行える
ほか、資料を添付したり、コメントを記入したり、完成版をプレゼン
テーションモードで発表したりできます。



提出専用の魔法の箱、ファイル リクエスト

提出物の回収に最適な専用フォルダーも。専用のフォルダーが
作成され、自分が保存したファイルしか確認できないため、安心して
提出物をアップロードできます。リクエスト フォルダーにファイル
がアップロードされると、依頼したユーザーに通知。メールを
トラッキングし、添付ファイルを確認し、パソコンに保存しなおす
手間もありません。



容量とバックアップの心配がいらぬフォルダー

Dropbox Education は、15 GB × ユーザー数のチーム
フォルダーを提供。学部や学科ごとにストレージを確保する必要
もなく、リンクを送信するだけで簡単に共有できます。さらに、
Dropbox フォルダーに保管すれば、アプリが自動的に同期する
ため、バックアップ作業自体が不要に。最大120日間、ファイルの
バージョン履歴を保存するため安心です。

